

# 「八幡史学館」資料 第7シリーズ 平成24年

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
1	平成24年度 八幡公民館 主催事業一覧				
	八幡史学館写真アルバム				
	八幡公民館主催事業「八幡史学館」第12シリーズ				
2	◎	第1回講座=プロローグ、菊間藩士「代々公私留め」にみる水野藩の歴史			
		菊間・岡田家文書(ゲスト参加=黒沢さん)	平成24年7月14日	山岸弘明	
		お陰さまで7年目を迎えました 水野忠和家(子爵)系図			
		水野家の菊間転封と岡田家文書、宇喜多秀家から水野忠清へ=関ヶ原合戦で浪人、松本御大変=忠恒乱心で改易			
		水野忠友と忠誠の活躍、明治維新の戦いと武士の廃業、む			
		水野家の菊間転封と岡田家文書、宇喜多秀家から水野忠清へ=関ヶ原合戦で浪人、松本御大変=忠恒乱心で改易			
		水野忠友と忠誠の活躍、明治維新の戦いと武士の廃業、む			
		浪人生活=苦難の4代123人、水野忠友沼津5万石栄進で帰参かなう、ペリー来航と安政の大地震			
3	◎	第2回講座=①清水あき子さんに聞く「海の町と魚惣の思い出」(インタビュー、魚惣間取り)			
		②第四十七国立銀行(5円、1円八幡国立銀行紙幣)	平成24年8月28日	山岸弘明、佐倉東雄	
4	◎	第3回講座=城歩き基礎講座「天守と石垣」	平成24年9月25日	山岸弘明	
5	◎	第4回講座=バス研修「鶴舞城址と大多喜城を歩く」	平成24年10月21日	山岸弘明	
	◎	明治維新5万石藩庁舎と「徳川四天王」本多忠勝居城			

	八幡公民館主催事業「電車でいざ鎌倉」				
6	◎	感動の「切通し旧道」と新田義貞「鎌倉攻略の道」を歩く	平成24年5月12日	山岸弘明	
7	◎	現地研修＝鎌倉(稲村ヶ崎、極楽寺坂、大仏坂切通)	平成24年5月26日	山岸弘明	
8	◎	特別講座+1「北鎌倉から鶴岡八幡宮と大蔵御所跡を歩く」	平成24年6月1日	山岸弘明	
	辰巳公民館主催事業「江戸、東京歴史散歩」				
9		第1回講座＝講座(徳川将軍家と上野寛永寺)	平成24年9月4日	山岸弘明	
10		バス研修＝谷中、寛永寺、徳川家霊廟特別参拝(山内図)	平成24年10月2日	山岸弘明	
	辰巳公民館主催事業「市原の歴史」				
11		第1回講座＝地元学「市原を知ろう」	平成24年9月14日	山越國臣	
12		第2回講座＝バス研修「市原地区、八幡地区、埋文センタ	平成24年10月9日	山越國臣、山岸弘明	
13		第3回講座＝地元学「市原を知ろう」	平成24年10月11日	山越國臣	
	市原市立中央図書館歴史講座				
14		戦前の八幡を老舗から探る	平成24年3月24日	佐倉東雄	
		①「千葉県八幡町梗概」＝飯香岡八幡宮御神徳略記、商工庶家案内			
		②「千葉県百家名鑑」(明治37年＝千葉文庫ほか)、③「上総八幡誌」(昭和7年＝市川良輔)商店広告			

平成24年度 八幡公民館 主催事業一覧

☆募集のお知らせは、広報いちほら15日号に掲載  
☆申し込みは18日朝8:30より窓口または電話(4184)にて受付開始

☆内容・期日は、変更になる場合があります。

平成24年 3月10日 現在

No.	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	受付日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	牛乳パックのエコ	2	川井満智子 お昼寝枕や手拭きを作り、リサイクルの意識を高める。	9:30~11:30 一般成人・20名	3/18 (日)	11 12 水 木													
2	小学生の卓球教室	3	寺尾泰文 子どもと大人との世代間の交流を図りながら卓球の基礎を学ぶ。	9:30~11:30 小学生・20名		14 28 土 土	12 土												
3	お話し広場	20	お話しボランティア 絵本の読み聞かせ、紙芝居などで大切な子どもの心を育む。	10:00~10:40 幼児と小学生と親	直接	7 21 土 土	19 土	2 16 土 土	7 21 土 土		1 15 土 土	文化祭 6 20 土 土	3 17 土 土	お楽しみ会 1 15 土 土	19 土	2 16 土 土	2 16 土 土		
4	お元気体操	3	地域包括支援センターたつみ 転倒予防に必要な運動を続けることの大切さを学び、若返りを図る。	9:30~11:30 60歳以上・30名	3/18 (日)	16 月	7 月	4 月											
5	初級社交ダンス	4	伊藤 功 社交ダンスの基礎を学び、交流を深めながら心身の健康を目指す。	13:30~16:00 一般成人・30名		17 火	15 火	12 火	10 火										
	陶芸教室	7	根本正男 陶芸の基礎技術を身に付け、土に親しむ。	13:30~16:00 一般成人・15名	3/18 (日)	20 金	25 金	8 金	6 20 金 金	3 24 金 金									
7	子育てすくすく(前期)	5	中嶋愛子 八幡消防署 お話しボランティア 北崎文枝 体育協会	10:00~12:30 幼児と保護者・20組		講話 23 月	身の守り方 21 月	読み聞かせ 25 月	着付け 16 月	母親の体験 20 月									
8	さわやか春の歌	1	両角八重子 春の歌や青春の歌を謳歌し、心のリフレッシュを図る。	9:30~11:30 一般成人・40名	4/18 (水)	25 水													
9	野菜作り体験	6	仲村マチ子 体験を通して野菜作りの基礎を学ぶと共に収穫の喜びを分かち合う。	8:30~11:00 家族や友達・15組				6 日	10 日	1 日	5 日	2 日		4 日					
10	電車で「いざ鎌倉」	2	山岸弘明 鎌倉の歴史を学び、鎌倉切通しと古刹を巡る。	13:30~15:30 一般成人・40名抽選	4/18 (水)		12 26 土 土												
11	男の簡単料理	1	木村みどり 食生活を見直し、簡単なおかずを作ることが出来る。	9:30~12:00 一般成人・20名				30 水											
12	英語で遊ぼう	4	八木香桜里 英語によるゲームや浅草での英会話体験を通じ、英語に慣れ親しむ。	9:30~11:00 小学1、2年生と保護者10組 抽選	6/18 (月)					バス 8 22 29 日 日 日	17 金								
13	救命講座	1	八幡消防署 夏休み前に、AEDや人工呼吸などの心肺蘇生法を学ぶ。	9:30~11:00 一般成人・15名						15 日									
14	八幡史学館	4	山岸弘明 八幡、市原地区の歴史を掘り起こし、その背景を学ぶ。	9:30~11:30 一般成人・40名抽選	6/18 (月)				八幡名所 17 火	江戸産民 28 火	菊間藩 25 火	バス 21 日							
15	パソコン上級教室	1	鍋島 隆 パソコンの初級・中級教室で、アシスタントができることを目指す。	9:30~11:30 一般成人・5名						人材育成 25 水									
16	パソコン初級教室	2	鍋島 隆 パソコンの基本操作を学び、ワードで暑中見舞いのハガキを作る。	9:30~11:30 一般成人・20名	7/18 (水)					ワード 30 31 月 火									
17	伝統文化に親しむ	1	篠田希代鼓・大野由美 茶道や舞踊の実体験を通して、和の心や礼儀作法を学ぶ。	9:30~11:30 小学4~6年生・20名							2 木								
18	パソコン中級教室	2	鍋島 隆 エクセルの基本操作を学び、家計簿やカレンダーを作る。	9:30~11:30 一般成人・20名	7/18 (水)					エクセル 6 7 月 火									
19	一日図書館員	1	中井浩子 図書室の仕事を体験し、図書室及びそこで働く人への理解を深める。	9:00~12:00 小学4~6年生・6名							9 木								

土曜日は本の日  
お話し広場で読み聞かせを聞いたり、図書室で本を借りたりしませんか。

出来上がった作品は、公民館の文化祭に出品します。




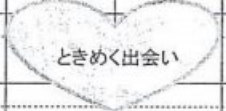




子育てについて様々な事柄を学ぶと共に親同士との交流を深め、支え合える仲間づくりを目指します。(講座の後半に親同士のディスカッションの場を設定して身近な悩みも共有します。)

潤井戸の畑で野菜を育てます。有機肥料で肥えた土は黒々とし、「土に力有り」と感じる程、見事な野菜が収穫できます。

バス研修では、大多喜城とその城下を巡ります。城郭の特徴を捉え、歴史的背景を学んでいきます。

日本の伝統文化に親しんでもらう講座です。2グループに分かれ、前半と後半に「静」と「動」を味わいます。凛とした雰囲気を実験できることでしよう。



No.	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	受付日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
20	親子パン作り教室	1	二階堂ゆうみ 親子でパン作りを体験し、手作りの 楽しさ、大切さを学ぶ。	9:20~13:00 小学生と保護者・10組	7/18 (水)					19 日								
21	絵手紙	1	森 幸子 夏休みの思い出を絵手紙で表現す る。	9:30~11:30 小学生・20名						25 土								
22	ペン習字	4	南部記代子 勤め帰り、気軽に参加してボールペ ンや筆ペンで文字の練習をする。	18:00~20:00 一般成人・15名							夜間講座 7 21 金 金	12 26 金 金						
23	子育てすくすく(後期)	5	ぶろべら雑技団 千葉友の会 保健センター 人形劇団とんとん 荒井栄子	10:00~12:30 幼児と保護者・20組							子育てについて様々な事柄を学ぶと共に親同士の交流を深め、支 え合える仲間づくりを目指します。(講座の後半に親同士のディスカッ ションの場を設定して身近な悩みも共有します。)	人形劇 食育 10 15 月 月	予防・悩み 19 月	造形遊び 10 月	子育て相談 14 月			
24	ヨガ教室	4	浜 賢太郎 ゆったりとした呼吸に合わせた動き で心と体を鍛える。	14:00~16:00 一般成人・25名	8/18 (土)						12 26 水 水	10 24 水 水						
25	おと 家読	3	国際こども図書館・市中央図書館 家での読書を推進する人材の育成 を図る。	9:30~11:30 一般成人・30名抽選							バス 13 木	11 木	8 木					
26	いんど 彩サロン	4	南郷篤子 石井 勇 鳥海 哲子 齋藤恭子	9:30~12:00 一般成人・30名抽選							学習を通じてゆとりと潤いを持ち、人としてより良い生活の向上を目 指します。バス研修では、お台場に出かけ、船の科学館・フジTVを 見学します。	料理 バス 27 23 木 火	男女参画 22 木	生け花 27 木				
27	さわやか秋の歌	2	両角八重子 みんなで楽しく歌うことで、気分をリ フレッシュし活力を高める。	9:30~11:30 一般成人・40名	9/18 (火)							3 17 水 水						
28	集まれ! バスケ仲間	4	バスケットボール協会 青少年の親睦を図ると共にスポー ツ精神やマナーを学ぶ。	18:30~20:30 社会人、大学生・30名							仕事帰りに公民館でいい汗を流しませんか?		夜間講座 2 9 16 30 金 金 金 金					
29	園芸プロの技	1	農業センター プロが持っている株分けや挿し木、 接ぎ木の技術を学ぶ。	9:30~11:30 一般成人・20名	10/18 (木)								13 火					
30	ステキな出会い	1	共に体験を楽しみ、歓談のひと時を 過ごす出会いの場とする。	9:30~15:30 独身者・40名									ときめく出会い 25 日					
31	健康料理	1	木村みどり 健康に良い食材の効能を知り、そ れらを使って料理をする。	9:30~12:00 一般成人・20名									28 水					
32	いきいき八幡塾	4	山口由富子 古滝修三 市・環境管理課 市川喬子 白井久美子	13:30~15:00 一般成人・40名							「生きる」をテーマに地域の課題を多角的に学びます。放射能や液状化 についても詳しく学びます。		環境 8 土	防災 12 土	人権 9 土	歴史 9 土		
33	正月料理	1	南郷篤子 日本古来のおせち料理の作り方を 学び、レパートリーを増やす。	9:30~12:00 一般成人・20名	11/18 (日)								14 金					
34	書き初め教室	2	鍋島恵美子 一人ひとりを大切にした指導のもと、興 奮き初め展の課題に取り組む。	9:30~11:30 小学3~6年生・20名										冬休みの宿題を公民館で取り組みましょう。めきめき上達します。 22 24 土 月				
35	春のお菓子	1	南郷篤子 異年齢の児童・生徒が協力して春 のお菓子を作る。	9:30~12:00 小、中学生・20名	12/18 (火)										26 土			
36	旅にうたう	2	宮本敬一 正岡子規など房総にゆかりのある 文人の詩歌と足跡を学ぶ。	9:30~11:30 一般成人・40名											27 日	24 日		
37	エコ古布雛人形	2	川井満智子 雛祭りに合わせて、古布を使って雛人 形を作り、エコ意識を高める。	9:30~11:30 一般成人・20名	1/18 (金)											6 7 水 木		
38	太巻き寿司	1	上田悦子 郷土料理である祭り寿司を作るこ とにより、技量を高める。	13:00~15:30 一般成人・16名													21 木	
39	福寿大学	6	奈良輪雄彦 高綱陽子(男児養育)	13:30~15:30 シニア会員100名	募集なし	講話 30 月		ふれあい演習会 18 月		健康講座 9 日		グラウンドゴルフ 5 月		お楽しみ会 21 月			バス 15 金	

身近に本を!  
家で取り組む読み聞かせ



八公運委 37号  
平成24年 3月17日

山岸弘明様

市原市立八幡公民館  
館長 河野 一雄

八幡公民館主催事業の講師について(依頼)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。  
平素、公民館事業に関し格別なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
さて、当公民館主催事業『電車で「いざ鎌倉」』『八幡史学館』を下記のとおり開催いたします。  
ご多用の恐れ縮ですが、事業の講師としてご指導を賜りたく、よろしく願いいたします。

記

- 1. 事業名                    電車で「いざ鎌倉」  
                                 八幡史学館
  
- 2. 依頼日時                平成24年 5月12日(土) 13:30~15:30  
                                 5月26日(土) 7:20~17:30  
                                 (電車で「いざ鎌倉」)  
                                 平成24年 7月17日(火) 8月28日(火)  
                                 9月25日(火) 9:30~11:30  
                                 10月21日(日) 8:40~17:00 (八幡史学館)
  
- 3. 場 所                    八幡公民館 視聴覚室、 大多喜方面 (バス研修)
  
- 4. 内 容                    鎌倉の歴史、鎌倉切通しと古刹の巡見  
                                 八幡、市原地区の歴史
  
- 5. 受講対象者              両講座共に 一般成人 40人
  
- 6. その他                    ・受講者への配布資料や公民館で用意するものにつきましては、事前  
                                 にご連絡いただけましたら幸いです。  
                                 ・印鑑をご持参ください。

〒290-0062  
市原市八幡1050-1 担当 清水優子  
TEL 0436-41-1984  
FAX 0436-43-7457

# 八幡史学館

7月17日 スタート

第1回 講師 山岸 弘明 氏

菊間藩士「岡田家代々系図、公私留め」にみる水野藩の歴史



菊間在住の岡田様より貴重な資料をお借りし、幕末から明治にかけての水野藩の歴史について講師から熱心な講義を受けました。



第2回

「海の町と魚惣の思い出」

元女将 清水あき子さん

熱心に聞き  
入る受講者



「八幡港」の明治から昭和戦前期は、五大力船の行き交う物流拠点として発達、魚惣は連日船乗りたちの宴会で賑わった。高度成長期には、八幡海岸は、海水浴、すだてなどの行楽地になり魚惣のあきさんも、「納涼台」の店頭に立った。



いにしへの「魚惣」の思い出を語る清水あき子さん



清水さんにインタビューする山岸氏

「第四十七国立銀行」  
について  
佐倉東雄



まだまだお若く、元気いっぱい



# 八幡史学館

山岸 弘明

## 城歩き基礎講



「八幡史学館」を牽引して下さる山岸氏。今回、念願の八幡の歴史をまとめた本が、完成。



国上4天守  
姫路城・松本城・彦根城・犬山城、と  
国宝御殿 二条城、の  
「天守と石垣」を講義



鶴舞城は、元老中井上正直6万石の居城。大多喜城は、徳川四天王本多忠勝10万石、松平大河内2万石の居城であった。次回は、バス研修で2つの城跡を巡る。

## バス研修「鶴舞城址・大多喜城を歩く」 10・21(火)



鶴舞城 2の丸跡の高台から城下を望む

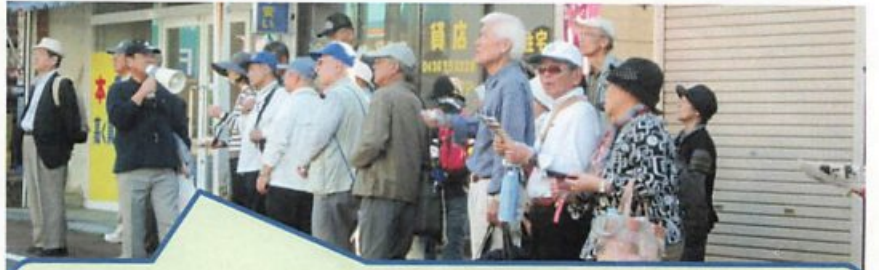


薬医門をくぐる



鶴舞藩校跡で、講師の話を聞く。  
「克明館」は、先代藩主井上正春が、浜松城時代に開校した藩校。浜松から鶴舞に移転された。

現在、県立大多喜高校となっている所には、大多喜城の大井戸が残されている。



石井氏が、大多喜城下で、国の重文「渡辺家」や大手門の材料を使用したと伝えられている「伊勢幸酒店」などを案内する。

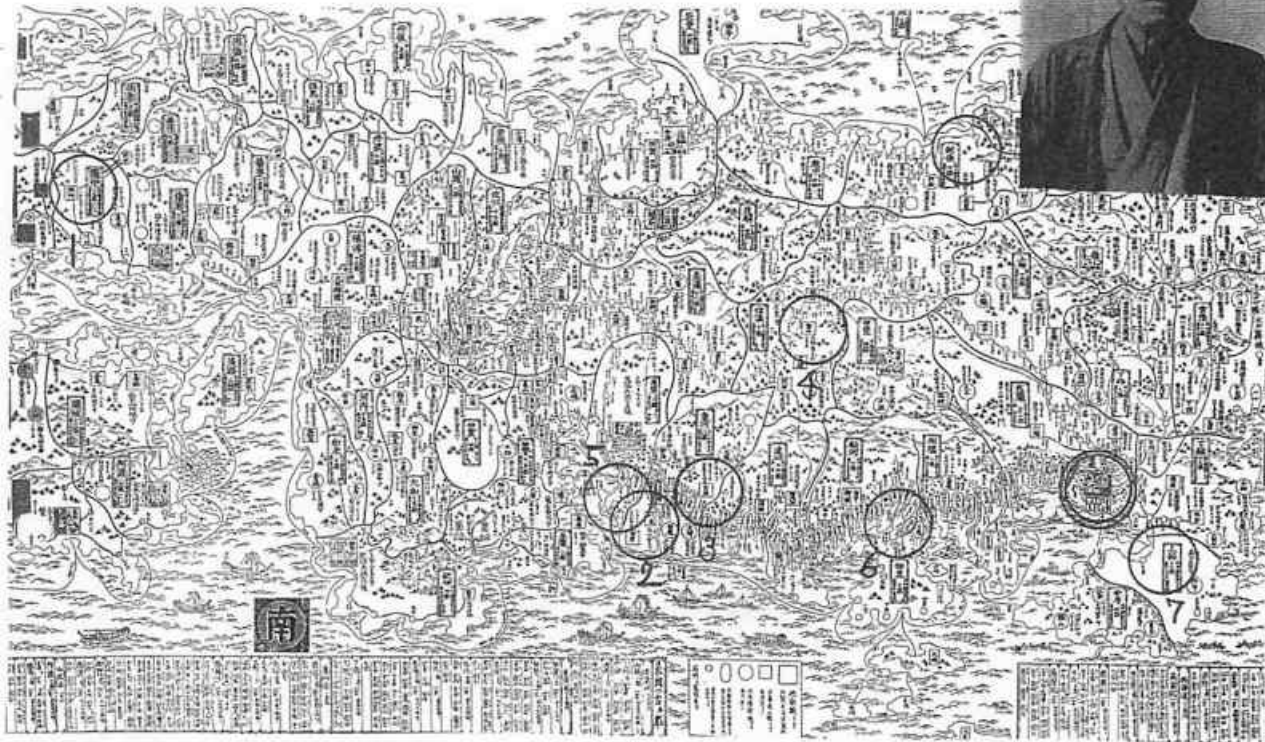


①プロローグ、菊間藩士「代々公私留め」にみる水野藩の歴史

山岸弘明

次回以降のスケジュール

- ②8月28日(火曜日) 清水あき子さんへ聞く「海の町と魚惣の思い出」  
八幡「四十七国立銀行」について(ゲスト講師=佐倉東雄)
- ③9月25日(火曜日) 城歩きの楽しみ(城郭基礎講座)、次回バス研修の見どころ
- ④10月21日(日曜日) バス研修=大多喜城と鶴舞城跡を歩く



一家塚現米拾石  
 天保七年丙申十月廿五日父家督被申付明治元年戊辰十月廿四日菊間藩分轄三河国豊海郡大派支庁在勤同二年己巳十二月一日菊間藩實風被仰出同三年庚午九月十五日藩政改革ニ依テ當國へ移轉被命同四年辛未七月十四日菊間藩被廃藩置縣同一年十一月十三日菊間縣被廃木更津縣實風同五年壬申十月廿二日被列士族同六年六月十一日關戸長理命同年六月十五日木更津縣被廃千葉縣實風同七年一月十八日關ニ依テ副戸長被差免同年十月廿八日村用掛り拜命同八年四月三十日菊間学校事務掛拜命同九年二月八日第五大区六小区副戸長拜命

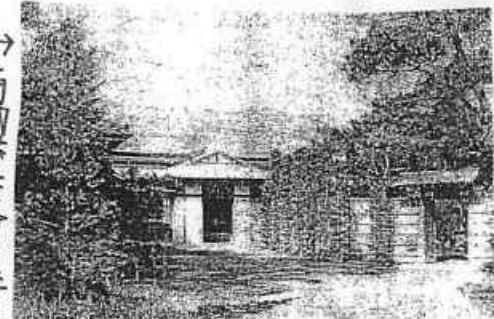
閨田程八  
 旧名程八郎  
 明治九年五月五十五歳八月七日歿  
 母久松八七  
 父 弥助



菊間藩主・水野忠敬の書(秋葉平氏所蔵)  
 濟其美隲其名  
 その美をなし、その名を落とさず 源忠敬  
 中国の「春秋左氏伝」=後代の人が前代を受けついでその美徳を完成するをいう  
 教育勸語=世々その美をなせるは(これわが国体の精華にして教育の淵源)

鶴牧藩主・水野忠実の書(青木くに氏所蔵)  
 青松弄色多し  
 菊間水野家分家。鶴牧藩第2代藩主。西の丸若年寄

旧菊間藩士「岡田家代々系図ならびに公私留め」にみる水野藩の歴史  
 岡田家は代々譜代足輕を勤めた菊間水野家の下級藩士で3両2人扶持、版籍奉還後、明治3年の家禄は10石であった。藩での身分は決して高くはなかったが幕末から明治にかけての当主程八の残した私的日記や「公私留め」は詳細かつ正確、中央と藩の政治や社会の動き、藩士たちの勤務と日常生活、明治維新での旧武士たちが新しい時代に向けて生活を切り替えていく様子が克明に記録されている。江戸時代大名や上級藩士宅に残された文書は数限りないが一般藩士の記録はほとんど皆無といってもいいだろう。そうした意味からも同家文書の歴史的史料価値は計り知れないといえる。本講座では旧菊間藩士岡田程八がまとめた「岡田家代々系図ならびに公私留め」をベース資料に藩士と藩主のかかわり「菊間水野藩の歴史」を振り返ることにしたい。



→沼津城

→菊間藩士岡田家

歴史的にも珍しい  
 幕 明治調べに



## お陰さまで7年めを迎えました

## 「八幡史学館」 プロローグ

①八幡史学館文庫（資料バックナンバー）＝図書室に常備。コピーできます。

## \*平成18年度＝

- ①八幡の歴史、神話から江戸開府まで
- ②〃 江戸時代の八幡
- ③現地巡検＝飯香岡八幡宮探検隊
- 参考\*こども八幡史学館
- 参考\*女性セミナー＝大名庭園、(バス)北の丸公園と江戸城東御苑、(バス)小石川後楽園を歩く
- 参考\*いきいき講座＝(バス)浜離宮庭園

## \*平成19年度＝

- ①「やわたむかし写真館」の世界
- ②伝八幡御所＝足利義明とその時代
- ③現地巡検＝八幡北部を歩く
- 参考\*女性セミナー＝(バス)谷中と上野寛永寺を歩く
- 参考\*辰巳公民館すこやかカレッジ＝(バス)芝離宮庭園と芝増上寺を歩く
- 参考\*市原市教育研究会社会科部会＝むかし八幡は海の町だった、八幡宿巡見、村絵図と古写真にみる八幡海岸の400年

## \*平成20年度＝

- ①飯香岡八幡宮別当寺＝靈応寺と満徳寺
- ②徳川幕府創設期の本多正信、正純父子と八幡
- ③八幡・五所地域の方言、いなか弁を散歩する
- ④現地巡検＝隣町浜野を歩く
- 参考\*女性セミナー＝(バス)築地、明石町と佃島を歩く
- 参考\*辰巳公民館すこやかカレッジ＝「篤姫」と江戸城大奥、(バス)江戸情緒の残る築地と明石町や佃島を訪ねる

## \*平成21年度＝

- ①市川本店、小川屋にみる八幡の醤油製造
- ②ドキュメント激動する慶応4年の八幡
- ③八幡周辺の句碑、歌碑を訪ねて
- ④現地巡検＝菊間城址を歩く

## ②公民館だより「ふるさとの歴史＝八幡公民館エリアものがたり」

全15回シリーズ

- (1) はじめに海ありき、八幡のあけぼの(有史前)
- (2) 国造と大型古墳、地方政治のはじまり(古墳時代)
- (3) 国府と古代官道、更級日記の時代(奈良、平安時代)
- (4) 源頼朝から足利義明へ、武士の時代(鎌倉、室町時代)＝9月発行予定

匿名読者(高校生)からの投書＝興味をもって姫宮古墳などを歩いたが草が茂り整備されていない  
地元町会から市申し入れ＝市用地部分の除草、看板整備など回答あり

## ③八幡公民館事業歴史講座「電車で行く、いざ鎌倉」全2回＋追加1回＝実施済み

辰巳公民館事業歴史講座「バス研修＝谷中と寛永寺を歩く」全2回＝9月4日、10月2日(火曜)

参考\*辰巳公民館すこやかカレッジ＝(バス)岩崎邸と上野不忍池を巡る

参考\*〃 歴史散策＝江戸城と大江戸八百八町、(バス)御茶ノ水、霞ヶ関を訪ねる

参考\*中央図書館歴史講座＝遠浅の海、思い出すままに

## \*平成22年度＝

①旧若宮八幡宮の幕府関連文書から郷土史とのかかわりと背景を探る

②飯香岡八幡宮の絵馬、人身売買書付ほか

③写真でみる八幡五大力船

④現地巡検＝「柳盾神事の里」を歩く

参考\*辰巳公民館すこやかカレッジ＝(バス)相模と忠臣蔵の町「両国」を歩き江戸博を見学する

参考\*〃 歴史散策＝江戸城と江戸城下、(バス)貨幣博物館と江戸城を歩く

## \*平成23年度＝

①八幡のあけぼの

②幕府直轄領と旗本知行所、名主文書にみる八幡

③八幡、五所の海苔生産の話

④現地巡検＝(バス)千葉城と生実城を歩く

⑤+1現地巡検＝千葉市埋蔵文化財センターと足利義明ゆかりの小弓城を歩く

参考\*いきいき八幡宿＝大野丈助の足跡を訪ねて

参考\*辰巳公民館歴史散策＝お江と江戸と大名庭園、(バス)芝増上寺と芝離宮庭園を歩く

\*このほか郷土関係資料、関係古文書コピーなどを蔵書(一部別途保管)しています



水野忠和(子爵)

(諸侯) 駿河沼津 後、上総菊間 五万石

112 文京区千石四一三三二一五  
〇三三三九四七一三二二八  
現職 順天堂大学助教授

水野忠重 河内守 右京大夫 出羽守 左京大夫 文化四一、一四生 安政五、五、六承 文久一、一八八、二〇〇承 明治七、一、五没

水野忠誠 本多(同前)忠孝四男 出羽守 羽後守 天保五、七、二五生 文久一、一八八、二〇〇承 慶應一、九、一四没

水野忠敬 水野忠明二男 出羽守 羽後守 天保四、七、一〇生 慶應一、一〇、二九承 明治四〇、八、一七没

水野忠亮 水野忠明三男 出羽守 羽後守 天保四、七、一〇生 慶應一、一〇、二九承 明治四〇、八、一七没

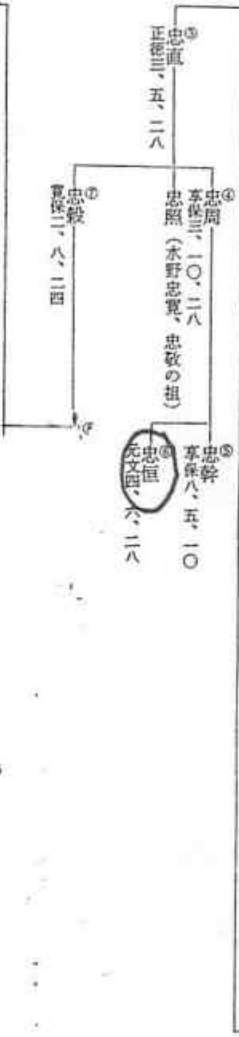
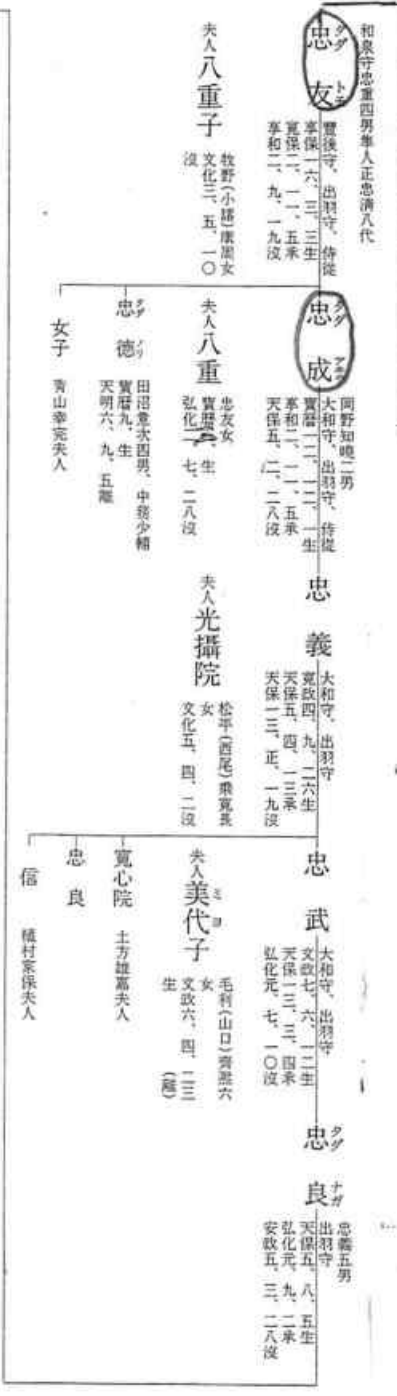
水野忠信 水野忠明三男 出羽守 羽後守 天保四、七、一〇生 慶應一、一〇、二九承 明治四〇、八、一七没

水野忠子 水野忠明三男 出羽守 羽後守 天保四、七、一〇生 慶應一、一〇、二九承 明治四〇、八、一七没

水野忠政 水野忠明三男 出羽守 羽後守 天保四、七、一〇生 慶應一、一〇、二九承 明治四〇、八、一七没

水野忠和 水野忠明三男 出羽守 羽後守 天保四、七、一〇生 慶應一、一〇、二九承 明治四〇、八、一七没

水野忠知 水野忠明三男 出羽守 羽後守 天保四、七、一〇生 慶應一、一〇、二九承 明治四〇、八、一七没



当家は結城水野家の分家で、水野忠重の四男忠清を祖とする。忠清は慶長七年上野小幡一万石を与えられ、元和二年三河刈谷二万石に移り、寛永九年三河吉田四万石に転じ、同十一年五千石を加えられ、同十九年信濃松本七万石に移封された。忠恒は享保十年殿中において刃傷沙汰をおこして領地を没収されたが、その叔父忠毅を名跡として七千石が与えられた。その男忠友は家治に信任され老中に進み、その間明和二年千石、同五年五千石、安永六年七千石をそれぞれ加増され、同年駿河沼津二万石を領有した。ついで天明元年五千石、同五年にも五千石ずつ加増され、三万石となった。その男忠成も家齊に信頼されて老中となり、文政四年と同十二年各一万石加増され、すべて五万石を領有して、以後維新に至る。忠敬の代、明治元年、徳川家達の入封により上総菊間に所領を移された。



水野家紋



# 菊間藩士「岡田家代々系図、公私留め」にみる水野藩の歴史

## 水野家の菊間転封と岡田家文書

### 1) 岡田家文書

#### ①市内菊間徳永台岡田家文書

旧菊間水野藩士岡田家伝来文書。今般瀧本平八氏を通じ数百点規模の文書、書付、古写真などを千葉県文書館に寄託された。整理中のため当分の間（およそ10年？）非公開。

#### ②「菊間藩士岡田程八日記」（岡田程八著、昭和57年、沼津市立駿河図書館で解説、刊行済み）

「明治6年および同40年現在旧菊間藩人名録」（中山長明、岡田寅三郎著、市原地方史研究第5号、市原市教育委員会刊行済み）

#### ③「岡田家代々系図ならびに公私留め」は県文書館寄託以前、同家と瀧本氏の協力で行なった文書調査でお借りした伝来文書の一つ。「市原の古文書研究会」で解説、全文を「市原の古文書研究\*第6集」（明平成25年刊行予定）掲載の予定。

#### ④本書には豊臣時代の初代重直から始まり明治維新9代重勝まで300年間におよび系図と、代々の諸記録を網羅している。

### 2) 沼津水野藩の菊間転封

#### ①慶応4年1月鳥羽伏見の戦いに敗れた15代将軍徳川慶喜は4月水戸へ退去し、新政府は徳川家の相続人を田安德川家の亀之助（家達）として5月駿府に封じて70万石を与えた。

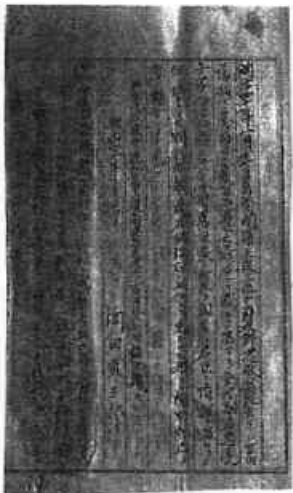
#### ②徳川宗家の駿府入府にともない駿河、遠江2か国の7大名は旧幕領、旗本領であった房総地方に移封が命じられた。

#### ③同時に転封された7藩は（\*印市原郡）

遠江浜松藩6万石	井上正直	上総鶴舞藩*
駿河沼津藩5万石	水野忠敬	上総菊間藩*（内2万3千石市原、残りはそのまま）
遠江掛川藩5万石	太田資美	上総柴山藩→上総松尾藩
駿河田中藩4万石	本多正訥	安房長尾藩
遠江横須賀藩3万石	西尾忠篤	上総花房藩
駿河小島藩1万石	松平瀧脇信敏	上総金崎藩→上総桜井藩
遠江相良藩1万石	田沼意尊	上総小久保藩

#### ④市原郡の海岸部に封地を与えられた水野家では菊間台地を城地として選定、工事に掛る。沼津在住藩士400世帯、3000人が菊間周辺に転入、寒村に一大城下町が誕生した。

#### ⑤築城工事も急ピッチで始まり、公がい（役所）や御殿、医局などが完成するが、明治2年版籍奉還が行なわれ、4年廃藩置県となった。本格築城（藩庁舎）は未完成のまま終わる。図面現存なく縄張り未詳。



寄当明細帳冊

岡田程八日記

岡田家系図  
 清和源氏備中守國岡田御世嗣九郎重直公の孫  
 作朝孫公敏公淳公胤言秀家公家長有隆浪公  
 一彦長公家公平八月十九日拾遺承公三守所御城主  
 水野算入公佛忠備公家長公家行孫公勲重直公家  
 十月六日所公家敏公行孫公家長公家行孫公勲重直公家  
 二代目 重直公 行孫公家敏公家行孫公家長公家行孫公勲重直公  
 岡田庄助重直

岡田家代々系図

重勝二夜



## 松本御大変＝忠恒乱心して改易 御手判頂戴して離散

第4代 岡田庄左衛門重房（重芳むこ養子、実はおい＝水野藩士、浪人）

①元禄15壬午年正月15日召し出され、享保8癸卯年正月28日家督、歩行役相勤めまかりあり候ところ、享保10乙巳年7月御大変につき浪人、御手判頂戴仕り離散仕り、その後宝暦4甲戌年5月13日行年79歳にて死す。

\*突然の改易で多くの家臣が浪人となった

②御手判＝信州松本浪人 岡田庄左衛門

右いず方出るも相対しだい遠慮なく借宿すべきものなり

享保10乙巳年10月 大草太郎左衛門 御印

松平九郎左衛門 御印

\*水野忠恒＝忠幹の弟、従五位下隼人正、享保8年家督、同10年7月28日発狂し毛利主水正師就に疵つくるにより領地没収、秋元伊賀守番房に預けらる。元文4年卒39歳

婚礼祝いの御礼に登城した際、突然発狂して毛利主水正師就に切りつけた

\*水野忠毅＝水野忠直9男、忠恒のおじ。享保10年8月27日家の由緒をおぼし召され信濃国佐久郡のうちにおいて7千石を忠毅に賜う。元文元年従五位下出羽守、寛保2年卒36歳

## 浪人生活＝苦難の4代123年

第5代 岡田程八重只（養子＝浪人）

①正徳2年癸卯年御先筒に召し出され相勤めまかりあり候ところ享保10乙巳年7月松本御引き払いの節、重房同様浪人手形頂戴仕り、同所近在横田村と申す所へ借宅、それより翌年3月松本御城下和泉町中ほど西側へ家屋敷相求め同居、養育の番免れ小細工など致しまかりあり候。

\*重只の弟重年＝浪人の後松本御城主松平丹波守様へ徒士役に抱えられ代々まかりあり

②隣家宮村町禅宗宝泉寺檀家にて新八と申す者独身者につき後々に至り程八儀は松右衛門と改名いたしおり右新八を朝夕とも世話致し末々には家内の者同様にいたし暮らしおり候

第6代 岡田庄助重兼（重只嫡子＝浪人）

①松本和泉町において大工職渡世致し大工棟梁役仰せ付けられ相勤め年々初8俵ずつ御城主様より頂戴仕り、その後天明4甲辰年3月飯田橋乾端寺本堂再建につき御旧縁もこれあり同寺世話方致し居り候あいだ値段、下値にあわせ請負仕り滞りなく出来致し候につき同寺同道にて江戸表辰の口当御屋敷へまかり出候ところ御目見え仰せ付けられその上御紋付御上一具、御料理まで下し置かれ

第7代 岡田伴助重則（重只2男、養子＝浪人）

①右同所にて同職渡世まかりあり候ところ養父より前、寛政6年死す

第8代 岡田弥助重猶（重則嫡子＝浪人、水野藩士）

①松本和泉町において同職渡世仕りまかりあり候ところ文化11甲戌年、中仙道本山宿に御領主御番所ならびに同宿本陣御普請仰せ付けられ候ところ滞りなく出来につき御作事方大工棟梁仰せ付けられ、勤中2人扶持下し置かれ相勤め候ところ、その後退役仕りおり候ところ、天保7申年8月10日江戸表へ倅重勝同道にて出府、外桜田御屋敷へまかり出御旧縁これある者どもにつき浪人御手形持参仕り候あいだ帰参の儀願い上げ奉り候。

②恐れながら書付をもって願い上げ奉り候

一、私先祖岡田九郎兵衛儀、忠清様御代三州刈谷において召し出され、その後引き続き御代々様結構召し仕えられ候ところ、私曾祖父岡田庄左衛門儀、松本御領地の節、御歩行役相勤め、嫡子役御儀、鈴木新太夫殿組御先筒相勤めまかりあり候ところ、同所御引き払いの節浪人御手形頂戴離散仕り所持まかりあり候。(中略)このたび出府仕り帰参の儀、願い上げ奉り候につきこの段申し上げ候。

以上 天保7丙申年8月

岡田弥助印、倅同庄八印

近藤角太夫殿、中山三左衛門殿、川島多門殿

③9月5日御殿において御物頭、御勘定奉行出合い、御見あわせこれあり。

④10月2日病気の姿、名代にて御用これあり御達し、その方儀、御譜代御足輕召し出され給金3両2人扶持下し置かれ候旨御達しこれあり。しかるところ同月6日病死、御届け表向き致し候。



## 水野忠友、忠成の沼津5万石栄進で帰参かなう

- \*水野忠友＝水野忠毅嫡男、竹千代（後の將軍家重）御伽、田沼意次側近として活躍、意次の台頭とともに出世した。延享4年従五位下豊後守、明和2年1千石加増、5年若年寄6千石加増、大浜1万3千石、安永6年従四位下側用人7千石加増、沼津2万石、天明元年老中格5千石加増、5年5千石加増、老中加判勝手掛（大蔵大臣）兼務、権勢は頂点に達した。しかし天明6年意次の老中罷免で衰退、8年老中を罷免された。この後松平定信の「寛政の改革」では幕政から遠ざかったが定信が失脚した寛政8年老中に復歸した。享和2年卒72歳。三枚橋城跡地に沼津城を再興、沼津城下の整備を進めた。水野家中興の祖とされる
- \*水野忠成＝旗本岡野知暁2男、忠友のむすめ八重姫むこ養子。享和2年家督、同年従五位下出羽守、奏者番、3年寺社奉行、若年寄、文化9年西の丸側用人、14年老中格、勝手掛、文政元年老中加判、この間、文政4年1万石、12年1万石を加増、都合5万石を領有した。天保5年江戸辰の口屋敷で逝去73歳。天保3年天守に相当する本丸二重櫓を上げるなど沼津城を完成させた。
- \*水野忠義＝忠成嫡男、天保5年家督、家臣団支配に注心、岡田重勝父子もこの時召し出されている。天保13年卒51歳
- \*水野忠武＝忠義嫡男、天保13年家督、弘化元年卒21歳
- \*水野忠良＝忠義5男、弘化元年家督、安政5年卒25歳。ペリー来航後の開国期にあたり戸田警備を命じられるなど頻繁に藩士を派遣した

### 第9代 岡田常吉、庄助、庄左衛門、程八郎、程八重勝（重酒嫡子＝水野藩士）

- ①天保7丙申年10月2日御用御達し、その方儀、御足輕召し出され、御給金2両2人扶持下し置かれ父同道遠路出府につき、別段金1分これを下さる。父子一同に同日御抱えと申すこと御当家において始めなり。
- ②同10月25日忌御免、出勤まかり出候ところ番代家督、沼津表へ引越し仰せ付けられ（中略）12月25日江戸表出立、同27日沼津御城内へ着、御添え地七番御長屋下さるなり。ただし母妹同道につき箱根御関所まかり通り候、御手形頂戴致し候。
- ③同28日着御届けとして御殿へまかり出候ところ御先手一番組吉田甚五兵衛殿御組み入り仰せ付けられ勤め向きの儀は口勤仰せ付けられ候こと。
- ④天保8丁酉年3月27日御参府の節、立ち帰御供仰せ付けられ候こと
- ⑤直後の職歴要旨＝
 

天保8年	9月町方加回り、12月御束髪助、大手内御番、御剪纸御用、御束髪、給金3両2分 2人扶持＋髪付け料
〃 9年	3月通用御門番
〃 10年	10月江戸表勤番、表御門番、通用門裏御門番
〃 11年	6月通用御門番
〃 12年	8月大手外張御番所、11月江戸表勤番、裏御門番
〃 13年	6月沼津大手外御番所、10月替固、鉄砲組上席（以下省略）
- ⑥弘化元甲辰年8月23日武衛流砲術小筒目錄伝授受け候につき巻物料100疋願いのとおりに頂戴仕り、師範江本岩蔵殿へ差し出し伝授受け巻物貰い候こと。
- ⑦弘化元甲辰年7月9日忠武公御病氣御差し重きにつき益之助様御急御養子御願い遊ばされ候こと。10日忠武公御卒去遊ばされ候こと。御法号恒徳院殿稱し奉り候こと。奥様御こと松寿院と稱し奉り候こと。同8月庄の字御差しあいにつき願いのとおりに程八郎と改名致し候こと。同9月中忠良公御家督仰せこうむらせられ候につき御徳例のとおりに御酒下し置かれ候こと。

### ペリー来航と安政の大地震

- ①弘化2乙巳年3月6日豆州大島沖に異国船相見え候につき同州御領分海岸付き村々へ見回りのためとして川名村へ出役致し候こと。
- ②弘化3丙午年閏5月27日豆州沖へ異国船相見え候につき1番手、2番手御差出につき富戸組大筒方手伝いにて出張致し候こと。

- ③安政元甲寅年正月10日豆州下田湊へアメリカ船渡来につき出張致し候ところ、追々7艘まで入津、ついには異人上陸致し日々徘徊致し右につき追々長陣に相成り候あいだ5月9日内交代として帰陣致し候こと。
- ④同10月15日右同所へロシア船渡来につき出張致し候、しかるところ11月4日朝五つ半時ころ同所大地震、引き続き大津波にて下田町九分どおり流失、死人おびただしく右につき異船も破損致し候につきしばらくの間応接も休み候につき、同月9日御人数のうち九分どおり帰陣致し候こと。同日同刻沼津表大地震にて御城内外、御殿、御役所などまで残らず潰れまたは半潰れに相成り、残らず建て直し相成り、別して御殿、御役所なども潰れ方悪しく材木等も用たらず、かつまた御城下も九分どおり潰れ、その内出火もこれあり、もっとも大火にはこれなく候こと。右につき犬小屋同様のもの、わら縄にて出来、入りこみしばらくしのぎ候こと。

### 水野忠寛と忠誠の活躍

- ①(忠寛、安政5年)10月9日殿様御奉者番仰せこうむりなされ候こと。  
同10月9日出羽守様と御改名仰せこうむらせられ候こと。  
(安政6年)3月9日忠寛公御側御用人仰せこうむらせられ候こと。  
同5月29日殿様御役御免仰せこうむらせられ、かつこれまで御精勤につき御拝領物ならびに御手元よりも御同様御拝領遊ばされ候こと。同閏8月18日殿様御病氣につき御願いのとおり御隠居仰せこうむらせ候こと。大殿様左京太夫様と御改名遊ばされ候こと。
- \*水野忠寛=末家旗本水野忠紹嫡子、養子。13代将軍家定時代、井伊直弼側近として活躍、安政5年奏者番、6年側用人となるが直弼が桜田門暗殺後の文久2年御役御免、隠居。忠敬の菊間転封にともない先乗りして築城を指揮した。徳永台の通称「御殿」は忠寛隠居屋敷跡。明治7年卒68歳
- ②(安政6年)12月20日日本多美濃守様御養方御弟欽之助様御こと、八重姫様へ御むこ御養子御願ひ済みのこと。  
(文久2年)忠誠公御家督仰せこうむらせられすなわち出羽守様と御改め遊ばされ候こと。
- ③慶応2丙寅年5月中、殿様長防御進発御供仰せこうむられ候こと。同6月23日江戸御発駕にて7月2日東海道藤川宿御泊り御先ぶれ至来につき同月ついたち御郡代□□玄一郎殿同道出役致し候ところ川々差し支え候につき、同四日夜、藤川宿御泊り、翌朝御立ち掛け御本陣森川久左衛門屋敷三の間において御通り掛り御目見合い仰せ付けられ(中略)右につき御領分村々役人御名目一同知立宿西外の並木において御通り掛りお目見え仰せ付けられ候につき、同宿まで御供仕り、その節伺いの上割り羽織御免に相成り、すなわち着用にて差し引き□□致す
- ④同7月11日御着坂、同12日御出立奉り、同13日御加判の列仰せこうむらせられる。同28日蒸気船にて芸州地へ御出張遊ばされ候。
- ⑤同10月芸州地御引き払いにつき蒸気船にて御立ち帰り遊ばされ候こと。同11月28日御卒去遊ばされ、御法号原恭院殿。同日御乗り込み吉太郎様御相続仰せこうむらせられ候こと。ただし御名乗り忠敬公称し奉り候こと。
- \*水野忠誠=岡崎藩本多忠考4男から養子、万延元年豊後守、文久2年家督、出羽守、文久3年奏者番、寺社奉行、第2次長州征伐陣中の慶応2年14代将軍家茂の老中加判となった。しかし帰陣中の9月14日急死33歳、末家の忠敬を急養子として家督を相続させた。
- \*水野忠敬=分家、旗本本多忠明2男。慶応2年忠誠の急死で相続、江戸城大手門番在勤中に大政奉還が行なわれ、4年明治維新の戦いは尾張徳川慶勝の指令下に入り新政府軍に恭順して街道宿駅の取り締りや人馬兵糧の継ぎ立て、甲府城代として幕府急進派の鎮圧にあたった。明治元年7月徳川宗家の駿河、遠江移封にともない2万石余りを上総市原郡内に移され、築城経費として新政府から金石を3年間与えられたが翌2年7月版籍奉還、菊間城は未完のまま4年廃藩置県を迎えた。菊間城(藩庁舎)の縄張りは図面もなく未詳、今後の課題となっている。
- \*水野忠敬=慶応3年10月29日従五位下出羽守、明治元年7月13日所領駿河国のうち2万3700石余上知代として上総国市原郡の内において2万3700石余を給う。12月17日領地替えの場所居城なきにつき現米1000石、金1万5000両ずつ3か年下賜、2年3月4日肥後守に改める。6月19日菊間藩知事に任ず、4年7月14日廃藩

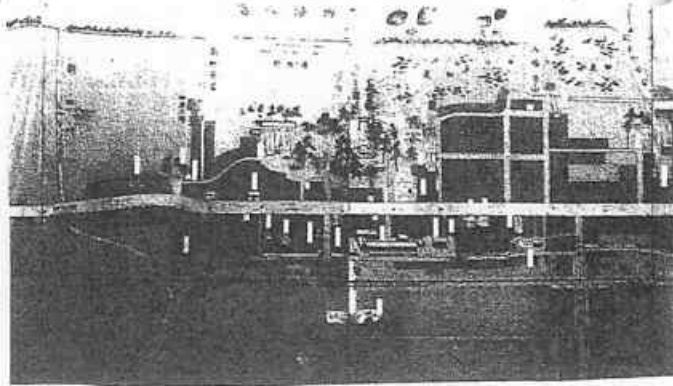


## 明治維新の戦いと武士の廃業

- ①慶応4辰年正月3日城州伏見駅宇豊後橋岡崎様御警衛の場所において官軍薩州藩、長州藩、徳川勢、会津藩、桑名藩人数戦争はじまる。
- ②2月13日今般御親征につき東海道筋島田宿より府中まで駅宿取締り、人馬継ぎ立て、兵食取り計らい等仰せ付けられ候。
- ③(明治3年)9月2日いよいよ15日までに(大浜陣屋から)上総国出立の儀達しあり。  
\*大浜陣屋(愛知県碧南市)=水野忠友が1万石をえて大名に復した時の陣屋地。沼津移住後も所領として残り、代官らが派遣された。当時程八は大浜に在籍、家族も居住していた。明治4年藩少参事に任命された服部純は旧弊改革にあたり住民の反発を受けて大規模な一揆が勃発した
- ④解官仰せ出され候上は卒族並み御手当を下し置かれべき候ところ御改正の際移転仰せ付けられ候につき、格別の御趣意もこれある儀につきこの度限り金15円御手当なし下され候こと。
- ⑤道中先触れ=第16等  
一、両掛り1荷、この人足2人、外相對雇い 一、同正駕籠2丁、この人足6人  
一、本馬2疋 一、用意宿駕籠2丁  
右はこのたび家族召し連れ明後16日三州大浜出張所差し出し申すべくものなり。  
庚午9月14日 菊間藩大浜出張所  
東海道岡崎宿より品川宿まで右宿間屋年寄中
- ⑥9月16日藤川、17日二川、18日浜松、19日掛川、20日藤枝、21日江尻、22日~28日吉原逗留、29日、30日沼津、10月1日三島、2日小田原、3日藤沢、4日川崎、5日東京浜町藩邸着、8日まで壺岸島上総屋久兵衛方逗留、9日五つ半ころ東京出帆、八幡町六郎兵衛方、同所仲町外や芳太郎方へ着く。八幡町河岸まで迎え多人数出候こと
- ⑦11月30日外宅御手当金40円頂戴候こと。  
12月5日山木村本宅へ引越し候こと。手伝い人多数これあり。  
同6日大浜村より荷物35箱口八幡屋へ預かり候分残らず引き取り候こと。
- ⑧版籍奉還や廃藩置県についての記載はない  
\*明治2年6月26日従来総高現石の10分の1を藩知事の家禄とした  
菊間藩主 水野忠敬 表高5万石、実高1万9260石、実家禄1926石  
\*「岡田程八日記」明治3年1月3日=先般草高を廃し現米高をもって藩高相立て申すべき旨、仰せ付けられ候につき6か年平均をもって左のとおり。  
一、旧士族の者現米20石下し置かれ候こと  
一、新士族に編入の者現米16石下し置かれ候こと  
一、新卒に編入の者現米14石下し置かれ候こと  
一、旧卒の者現米10石右同断  
\*程八は旧卒扱いで10石となった
- ⑨(明治4年)7月17日菊間藩知事水野忠敬本官を免ぜられ候こと。同20日旧知事公にわかにな京遊ばされ候こと。
- ⑩明治5年9月15日士族に列せられ候、御印章御渡し相成り候こと。  
\*明治4年廃藩置県をもって武士たちは禄を離れ、藩士たちは思い思いに新しい人生を歩むこととなった。  
\*旧藩士士族131人(軒)、準士族191人、卒族329人の明治10年現在の就職先は官吏48人、巡査7人、軍人6人、教師1人、区長(戸長)5人、商人、農業などのデータはない。転出先は静岡県15人、東京府10人ほか、明治40年資料は東京174戸、静岡67戸、沼津41戸ほか、千葉県は93戸のうち菊間に残ったのは41戸となっている。現在菊間地区に在住する旧藩士子孫は3~4軒程度、八幡など周辺におよそ10軒ほどがお住まいされている  
\*明治15年菊間藩士族授産のため、およそ50戸が土地能満開墾社を経営したが成功することはなかった
- ⑪程八は明治維新後、副戸長、菊間学校事務掛などを勤めて明治 年に没した。『代々系図公私留め』は明治12年まで、『岡田程八日記』は長男の手で『岡田寅三郎日記』に引き継がれた。 以上

協力 本文解説=市原の古文書研究会(代表者=上田幸夫、高沢正、佐藤桂、山岸明) 八幡史実録名所100巻9-4

# 八幡町大観



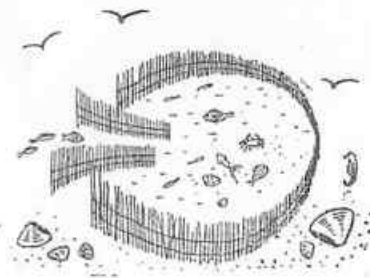
八幡町  
ローター  
八幡町



いまから50年ほどむかし、昭和30年ころの八幡の町です。八幡海岸はまだ埋め立てられていません。八幡港や舟だまり、海水浴場、のり採取場、はまぐり、あさり等など、八幡が海の町として発展していた様子が描かれています。一方町に目を転じましょう。なつかしい小さな八幡駅、単線鉄道を蒸気機関車が走っています。小学校はいまの駅前ロータリー、中学校はここ八幡公民館や運動公園で、役場や地政事務所、県の事務所もありました。市原の中心地として活気あふれたむかしの八幡が忘れられる貴重な歴史資料といえましょう。

## 内湾随一の松ヶ島海岸

簀立遊び 汐干狩  
御案内



千葉県市原郡五井町松ヶ島海岸  
松ヶ島漁業協同組合  
電話千種27番

## 簀立汐干狩時刻表

	若汐		大汐				中汐		小汐					
到着時刻	6時~7時	7時~8時	8時~8時	8時~9時	9時~10時	9時~10時	9時~10時	10時~12時	10時~12時	11時~12時	12時~1時	12時~1時	1時~1時半	1時~1時半
汐時	汐口	二日汐	三日汐	四日汐	五日汐	六日汐	七日汐	八日汐	九日汐	十日汐	十一日汐	十二日汐	十三日汐	十四日汐
五月	10日 水	11日 木	12日 金	13日 土	14日 日	15日 月	16日 火	17日 水	18日 木	19日 金	20日 土	21日 日	22日 月	23日 火
六月	9日 金	10日 土	11日 日	12日 月	13日 火	14日 水	15日 木	16日 金	17日 土	18日 日	19日 月	20日 火	21日 水	22日 木
七月	8日 土	9日 日	10日 月	11日 火	12日 水	13日 木	14日 金	15日 土	16日 日	17日 月	18日 火	19日 水	20日 木	21日 金
八月	7日 日	8日 月	9日 火	10日 水	11日 木	12日 金	13日 土	14日 日	15日 月	16日 火	17日 水	18日 木	19日 金	20日 土
	海水浴		汐干狩				海水浴		海水浴		海水浴		海水浴	

## 五井松ヶ島海岸の「さしレ」

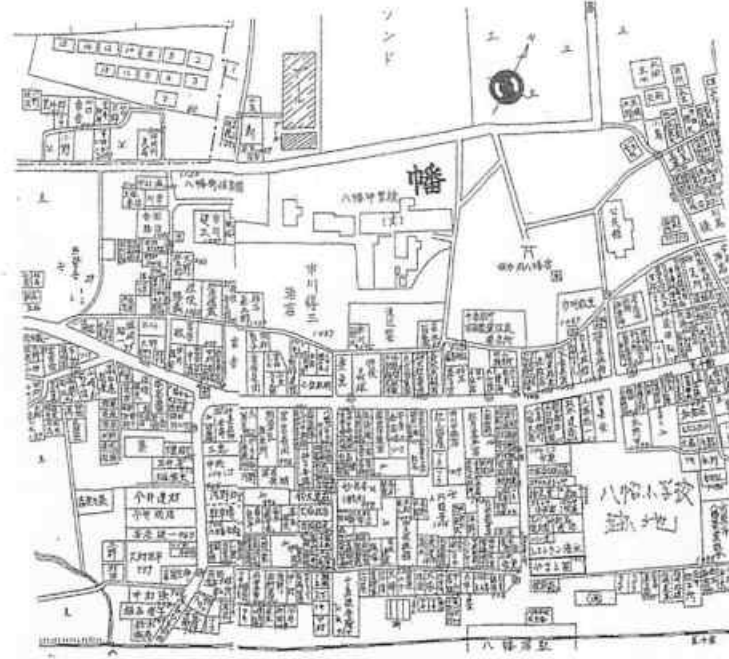
簀立は招く  
内湾随一の美麗な松ヶ島海岸へ！

松ヶ島の簀立遊び  
内湾きつての瀬原で、美麗な米田の海岸、しかも伝統と豊漁の名産を誇る簀立遊びは潮名人の絶頂を得て居ります。

捕つた魚は  
黒だ、すすき、せいご、ふつご、さす、さより、せら、いな、かた、えび、かに等。  
私のレクリエーションは汐干狩、僕もやつぱり汐干狩。  
週末を最も能率的にしかも気軽に日帰りにレクリエーション出来るのが、汐干狩の楽しさです。  
それは宵白汐の朗声、そしてあさり、蛤の豊かに採れる、処女地、松ヶ島海岸が絶頂地です。そこに松ヶ島がお持ちして居ります。

簀立料金 一餐六、〇〇〇円 但し五人 一人増す事六〇円	団体割引 大人五〇円 小人三〇円	学生団体割引 小学生二五円 中学生三〇円
--------------------------------------	------------------------	----------------------------

千葉県市原郡五井町松ヶ島海岸  
松ヶ島漁業協同組合  
電話千種二七番



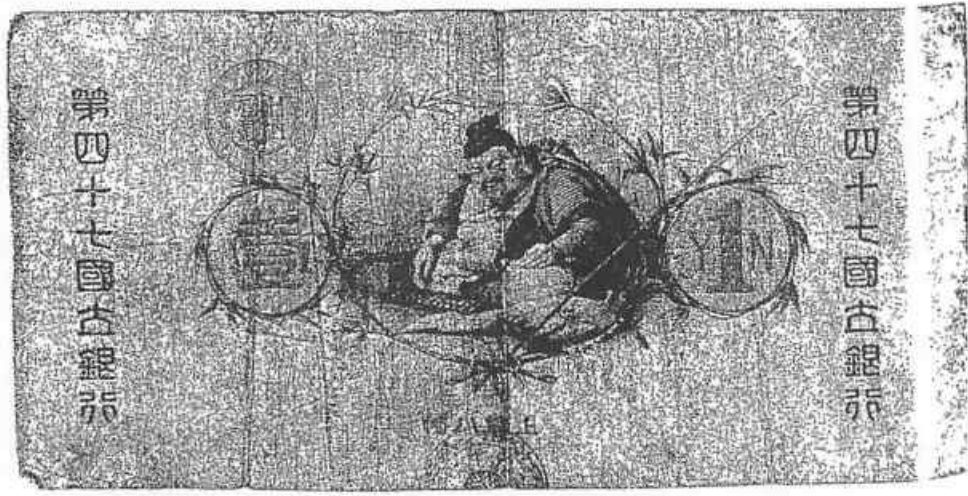
昭和40年11月3日  
市原市幼誌日記  
7-8



第四十七国立銀行



(表)

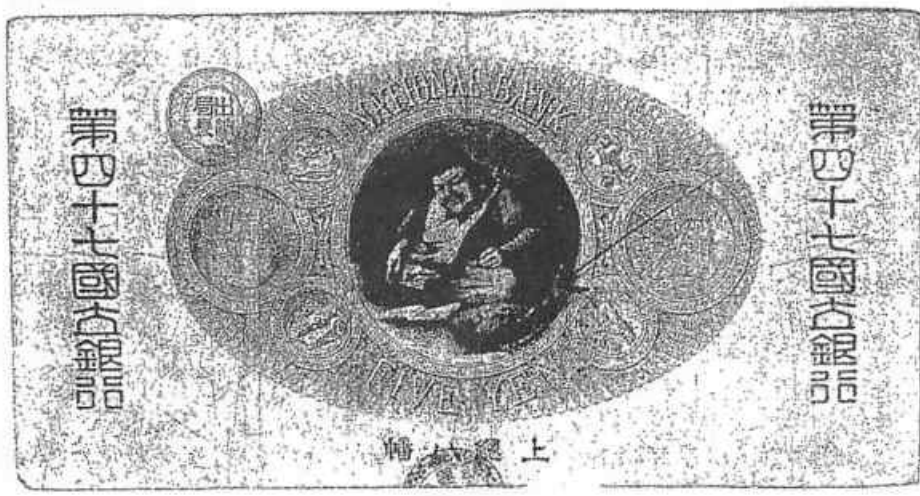


(裏)

1円新紙幣 発行高 22,800円



(表)



(裏)

佐倉東雄

「八幡史学館」

平成二十四年八月二十八日

佐倉東雄

八幡第四十七国立銀行

5円新紙幣 発行高 53,200円

明治五年十一月十五日、日本金融史上発の国立銀行条令が交付る。明治になって新政府はあらゆる面で欧米の姿を見聞し、近代近化への国づくりを推し進めた。

第一の目的は、富国強兵にあったのであるが、金融制度の確立も急務であった。明治初年以來、論争に論争をまた紆余曲折を経て銀行制度を發布したのである。

ここではそれらの中身にはまっく触れない。

この制度に基づいて千葉県下で第一号の国立銀行が市原郡八幡に開業された。取締役は、元菊間藩主水野忠敬である。

私は、八幡の何処で開業したか、旧藩主の関係者の幾人にも会い、また、何軒家の旧家にも足を運び尋ねたのであったが、成果はなかった。

市原市教育委員会発行の『市原のあゆみ』を開けてみたところ、次のように書かれていた。

「……明治一一年、千葉町に第九十八銀行が、八幡宿に第四七国立銀行がそれぞれ設立開業しました。前者は昭和一八年、千葉合同銀行、小見川農商銀行と合併し、現在の継承は千葉銀行です。後者は明治三一年私立に移行し、現在の継承は北陸銀行です。……」

ともかく、水野忠敬が取締役となって、千葉県下で第一号の国立銀行を八幡に開業したのだが、何処であったかは記載がない。

本題に移る。八幡に明治十一年に開業された第四十七国立銀行の場所は何処なのであろうか。

さらに同教育委員会発行の『市原市史（下巻）』に第四十七国立銀行に触れた力所があった。次の通りである。

津藩が菊間転封、版籍奉還（明治二年六月）の直後、藩主の邸内に設けた「四十七銀行」の名称を採ったものである。四十七銀行の目的は士族の秩禄奉還金を散逸させないために集める、ということだったが、銀行とは名ばかりで適当な経営者がおらず、雲散霧消してしまった。……」

とある。

この文章の中で腑に落ちない力所がふたところある。明治二年まず一点は、沼津から市原郡菊間村に転封になり菊間藩をあらゆる面から構築して行かなければならない。沼津藩がそっくり新天地である菊間に来て一からの藩づくりである。藩邸、家臣の住居、藩校、町並の整備等々に追われていたのである。このような時期にすでに藩邸内に四十七銀行が設立されていたという。銀行の実体すら知らなかつたのではないか。先程も触れたが政府事態も銀行とは何ぞやと欧米の実体把握に懸命で、視察に出かけている。そのような時、菊間藩邸に四十七銀行が設立されていたという。書き物として保存されていたのであろうか

もう一点は、四十七銀行が雲散霧消してしまつたということだが、紆余曲折を経ながらも続いている。北陸銀行である。

何れにしても、市原市において千葉県下で第一号の国立銀行を元菊間藩主水野忠敬が取締役となり八幡に開業したことは、歴史的に捉え私たちが八幡に住む者にとって、貴重な財産である。年を重ねるに従い、過去はおぼろとなり、明治以後の八幡も昔話の域すら出なくなる。記録、写真等で残して置くことが最も必要だ。

沼津から市原郡菊間に転封になつて来られた水野藩主の家臣に岡田程八なる人物がいて、藩としての公的な日記を日記のように綴っていた。『菊間藩士岡田程八日記』ある水野藩主の生活記録が本の名だが、沼津市立駿河図書館で発行されている。古文書の解説も大変であつたであろう。

この中に八幡銀行に関わるカ所があるので幾つか抄出する。

明治十一年寅年分

八月廿四日

午後旧知事様八幡銀行へ御出之事

八月廿九日

銀行役員月給十三円頭取水野公十

壱円副頭取柴田貞勝十一円ツ、取

締役三浦千立尋柳元信四円支配人

兼杉山廉平金五円ツ、(以下略)

十一月十五日

第四十七國銀行開店之事

明治十二年卯年分

七月一日

四十七國立銀行八幡宿中町六十番

地へ去ル廿九日移転自今營業致候

段通知有之

明治十六未年分

一月十七日

八幡銀行ニおゐて 愛社圖引有之

東京都築□□□□□とす

五月廿一日

午前四時頃八幡宿川上平八裏板よ

より失火二付一同銀行へ行類焼無

之

明治廿四卯年分

十月十七日

八幡四十七銀行昨十六日より富山

へ移轉御届相済候事

岡田程八日記に、れば開業日はあるが、八幡の何れに開業したのか記されていない。しかし、開業してから大よそ半年近くで他へ移転している。ここにははっきりと所在が明記されている。中町六十番地と。となりに川上平八宅があり、その川上宅から少し日を経て火事が発生し、幸いに類焼を免れたと。

中町は今の本町である。当然の事ながら宿通りに移転したのであろう。郵便局があり、村市(市原郡内でも最高に繁盛していた反物屋、村市は屋号で村田市平を襲名していた)。八幡の何処から移転してきたのか分からないが、最初から商店が置いていた房総往還の通りに開業すべきであつたと思われてならない。

さて、中町六十番地であるが、明治二十四年にはすでに現在の番地が付けられており、一体、中町六十番地とは何れから持ってきた番地なのであろう。

私は、当時川上平八なる戸主が住んでいた処を探すべく色々と当たってみたが分からなかった。しかし、明治七年頃に作成された『八幡宿野張』をたまたま見せていただく機会があつたので、川上平八なる人を探したところ、現在營業をされている本町の山本金物店の右隣あたりであつた。市原市武道館の入りの左側あたりということになる。当時をもってしてもここに中町六十番地は存在しない。八幡一二七四番地前後である。

当初の開業場所を探すべく、色々と努力をしたことに付いては、先に若干触れた。手立てを求めて市原市中央図書館にて『千葉銀行史』を手にとってみた。『第四十七國立銀行』の概要が載っていた。横書きであつたが縦書きとし、新漢字、新かなとした。

設立 明治十一年十月十八日



本店 市原郡八幡宿（市原市）浜本町

資本金 九万五〇〇〇千円

頭取 水野忠敬

後身銀行

明治明治二十四年十月一富山第四十七銀行（富山県）  
明治三十一年一月十九日 第四十七銀行（改組改称）  
昭和十四年十二月一十二銀行  
昭和十八年七月一北陸銀行

『千葉銀行史』によって、四十七国立銀行が八幡の浜本町に開業されたことが分かった。私は浜本町を手がかりとして、浜本町ばかりでなく八幡中を尋ね歩いた。徒勞に終わった。第四十七国立銀行が八幡において開業されたのは遠い遠い昔の事となつて、まさに消えてしまったのだ。

私は何か手がかりになるものはないかと、千葉県立中央図書館に足を運んだ。明治十二年一月の大蔵省議事なるものを職員が出してくれたので、早速目を通した。四十七国立銀行が有つたのである。驚きだ。旧漢字は新とた。

二十八日（火）の処に何やら難しい布達事項があり、その次に幾つかの銀行が載っていた。※その部分省略

明治十二年一月十八日

大蔵卿大隈重信

千葉県下上総国市原郡八幡浜本町三百十五番地

第四十七国立銀行

※以下省略

間違いなく市原郡八幡宿浜本町三百十五番地に第四十七国立銀行が開業されたことは大蔵省議事によって確認できた。

法務局市原出張所に行き、有料をもってかつての三百十番地が現在何番地になっていいのか申請してみたが、職員いわく「分かりませぬね、その当時のものは何も有りませぬから。」それだけであつた。

千葉市にある県の法務局を訪ね、国立四十七銀行の開業所在地について、私なりに調べてきた経緯を話した。職員いわく「どこかのお宅から古い八幡の地図か何か出てきて載っていると分かるんでしようが。こちらでも分かりませぬね。」

浜本町三百十五番地、移転先の中町六十番地は、何に基づく地番なのであろうか。国への書類に架空の地番を使用したとは考えられない。小字ごとに番地があつたとも考えられない。明治六年に日本の土地制度について「地租改正」という画期的制度化がなされる。明治十一年にあっては地券が発行されており、土地の売買も出来るようになっていた。

八幡南町の某宅には明治十三年に千葉県が発行した「地券」が保存されている。地券の最初に上総国市原郡八幡宿千三拾九番字南町とある。さらに明治十年□月ともある。その番地は今も使用されている。明治十年前後には八幡町全体として五所との境から始まり、八幡の終わりであ旧村田川（境川）までそれぞれに地番が振られていたのではなからうか。

つい先頃、城（館）の専門家及び郷土史家でもある山岸さんから『岡田家代々系図ならびに公私留』なる古文書を解読したものを戴いた。家臣の岡田程八は、藩の公的な綴り（日記）とは別に自家の事柄についても詳しく記していたのだ。もちろん公私とあるから藩の出来事も必要に添記録されている。

まことに貴重な綴りと言わざるを得ない。

その中に四十七国立銀行に係わることが書き留められていたもので、二カ所抜き出す。

いずれも明治十一年分からである。

一 同寅十一寅年三月十日御知事公八幡宿永楽屋へ御出、御藩主一同へ御酒下されこれあり。

一 同日第四十七銀行開店のこと、ただし永楽や跡にて。

※同日と言うのは、前の記録が同十一月十五日とある。

三月十日の綴りについては、『岡田程八日記』にもあるが、少し文章が違う。「旧知事様八幡宿永楽屋ニテ御酒被下有之旧藩士一同出頭ス」とある。中身は同じだが。

銀行開店のことは、その日付けの通りだが、開業場所が「永楽や跡にて」となっている。かつての藩士を一同に寄せ酒の席を設けた所に銀行を開業したのである。開業している居酒屋をただちに買い取り壊して銀行としての店構えにしたのであろう。

私は再び浜本町で知っている古老を幾人か訊きに尋ねた。永楽屋を知っている人は誰もいなかった。曾祖父の時代であるからすでに困難である。

しかし、浜本町で五大力船（弁天丸）を先祖がされていた大宮常次さん（郷土史家）の所に行ったら「今の小口海苔屋から少し

入った左がわに子供）ころ空き地があり、芝居小屋が立ったり、見世物小屋が立ったりしたと。今でも空き地らしい空き地は残っている。五大力船の働き手が、夕方になり仕事が一段落するらによく一杯ひっかけに行ったりした事も聞いたことがあるという。

もう一人ふたりから同じような話が聴けたらこんな良い事はないのであるが。さらにこんな話もされた。その居酒屋は火事で燃えてしまったとも。それもはっきりとした記憶はないという。

そうすると、水野の殿様が藩士一同を永楽屋に招き酒の振るまいをした後に火災で無くなってしまった。そこに目を付け四十七国立銀行の開業場所とした。何とあわただしいことか。

だが、銀行開業の準備は、開業場所を含めて盛りだくさんの書類の申請、実務の内容、金融についての知識（国外を含め）等々を含めて数多くの業務に追われていたのではないか。してみれば、開業場所も自ずから他の場所に決まっていたのではないか。

藩士一同に酒を振舞った、その永楽屋の跡に銀行を開業した。これではあまりにも期間が短過ぎる。今のようテナントがあった分けではないのであるから。明治十一年以前に永楽屋があったことを知るものは当然いない。聞いているものもない。日記に有る通り、永楽屋の跡に四十七国立銀行を開業したのも、その永楽屋が浜本町にあったのも本当であろう。

それでは上総国八幡に開業されていた千葉県下第一号の第四十七国立銀行が富山県に行つたことの経緯を記す。実際は横書き。

明治16年6月、旧富山銀行が富山西四十物町（にしあいのまち）において設立された。同行は、富山では最も古い私立銀行であった。創立時の頭取は山野清平（略）山野清平は、富

山の酒造家に生まれ、富山で最初の新聞「中越新聞」を創立した先覚者で、富山商業会議所会頭、県議会副議長にも専任されている。また、他の役員、株式総代にも富山地方の有力者であった。

同行は明治24年11月、千葉県の八幡第四十七国立銀行の営業権を回収して合併し、富山第四十七国立銀行と改称した。八幡第四十七国立銀行は旧菊間藩主の（藩知事）を頭取とする士族銀行で、経営が悪化したため合併に踏み切ったものであり、山野清平らはナンバーバンクに魅力を感じて改称したものと思われる。

明治30年9月に至り、「営業満期国立銀行に基づいて私立銀行の第四十七銀行となったが、同行は、富山市では十二銀行に次ぎ一般の信用を得ていた。

『創業百年史・北陸銀行』より。

明治30年9月1日、富山第四十七国立銀行は、第四十七銀行となったが、経営戦略の上から昭和14年12月11日、より経営の充実している十二銀行と合併し創業以来57年の幕を閉じた。さらに国から一県一行主義の勸奨もあり、戦時下の18年7月31日、北陸銀行が設立された。

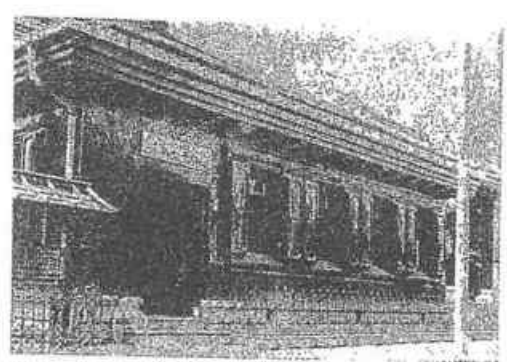
北陸銀行の設立に当たっては、有力銀行である十二銀行、高岡銀行、中越銀行、富山銀行の四行をもって立上げたのである。

八幡に設立された「第四十七国立銀行」は、雲散霧消することなく、さまざまな道を辿りながらも北陸銀の設立に繋がりをもっているのである。雲散霧消はない。

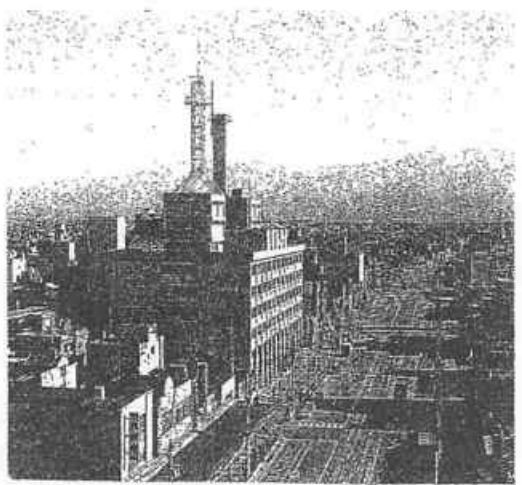
残念なことは、今もって浜本町三百十五番地が何処であったの

か、調べ切れないことである。人によっては確かな情報源をもっているかも知れない。法務局が分からないと言うのもおかしい。

余白が出来たので参考資料を載せる。



第四十七銀行本店



北陸銀行本店



逓信事

但右紙幣ノ備ハ明治十年(十二月)第九十號明治十一年(七月)第拾六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本和紙ハナシ

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

千葉縣下上總國市原郡

第四十七國立銀行

兵庫縣下播磨國西飾

第九十四國立銀行

東京府下日本橋區

第四十五國立銀行

大分縣下豐前郡下毛郡

第七十八國立銀行

岐阜縣下美濃國石津郡

第七十六國立銀行

以上

○甲第八號

金銀兌換證書拾圓券ハ八號〇六拾壹枚有之秋田縣平鹿本宮城所持ノ證書年十二月十六日同縣下稻澤村高橋嘉一郎宅於テ紛失ノ旨届出候條以須右證書一切取引ヲ爲スヘカラス其號所在見附ノモノハ速ニ管轄廳ヘ可訴出管轄廳ヨリハ即當者ヘ可届出此旨布達候事

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

○乙第五號

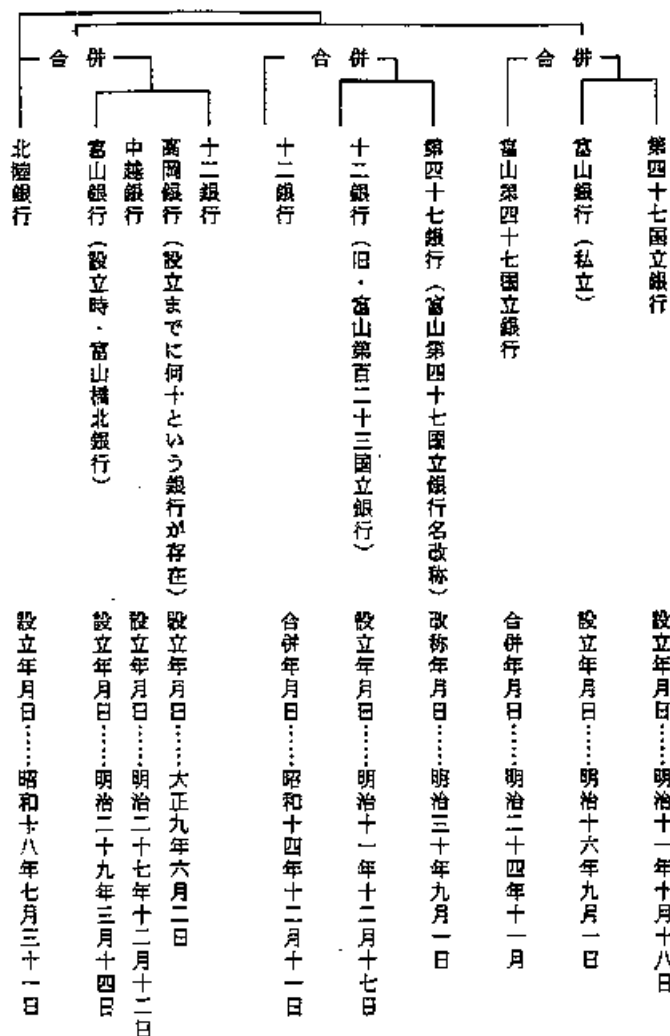
郡區長郡區書記ハ他ノ官吏ヨリ轉任又ハ郡區長郡區書記ヨリ他ノ官吏ヘ轉任ノ節月俸ハ明治七年(五月)第六十一號公通月俸規則第四條ニ照準其月十七日在職ノ方ニ於テ支給シ滿年賜金ハ其際打切支給可致此旨相達候事

但達宜法已ニ兼行ント雖モ本交ニ符號ノ向ヘ引直候條ノ可相込

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

明治十二年一月大藏省錄事



第四十七國立銀行の歩み

# 八幡公民館主催事業「八幡史学館」

## ②清水あき子さんに聞く「海の町と魚惣の思い出」

お聞きする内容（インタビュー時間60分＝各項目10分程度）

- ①ご紹介
- ②魚惣と海の家
- ③海水浴と潮干狩り
- ④すだて遊び
- ⑤みなさんからの質疑

### 次回以降のスケジュール

- ③9月25日(火曜日) 城歩きを楽しむ(城郭基礎講座)、次回バス研修の見どころ
- ④10月21日(日曜日) バス研修＝大多喜城と鶴舞城跡を歩く

目の前に海、富士、すそ野が広がり  
遠く近く船が行き来する  
まるで絵のような風景だった

平成24-8-28 山岸弘明

間もなく満85歳  
ますますお元気の清水あき子さん



### 八幡町の盛衰と歩んだ「魚惣」の1世紀

清水あき子さんインタビュー

林立する工場ビルや変貌する町並み、国道16号線を産業集材や製菓を商戦したトラックが疾走する。いまでは工業の町としてすっかり定着した八幡。だが、つい50年前までは東京湾内に接した小さな漁町で、漁業や港湾、海水浴客、潮干狩りなどで賑わった海の町であったことなど、思いがけず語られてしまった。

かつて八幡港、八幡海岸を中心に発展した旧浜本（なもと）地区、江戸時代から房総往還の名で親しまれた旧道と脇道に、今でも昔の面影を残す商店や住宅、紫や赤レンガ壁を取り込まれたようにひびきり佇んでいる。中でも風流な2階建ての店構えを残す旧浜本八幡町の清水あき子さん宅は明治中期の創業という老舗料亭「魚惣」だった。堅みお、積みおを襲いだ八幡港の正面に位置し、2階の宴会場からは東京湾と富士山、筑波山などが見渡せたという。

八幡港の明治、大正、昭和前期は五大力船の行き交う物流拠点として発達、「魚惣」は連日、港に出入りする船乗りたちの宴会で賑わったという。悲しい時代も体験する。戦時中、町の青年たちの出征壮行会など日本が軍国化していく様を見守ったこともあった。そして戦後、昭和30年代の高度成長期は八幡海岸が海水浴、すだてなどの行楽地に、運動公園は50台を越す観光バスで満車になった。海浜浴場には「納涼台」（海の家）が設けられたが、

その一つが「魚惣」の経営。若かったあき子さんも店頭に立ったという。その後の昭和30年代の終わり、八幡海岸の埋め立てがはじまるのを機に閉店した。明治、大正、昭和の1世紀にわたる八幡の盛衰をみ続けた「魚惣」の歴史は八幡町の近、現代史そのものともいえた。

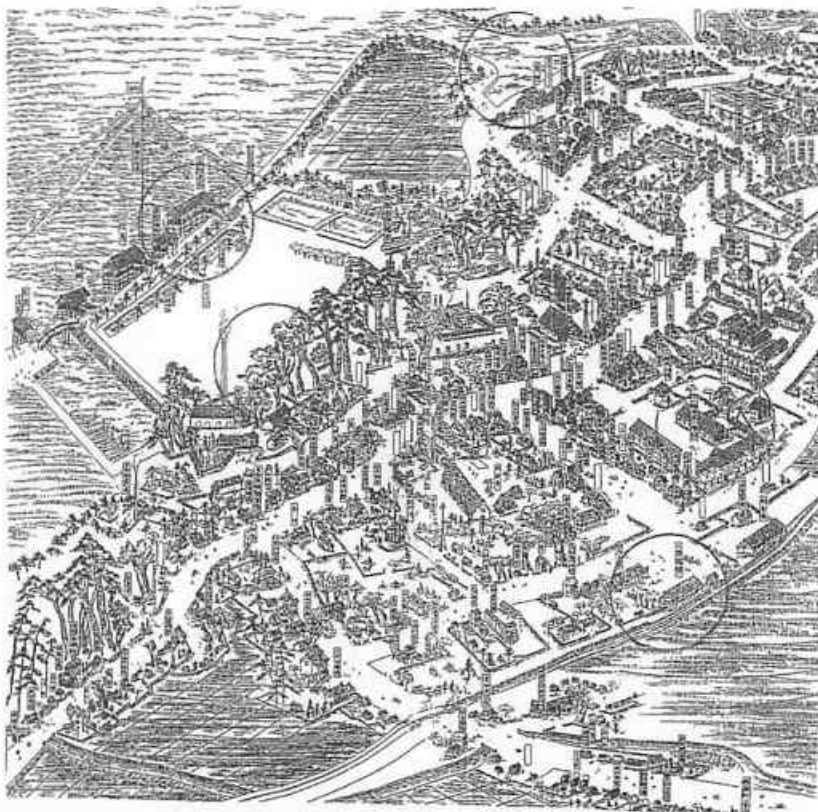
現存する清水さん宅は「魚惣」時代そのまま。海岸側の半分は明治時代の建物で、町側は大正はじめの増築という。2階にはいまでも「魚惣」の看板を掲げ、玄関表札には「八幡局32番」と戦前の電話番号もある。富士の間、箱根の間、筑波の間などと書かれた窓看板も当時のまま。「いらっしやい」という元気な返事が聞こえそう。古い町といわれる八幡でもこれだけ「かり」と当時の建物を残している所はほかにない。隠れた「私設博物館」ともいえそう。「よく、建て替えたなら」といわれるんですが、「どうもね」。あき子さんのこだわりは「買っている。心の中にはいまでも「魚惣」が生きている。そんな清水あき子さんに戦前、戦後期「魚惣」華やかなりしころの八幡町をお伺いした。

かすりの建物に下駄履きで小学校に通った

「お忙しいところ恐縮です。きょうは「八幡町歴史散歩」の一環として、「魚惣」と八幡町のお話を伺いさせてください。さっそくですが八幡のお生まれのお話？」

清水 そうです。昭和2年の9月、お彼岸のお中日、当時、両親がここで「魚惣」という料理屋をやっています、その一人っ子に生まれました。

### 千葉県八幡町鳥瞰図



昭和9年「千葉県八幡町鳥瞰図」（松井天山画く）

平成16年の清水あき子さんインタビュー「八幡地区の遺跡と文化財」

### 「魚惣」MEMO



同家系伝によると「魚惣」の先祖は千葉鹿川の流れという。明治維新の時、市原に転居してきた菊間水野藩に魚介類を納め、明治27年八幡で魚屋を開いた。料亭「魚惣」の初代は徳三郎さん。明治37年ころ現在地で割烹料亭を開業。魚料理と名前の一字をとって屋号とした。料理は高級だが建物はいってシンプル。「大勢入って丈夫」な造りがモットーだったという。当初は海側の半分で、大正3年に階層を増築。今の姿が整う。当時、八幡港は市原市の物流拠点として五大力船が入り、好意列の船関係者で賑わった。明治、大正、戦前、戦後期を通じて高級料亭料亭で、手作りの徳石料理、てんぷらなどが評判をよんだ。「納涼台」は大正12年から、戦後の成長期には海水浴、潮干狩り、すだて、遊覧船と広がるが、昭和30年代後期の海岸埋立てを期に幸一さん、彰さんと交代した「魚惣」を商業。現在は「魚惣」の惣次郎さんが東京築地で創業。「魚惣」の愛蔵品を揃えている。

昭和2年というまだ戦時色もない平和な時代ですね。小学校は当然八幡小学校。

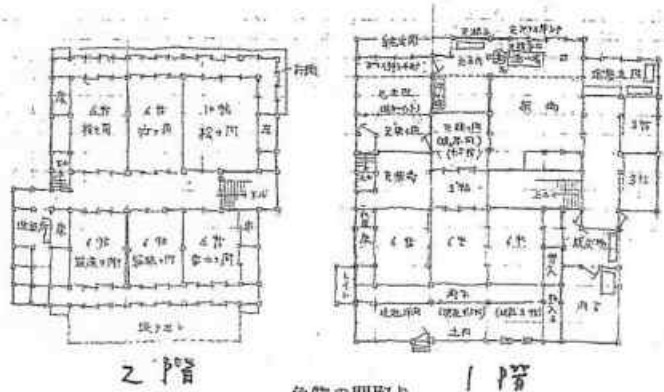
清水 八幡尋常小学校から尋常高等小学校。八幡駅のまん前のまのロータリーや飯を周遊り、千葉銀行あたりであった。木造の古い校舎で小学校と高等科が向かい合っていた。小学校は2クラスまで、2年は共学、3年からは男女別々だったね。小学校は2クラスりの給食や「にこにこ」といって花柄の付いた箱物に羽織、履物は下駄。夏はゆかたに三尺。「かんたん服」といった洋服の子もいた。もちろん制服なんてないし服姿は自由。親たちはみんな忙しいから赤ちゃんとの子守は上の子の仕事、4年くらいになったら学校休んで子守をさせられたり、中には学校へおきてきて子守をさせるなんて子もいましたね。

この間、間もなく「刀才」の喜寿だから集まろうということになって同級会を開いた。住所の判る同級生30人に葉書を出して28名が集まった。みんな昭和の年になっちゃったけど、懐かしい昔話が弾んで楽しかったね。

「じいちゃん」の遺影かしてお母さんにお手紙作って貰った

——当時の思い出たちの遊びは？

清水 女の子はお玉や右けりとかゲーム。」「じいちゃん」という名があるのですが、その美をとって転かしてからお母さんにお手紙を作ってもらった思い出があります。石けりは道路に輪をくくって書いてビヨンビヨン飛んだりする。それから男の子はメンロやハイホウの取り回し。運動公園の「にこにこ」は十歳があたり相撲をとりたりして遊んでいたね。そのうち「かおんき」や「



魚惣の間取り

八幡の浜本町(はもと)地区、ほほ中央あたりに風流な高欄とガラス戸で往時のたなずまいを残す瀟洒な2階建てがある。元料亭だった「魚惣」、明治27年に創業、海側は築170年、陸側も大正3年の増築といふからまもなく100年を迎える。かつて八幡が「海の町」だったころの磯料理料亭、八幡中学校グラウンド(現在運動公園)の岸壁から海に張り出すように浜1番の「海の家」を開設、最盛期は1日10000人を超える潮干狩りや海水浴客を迎えた。

昭和2年生まれ元女将、清水あき子さんの父・幸一さんはみんなが喜ぶのが大好きだった。村田英雄や二葉百合子、女剣劇の浅香光代を呼んで興行を張ったりもした。町に海があった時代を知る人たちにまさきさんに思い出す店を尋ねると「魚惣」と答える人も多い。かつて「海の町」の一時代を築いた「魚惣」の歴史を、子さんに聞いた。

明治27年に竣工、117年の年輪を刻んだ「魚惣」

ずいぶん丈夫な造りですが? 西側の半分が初代惣三郎が明治に建てた部分。いま勝手口に使ってる所に長屋門があって庭石伝いに玄関に入ったところ。千葉側が別棟の調理場で、「上総堀り」の井戸があった。大正3年に敷地いっぱい店を建てて現在の形になるのですが、その時井戸も建物の中に作り込んだので、2階でも2階の廊下に井戸渡いのための仕掛けが残っています。

海に面した景勝の地です。昔は八幡港のみおが店のまわりまで入り込んでいた。開店のころは八幡が市原の中心地でね、鶴舞とか市原の内陸の方から米や薪とかが集まった。それを五大力船に積み込んで東京に運ぶのですが、この辺りは船乗りや運送関係の人たちで賑わったそうです。船は大正時代ころから自動車や鉄道の発達でだんだん寂れてくる。そのころははじめた潮干狩りやすでに船遊びが東京のお客さんに評判となり、会社やお店の接待や従業員慰安などに

うのもあった。

くもをけんかさせる? 清水 強そうなくもを捕まえてきてマッチ箱に入れて、だれのが強いか戦わせる。なにをやって上手な遊び名人がいいたね。裏は海だから遊び場には不自由はない。でも、4年くらいから海の売店の手伝いをさせられた。よっぽど掃除でない限りどこの家もアサリをとったり、海苔の仕事とか家の手伝いをさせられてる子が多かたね。学校の行事でも海水浴があった。勝手に小舟を持ち出してきて乗っ取りするんだけどいつの間にか競争になってしまっ(笑)。

年一回の秋祭りには子供たちの楽しみですね。八幡様のお祭りはいまはみんなが集まりやすい10月の日曜日になってしまったけど、昔は毎年旧暦8月の15日に決まっていた。この日は学校も早退し、八幡様にお参りして解散。後は稲葉も出るし屋台もある。神輿について行ったり、屋台を覗いたり、ろくろ首だの見せ物小屋も掛かった。この日は親戚の人たちも集まって賑やかだし、祭りの御馳走も楽しみだったね。

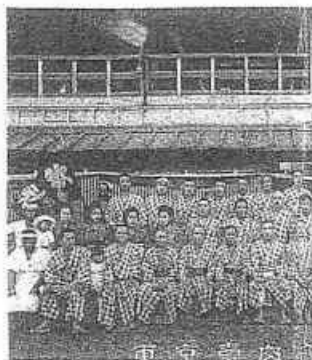
畑やたんぼを作って片手間にアサリと海苔をやった。殿前の町の人たちはどんな様子だったのですか。

清水 南の浜半農半漁。畑やたんぼを作って片手間に漁業をやっていた。南の浜の方に「うな」といって船と船の後ろに網を張って引張って、という家もあつたけど大体はボラ。この辺の人は漁業といってもアサリと海苔。アサリは刺して佃煮工場に持って行く。海苔は蟹にすいて天日干す、といった仕事で、漁船

をもってるなんて家はなかったですね。

自分たちが食べる魚は? 清水 それは「ころが魚」といってね。こんな丸太に5寸釘を打っておいて、それを夜、潮の干いた後でゴロゴロ転がす。そうすると小さい石がレイなんか釘に引っ掛かってくる。

メスがあるから売り物にはならないんですがお家で食べる分には困らない。サバとかイワシなんかはいまの川鉄の所に薬川の市場があって販売してる人たちが仕入れてくる。それをリヤカーに積んで売りにくるんですね。そんなのを買って食べる。その内に競争がだんだん激しくなってそれもなくなくなってと統制が



東京からの高松(ひき)客でにぎわう昭和10年代の「魚惣」。前列左はじが初代惣三郎、2列目3番目初代おかみ、後列左はじが2代幸一、2列目の前の帽子を被った子があき子さん

お休みになられたのですか。清水 孝吉様と順宮様は白馬で、東久通様は「魚惣」です。御側服姿でよくお顔立ち良かったです。お二人がお腹重くなった可哀らしい足袋もずっとあってあったのですが、いまはどこへいってしまっただか、もうありませんね。

機銃掃射の弾跡がいまでも天井裏に残ってる。

高学年に進むにつれて戦時色が強まってきた。清水 先生からはよく「兵隊さんは規定で昔分しているんだから」という話を聞かされた。昭和12年にはいよいよ戦争が始まる。学校を卒業して16、7才のとき。若い男の人たちはほとんど戦争に出ていく。女も徴用に出されるという風になってくる。私も徴用に取られたら大変だからというので、千葉の「船行社」という所で兵隊さんの車庫を縫いに行っていた。賃金が1か月100円、成績のいい人は月に100円にもなった。

当時としては大変な高給取りじゃないですか(笑)。八幡は戦争の被害があつたのですか?

八幡は東京のような大きな被害はなかったですね。昭和20年3月10日の東京大空襲は「東京の空が真赤」に見えた。当時は八幡も日120が通過する。そのうちに空母の艦載機が攻撃してくる。うちもP-51の機銃掃射を受けました。幸いいたが人はなかったですが、人間と間違えたのでしょうか。同じいた山平が犠牲になりました。高松(ひき)客ですぐに高松(ひき)客は書き替えたが、天井裏にまでも何十発かの弾跡が残ってるはずなんです。この時、海で海苔を取ってた方が撃たれてなくなりました。海に



漁業も潮干狩りに訪れた



昭和はじめの袖ヶ浜保育園。刺繍入り詰った浴衣に注目

遊覧船では天ぷらなどを食べさせた

8軒家があつたから八軒町になった、と聞いた

昔の浜本は? 清水 この辺は八軒町といっていました。8軒家があつたので八軒町になったと聞いています。みおの側だったけど住んでる人はみんな半農半漁だった。五大力をもってた人は倉町あたりに多くて、みんな船の名前で呼んでましたね。鶴舞とかあつた方から集まってる穀物や薪、カマズといったものを五大力で東京の日本橋の方へ運ぶ、帰りにこちで必要な食料品や日用雑貨とかいろいろものを積んでくる。当時は車もない時代だから貨物の積込みはみんな五大力だった。お前の回りには「津屋さん」や「塩屋さん」の倉もあつたけど、大部分は船がつくとすぐリヤカーに積み替えて運んじまう。近くで販売してる家といったら、酒屋さんと後はうちくちくちのものでしたね。ほかには駄菓子屋さんが2軒。1軒とか2軒の小遣いを買って、よく行きましたね(笑)。

お子時代は里親方も八幡へ海水浴にお見えになられたそうですね? 清水 潮干狩りですね。孝宮和子内親王と順宮厚子内親王様、そして東久通家の朝子女王と正子女王様のお向、皆さん小学校の1、2年生でいっちゃったんですよ。学生たちが駅へ出迎えたが、先生の号令でお辞儀をしている間に通りすぎたので顔どころか着ていた洋服さえ見えなかったなんて話も聞きました(笑)。富様たちは「魚惣」で

一離れる場所がないですからね。 映涼台に千人くらい入りましてしょうか。そして終戦。戦後の高松(ひき)客長期に八幡海岸は観光客で賑わうことになるのですか? 清水 そのころ私は結婚して、昭和28年に長女が生まれた。2人で駅前の寿司屋と千葉で肉屋をやっていたのですが、親から「何しんじいから帰ってきて手伝え」ということになった。6月から7月になると東京からバスでお客さんがあつてくる。学校の遠足もバスで何台かくる。一般の海水浴のお客さんは大体は汽車でやってくる。こちらは料理の「魚惣」と「映涼台」の両方なんです。映涼台の方は大体が東京のお客さんです。

映涼台というのは「海の家」ですか? 清水 そうです。うちと清正丸さん、それから白馬さん、出逢の鶴岡さん、八幡のみおの本町の石井さんの映涼台、無料納涼台というのもありましたね。普通、「海の家」は夏だけですが、こちらは取り壊さないでいよいよ恒久的な作ってあるのです。コンクリートの防波堤の所から橋を渡ってお客さんが入ってくる。映涼台に風呂、トイレがあつてたしか30円、アサリのお客さんは漁業券というのが30円、マンガといってアサリを取る道具が15円、風呂が5円だったと思つた。映涼台は「映涼台」はいまの運動公園の先あたりにあった。毎年、明日から営業を開始するという時に奥行き行って、海岸を借りる申請をする。8月も20日になると土用波がきて海も終わり、とにかく一瞬です。最盛期はどのくらいの人が入りましたかね。千人くらいでしょうか、ちよっとと雇われて









乾小天守 西小天守 天守 東小天守

天守

多聞付 天守 付付



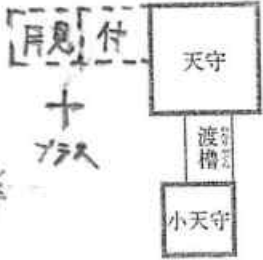
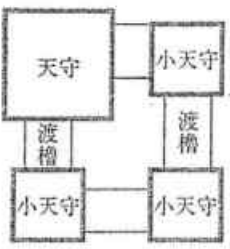
姫路城

松本城

彦根城

連立式

連結式



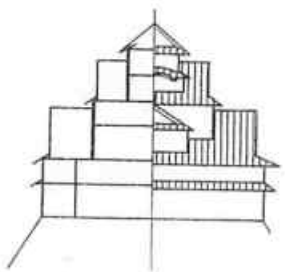
天守群



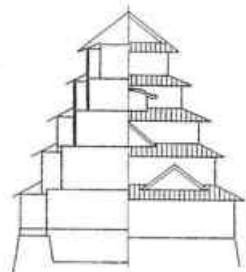
犬山城

複合式

独立式



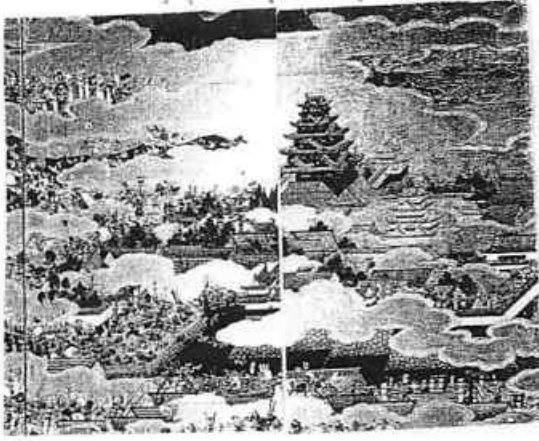
●天守の二形式 望楼型と層塔型  
望楼型(左)は入母屋造の大きな屋根をもつ一階建てか二階建ての建物の上に、二階建てか三階建ての建物(望楼)を載せる。層塔型(右)は入母屋造の建物をもたず、各階(各重)を規則的に積み重ねる。



安土城

大坂城

江戸城



織田信長



豊臣秀吉



徳川家康





### 城歩き基礎講座「天守と石垣」

#### 1) 国宝4天守と国宝御殿1城\*プロローグは姫路城から

- ①姫路城(酒井15万石居城)=大天守(5重6階)、西小天守、乾小天守、東小天守、渡り櫓4。連立式望楼型天守。慶長19年。白鷺にたとえられる世界遺産白亜の巨城。
- ②松本城(松平戸田6万石居城)=大天守(5重6階)、乾小天守、渡り櫓、辰巳付け櫓、月見櫓。連結式塔層型天守。豊臣桃山時代(文禄3年以降)。黒い城を代表する複雑天守群組み合わせの妙。
- ③彦根城(井伊18万石居城)=天守(3重3階)、付け櫓、多間櫓。複合式望楼型天守。慶長11年。大坂城包囲網の天下普請で築いた琵琶湖を望む寄せ集めの堅城。
- ④犬山城(尾張付け家老成瀬3万石居城)=天守(3重4階、地下2階)、付け櫓2。複合式望楼型天守。未詳(17世紀はじめか)。木曾川景勝の地に聳える古式の城。
- ⑤二条城(将軍家京都別荘=世界遺産)=二の丸御殿。慶長6年、寛永3年。天皇が行幸した絢爛豪華な京都の城。

#### ⑥現存天守12城(弘前と丸亀は非公式天守=三階櫓)

弘前城、丸岡城、備中松山城、松江城、丸亀城、伊予松山城、宇和島城、高知城

\*天守級現存櫓=名古屋城西北隅櫓、熊本城宇土櫓

#### ⑦日本の城の美学(近世城郭の魅力)=緑の水濠を囲む石垣と天守、白漆喰塀のコントラストにある

#### ⑧天守をめぐる6つの切り口

\*ポイント①=望楼型と層塔型。織田信長にはじまる古式天守は大入母屋屋根に望楼をあげた望楼型で、石垣技術が向上した慶長後期から五重塔を進化させた層塔型になる。屋根は入母屋、本瓦葺。ねんど瓦のほか石瓦、銅瓦、金箔瓦もあった。シャチは火よけまじない

屋根のえらさランキング=①入母屋、②切り妻、③寄せ棟、別格方形。城はすべて入母屋

\*ポイント②=重と階。外観屋根数が重で内部のフロア数が階、望楼型が屋根裏を破風の間にしたことので不整合が生じた。ちなみに五重塔は5重1階。上階は床や天井がない

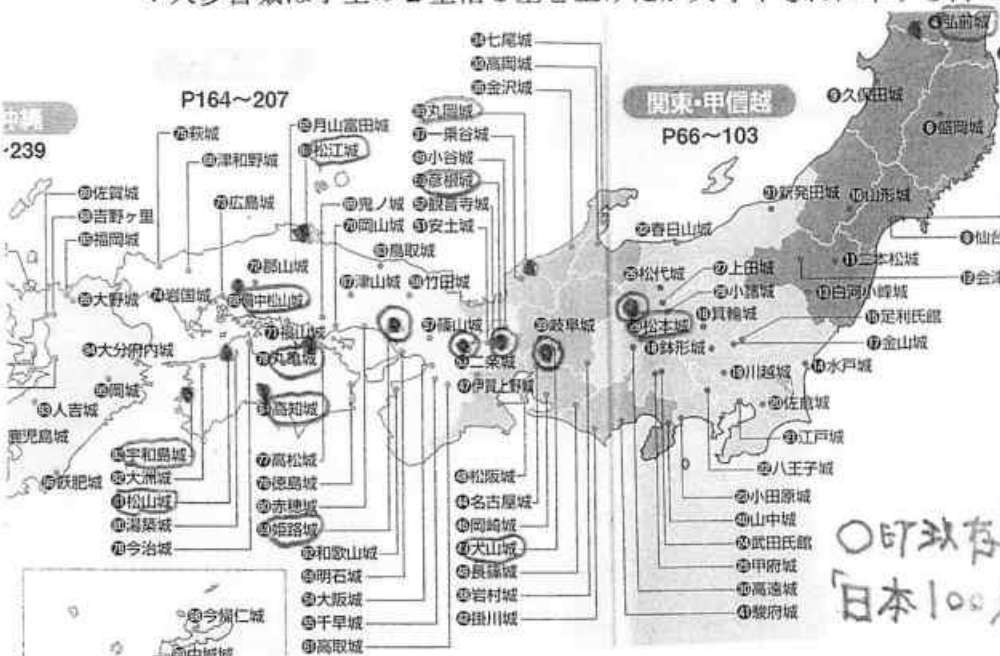
\*ポイント③=破風で天守を飾る。屋根の両端は入母屋破風、軒は軒破風で、出窓にも破風が付けられた。千鳥破風は千鳥が飛ぶ姿、唐破風は照りむくり。彦根城天守は破風が極端に多い

\*ポイント④=黒い城、白い城。望楼型は壁面保護のため下見板張り黒漆か柿渋塗装、豊臣時代の城で江戸時代に始まった塔層型は白漆喰の白い城

\*ポイント⑤=古式望楼型は城主の居住空間があり後期はない。たたみ、敷居で見分ける。各階真ん中の母屋を武者走りが囲む。狭間と石落としなどで最後の抵抗、火がつけば逃げ道はない

\*ポイント⑥=関東の城には天守と石垣がない。将軍本拠の江戸城と東海道最後の抑え小田原城以外は土の城。幕府を守備する少祿の譜代大名が多く転勤族で城は官舎であった

\*大多喜城は小型の2重櫓8基を上げたが天守やそれに準ずる御三階櫓はなかった



世界遺産 二条城

○印は現存  
「日本100名城」から

## 2) 日本に城はいくつあったのか

- ①全国の城数は4万とも5万ともいわれる。千葉県には2000、市原市は200、およそ1か村に1城の計算となる。多くは戦国時代のもので、江戸時代のもはおよそ1割程度である。
- ②江戸時代、大名家格で決まった城と陣屋
  - \*国持ち大名、国持ち並み大名、城持ち大名、城主並み大名＝国主、城主、居城（およそ200人）
  - \*無城大名＝城を持つことを認められず陣屋を居所とした。天守はない（およそ2万石以下100人）
- ③天守数の推移＝江戸時代最盛期117、幕末時点65、昭和戦災前20、現存12  
昭和20年名古屋城、和歌山城、岡山城、広島城などを焼失
- ④復元された天守（文化庁基準）
  - \*復元＝文化庁が定めた基準を満たしかつ、元の位置に同じ外観、内部構造で木造再建したもの（掛川城、白河小峰城、新発田城、白石城、大洲城の5城）
  - \*外観復元＝およそ同じ位置で外観のみ同じ姿で再建したもの（名古屋城、和歌山城、熊本城など）
  - \*復興＝位置や規模はおよそ同じだが外観は史実と異なって再建したもの（大坂城、小田原城、大多喜城など）
  - \*模擬＝位置や規模も外観と異なって建築したもの（関宿城、久留里城、館山城など）
  - \*千葉城、熱海城などまったく史実に基づかない天守風建造物も模擬とする考え方もある

## 3) 土（土塁）の城と石（石垣）の城

- ①城は土が成ると書く。はじめ館の周囲に柵や濠、土塁をめぐらせ、より堅固な山城へ。
- ②織田信長の安土築城。城郭革命 近世城郭のはじまり  
戦う城からみせる城へ。山城から平（山）城へ。政治の中心地＝城下町  
天守は権威の象徴
- ③関西と関東の城\*城の地域性  
関西の城は石垣、水濠、天守、3点セット＝  
関東の城は土塁、空堀の城
- ④南関東で石垣、天守の城は江戸城と小田原城だけ
  - \*江戸城＝江戸幕府政庁。日本最大、天下人の城。JR中央線と外堀通りに囲まれた千代田区、中央区全域20平方km。現在主郭部は東御苑、皇居、吹上御苑、北の丸公園など。水濠、石垣の奥深く天守、本丸御殿、西の丸御殿、庭園などを連ねた
  - \*小田原城＝東海道を固めた関東最大の堅城。戦国時代北条早雲が土の城を築き、上杉謙信や武田信玄を退けたが豊臣秀吉の大包囲作戦に敗れた。江戸時代は幕府創設の功臣、大久保氏が石垣、天守の城を築いて東海道を抑えた
  - \*その他水戸城、佐倉城、川越城、古河城、関宿城、宇都宮城などは土の城。ただし織豊時代の石垣山一夜城、金山城、唐沢山城、笠間城詰め城部分などには石垣積みがある
  - \*理由は前出。江戸城周りに配備された譜代大名は国替えの多い小禄大名で一時的な陣城と考えたこと、江戸城出城を自負して遠慮したこと、元和の築城禁止令などが影響した



安土城石垣



石垣山一夜城



小田原城

### 4) だんとつ日本一の巨城、「天下普請」築かれた江戸城の石垣

①江戸幕府成立直後の慶長9年第1期工事から寛永9年「総構え工事」まで。10数度。

②天下普請=全国大名の手伝い普請

\*石垣工事は池田輝政、福島正則、加藤清正、毛利秀就ら。総石数は数億こに及んだ

\*第1期工事の黒田家文書

「角石12、長さ8尺より7尺の間、幅厚さ3尺、

角脇石12、長さ5尺の内外、幅3尺、幅は2尺5寸にても苦しからず」

10万石につき100人持ち1000余、総計6万個

\*寛永から「間知石」が中心になる。規格に仕上げられた石を運ぶことで現地の作業時間を短縮

③伊豆の石切り丁場

石材の調達を命じられた諸大名は伊豆東海岸、一部は瀬戸内小豆島に「石切り丁場」を確保し、「丁場預かり」を置いて管理させた。石切り丁場では緊急命令に対処するため予め製品や半製品を常備した。

\*各地に残る残念石。海底にも多くの沈み石が現存している

④あら割り石と切り石

⑤専用港。出荷場

⑥海上輸送。石船3000艘。伊豆から江戸へ海上2日。海難事故が多発した。

⑦陸揚げと輸送。道三堀から人力で現地へ

⑧穴太衆=石工の総称。穴太出身以外にも名乗る

分担ごとに幕を張って機密としたが、つなぎ目などで調整、交流が進み、技術革新とマニュアル化がすすんだ

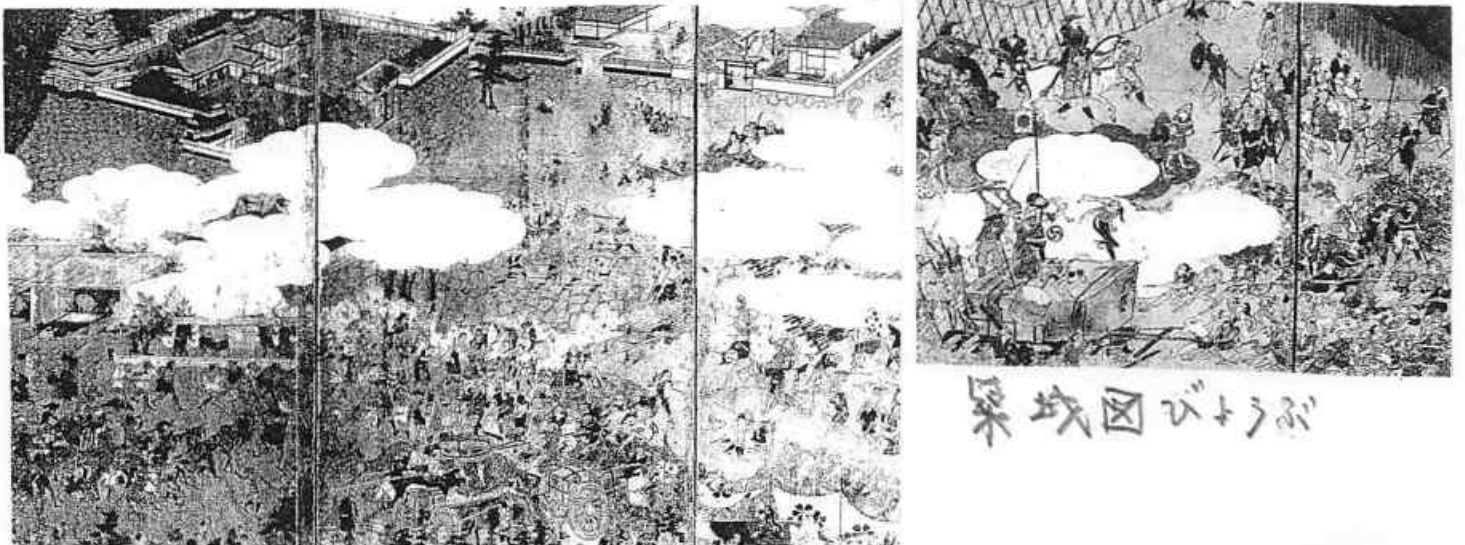
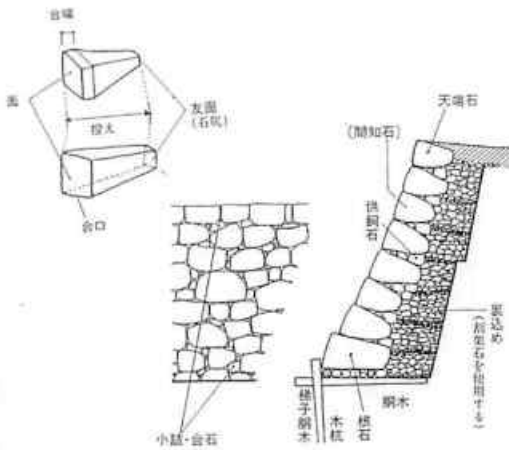
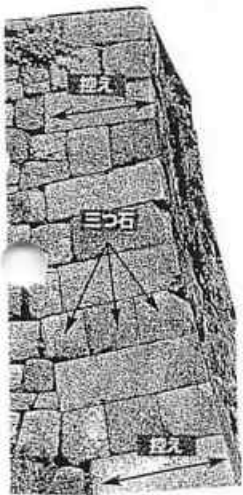
\*石積みはのづら積みから打ち込みはぎ、切り込みはぎへ進化続ける

⑨石垣の強度=関東大震災をも耐えた江戸城石垣

コーナー部「算木組」の完成、そりの活用

重力の分散=「わどり」(ヒラノスキー)

	Ⅰ) 発生期	Ⅰ) 前期	Ⅱ) 最盛期	Ⅲ) 整備期
時期	天正(1574)以前	天正-文禄年間(1573-96)	慶長年間(1596-1615)	元和-寛永年間(1615-44)
構造	柱石・門など部分的に用いる。石材の粗さ(粗い感じ)	勾配のゆるい直積形。段状の石垣あり。残置系城郭に多い。	石垣のゆがみが目だ見られる。勾配に成りやすく。	急勾配で高石垣もできる。平直な面にも、傾斜な面に整えることができるようになる。
築造	仮設の橋立て建物から礎石建物へ	天守の形成(切階築造型)	天守の発達(透櫓型)	天守の大型化(後期築造型)
石垣の種類				
積み方				



築城図びょうぶ





# 大坂城石垣石切丁場跡

江戸城 (香川県小豆島町)

No. 43

## 修復用の巨石 海路を運搬 西国大名が負担

## 白の石 (花崗岩)

### 夏の陣の後で

姫路からのフェリーが、小豆島から東玄関、福田港に近づくと、正面に大きな山が迫ってくる。やがて緑の山の中腹が、縦横百人以上もえぐられ、地肌を白く晒しているのがわかる。採石場である。映画「二十四の瞳」やテレビで知られる小豆島は、じつは古くから石材の産地でもある。

港から船沿いの国道を南に七、八切り立つた山がそのまま海に落ち込むような、険しい絶壁地帯となる。小豆島町の岩谷地区だ。ここには江戸時代初期、大坂城の石垣用の石を切り出した丁場と呼んだ作業場がそのまま現存し史跡に

後に便利だった。全島では九地区に丁場跡があり、それぞれ名が管轄した。

岩谷地区には六つの丁場がある。その一つ、天狗岩丁場。急な小道を登ると切り取られた、高さが一、二メートル、長さが数メートルある花崗岩が散在する。最終的に加工する前の種石だ。その角には石切用の鑿の跡が切り口見ると、五、六以上もある巨石が立ちまはる。天狗岩だ。その先に幾十枚分以上ありそうな岩が横たわる。中央部にまっすぐ鑿で切り込んだ跡が残る。

国道のすぐ海寄りには八人石丁場。高さ四、五メートル、長さ六、七メートルの巨石があり、そにはは向し石が立つ。切り出し作業中に岩が真上二つに割れ、八人の石工が下敷きになり圧死したと伝えられる。いまだに鑿跡が生々しい。この巨石、八十以上は推定される。

### 多数の残石

切り出したものの大半まで運ばれなかった残石も多数。この岩谷だけで千六百二十個を数える。岩谷の反対側、島の北西部にある



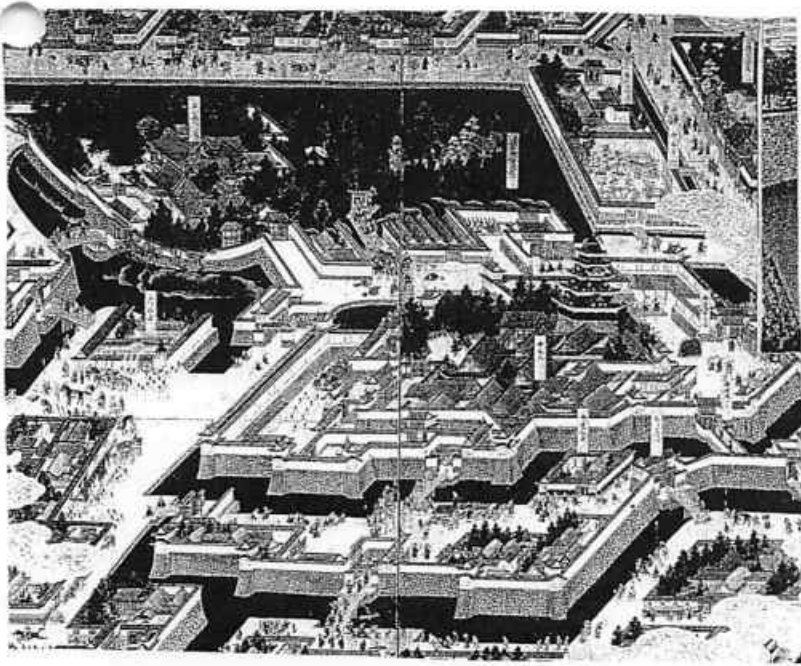
鑿の跡がはっきり残る天狗岩丁場の種石

元高松教師で郷土史に詳しい中村利夫氏は「一夜ではなかなか進めないのでしょ。田舎船という底が浅く平らな船がよく使われたようです。当時、大坂・高松間は最速でも三昼夜かかったもので、石ならそれ以上かかったでしょう」と見られる。機械がない時代、知恵と労力が巨石を動かしたのである。



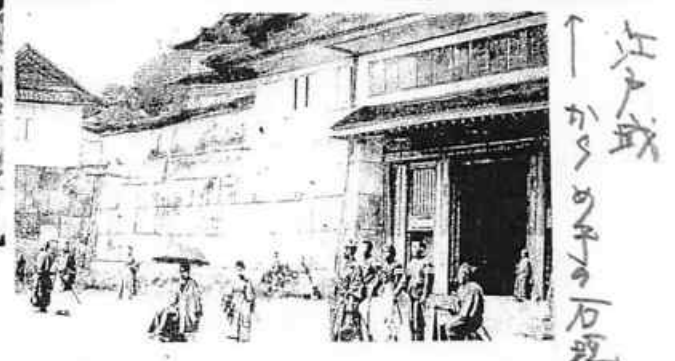
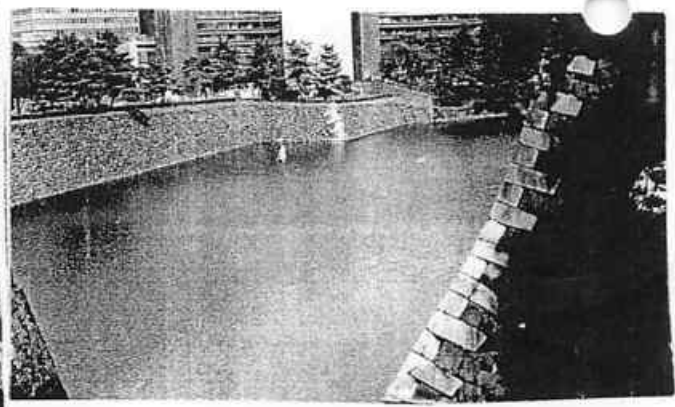
## 黒い石 石切丁場

## 早川石切丁場



寛永江戸城絵図

→ 真実内中



江戸城  
↑ かくろの石垣



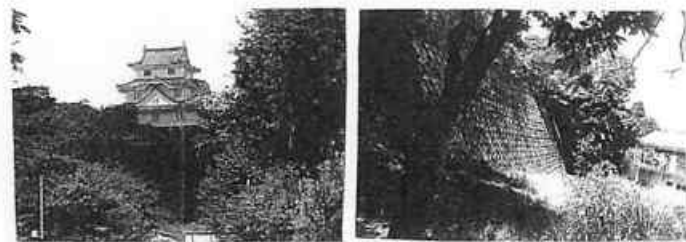
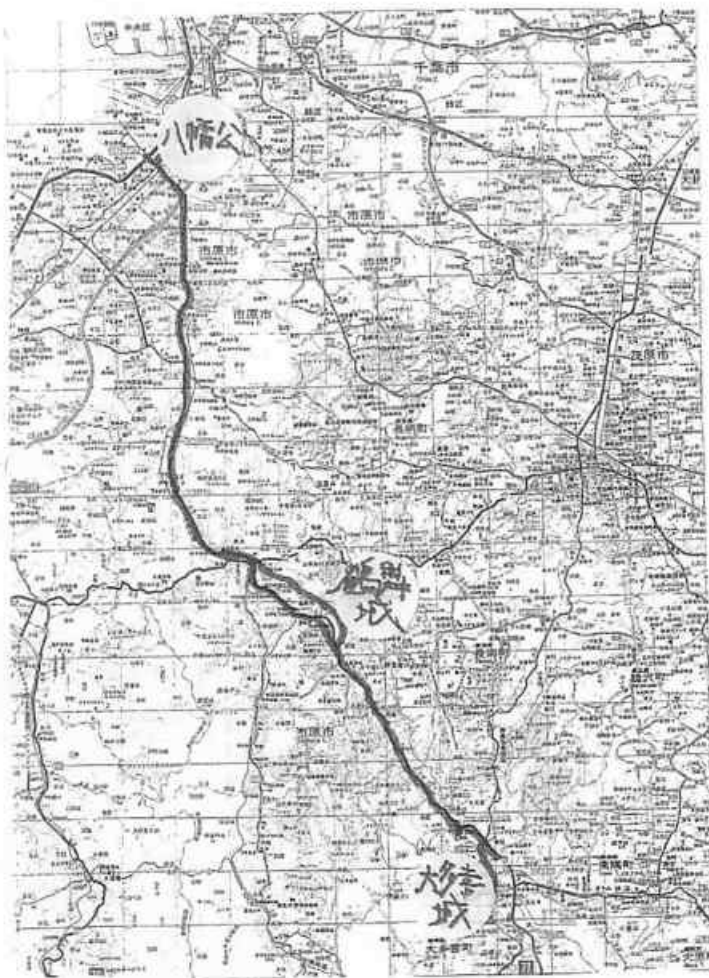
# 鶴舞城跡と大多喜城を歩く

## 明治維新5万石藩庁舎と「徳川四天王」本多忠勝居城

山岸弘明

### 主要行程

9時00分	八幡公民館発
9時45分～11時10分	鶴舞城(藩庁舎)跡
11時40分～14時40分	大多喜城とその城下
16時30分	八幡公民館着、解散



30丸の遠望する待物館 大手門土塁水堀五木

### 「徳川四天王」本多忠勝居城 大多喜城



井上藩庁任地 溪松城



井上正直侯像



鶴舞城本丸跡

房総の山々が連なる夷隅山系の中央部、大多喜城は夷隅川が蛇行する標高73mの台地上に立地する平山城である。北から張り出す九十九谷と呼ばれる深山連山の最先端、山側を掘り切り、夷隅川を外堀とした天然の要害でもあった。

この台地に着目、はじめて城地を構えたのが戦国時代真つ只中16世紀はじめの真里谷武田氏であった。安房里見氏に属し勝浦城を本拠とする正木氏に対抗、小多喜(小滝)城と呼ばれたこの城をめぐる武田、里見、正木、血みどろの合戦が繰り返され、落城も数度に及んだ。

天正18年(1690)豊臣秀吉の小田原征伐の結果、関東6か国250万石に徳川家康が転封、小多喜の地に10万石の高禄をもって徳川譜代の重臣・本多忠勝が配置されたのは、房総半島を北上し、あるいは江戸湾口で小田原北条氏と争い続けた反骨の里見氏を封じこめるという家康の戦略であった。

戦国の乱世に武勇を発揮し、家康の関東入府に随い、関が原の合戦、江戸開府と続く、徳川開幕の基礎固めの政務に功績を重ね、酒井忠勝、榊原康政、井伊直方と並んで「徳川四天王」の一人に位置付けられた本多忠勝とはどんな男だったのだろうか。

忠勝は天文17年、三河国岡崎で松平家譜代の側近本多一族の長男として誕生、家康に仕え18才の桶狭間初陣以来50数度の戦いに出陣、姉川の戦いなどで武勇を発揮、数々の軍功を立てて幕府創業期に大いに活躍した。忠勝が使った槍は「とんぼ切り」という。その穂先にとまるだけでとんぼが真っ二つになったという。忠勝がすぐれたのは戦場での猛勇ぶりはもちろん、周旋、治世の才も持ち合わせたことにある。織田信長は「花実兼備の勇士」、豊臣秀吉は「東に本多忠勝という天下無双の大將がいる」と評した。

大多喜に封じられた忠勝は里見氏牽制のため大多喜城とその城下を整備、中世の小多喜城を詰めの城に台地と夷隅川という天然の地形を生かして「総構え」とした。関が原の合戦の小山評定を主導して三成討伐機運を醸成、去就を決め兼ねていた毛利、吉川軍に不戦工作を行なうなど東軍勝利に貢献して、戦後の諸大名「論功行賞」にあたった。慶長6年桑名10万石に転封したが、2男忠朝が大多喜5万石を継承、忠勝は慶長15年桑名で天寿を全うした。63歳であった。



### 大多喜城主の変遷

- 武田(真里谷)直信、朝信=16世紀はじめ築城
- 正木時茂、信茂、憲時、時茂=天文14年ころ
- 本多忠勝(10万石)、忠朝(5万石)、政朝=天正20年
- 阿部正次(3万石)=元和3年
- 青山忠俊(老中2万石)=元和9年
- 阿部正能(老中1万石)=寛永15年
- 阿部正春(1万石)=寛文11年
- 稲垣重富(若年寄2万石)=元禄15年
- 松平(大河内)正久(若年寄2万石)、正貞、正温、正升、正路、正敬、正録、正和、正賢(老中格)=元禄16年





## 未完成のまま終わった明治維新の「鶴舞城」

### 1) 徳川宗家の駿府移封にともない7藩が上総、安房に転封\*鶴舞藩の成立

- ①明治元年、徳川宗家を継承した徳川家達の駿府70万石移封にともない、浜松6万石城主の井上正直と掛川藩大田資美、沼津藩水野忠敬ら駿河、遠江の7大名に上総、安房の旧幕府領に転封が命じられた。
- \*同時に上総、安房に転封された6大名  
掛川太田5万石(上総松尾へ)、沼津水野5万石(上総菊間へ)、田中本多4万石(安房長尾へ)  
横須賀西尾2万石(安房花房)、相良田沼1万石(上総小久保へ)、小島松平1万石(上総桜井へ)
- \*江戸時代の房総地方は幕府の経済基盤を支える穀倉地で、将軍家直轄領と旗本領が錯綜していた
- ②上総市原郡の内陸部に封じられたのが井上藩であった。藩ではとりあえず長南の名主今関家を仮藩邸として城地の選定を急ぎ、石川村切木台で築城工事を起した。城地は舌状台地先端に立地、3面を急ガケに囲まれた天然の要害で、からめ手と東側面の尾根を掘り切りして主郭部を築き、前面に城下町と武家屋敷地を配した。
- \*平山城、連郭式縄張りといえる
- ③鶴舞城の造成は急ピッチで進み、山中の寒村に一躍巨大城下が誕生した。現在の巨大団地造成に似ている。新政府支給の工事予算は年1800両と玄米など、3年間分であった。
- ④城名は地形が鶴に似た、また鶴舞谷にちなんだともいう。
- ⑤工事半ばの明治3年、藩主御殿など一応の完成を待って入城、しかし一方で時代は大きく変わろうとしていた。明治2年諸藩主は連名で版籍の奉還を願い出、翌4年には廃藩置県が行なわれた。築城工事は未完のまま終わった。鶴舞城は天守も櫓もない「土の城」だが、当初は前任地・徳川家康が築いた浜松城をイメージしたと考えられる。残念ながら詳しい資料は残っていない。
- ⑥完成した建物は藩主邸と藩庁舎の2棟、明治維新後鶴舞小学校として使用された。

### 2) 藩校「克明館」と鶴舞神社\*鶴舞公民館に駐車

- ①バスは国道297=大多喜街道をすすみ「県道鶴舞牛久線」、からめ手から鶴舞城跡へ。旧2の丸相当、藩校「克明館」跡の鶴舞公民館で降車。
- ②弘化2年、教育熱心だった先代藩主井上正春が浜松城時代に開校した藩校。校名は「よく俊徳を明らかにする」から。
- ③朱子学+洋学、洋式兵制訓練。8歳で入学、藩士子弟教育が目的であったが、のち士族以外の入学も認められた。明治5年廃校、新学制の公布で現在の鶴舞小学校に引き継がれた。
- \*市内佐瀬の旧名主家に伝藩校長屋門が現存している
- \*藩校跡史蹟杭=鶴舞藩藩校克明館跡=
- 藩校克明館は明治元年浜松から転封にともなって鶴舞に移転され、明治6年の鶴舞小学校の開校まで存在したといわれています。藩士以外の篤学者にも入学が許され明治初頭の地方の子弟教育に大きく貢献致しました。
- ④隣接する鶴舞神社は明治3年井上氏建立。祭神の稲荷社、秋葉社は井上家が信仰、鶴舞城の守り神とされた。境内に浜松から移築した水盤があり、経緯不詳ながら前任地からの由緒を引き継いだものだろう。
- \*毎年の祭礼の際旧藩士が集まって旧交を温めたという藩士名ノボリが残っている



藩校跡の  
鶴舞公民館



鶴舞神社  
↓



克明館跡杭



鶴舞藩領

### 3) 切り立つ断崖は天然の要害 \* 2の丸高台から立地をみる

- ①鶴舞城跡を一巡して公民館に戻る。
- ②旧上級藩士山内邸展望広場 = 2の丸相当、切り立つ断崖で城立地、自然の要害を体感。  
現存土塁。土塁下の城下迂回路は主郭を巡ってからめ手に通じた。戦時の帯曲輪を意識か。

### 4) 堀と土塁が現存 \* 本丸水濠と空堀、土塁

- ①江戸時代からの農業用セキを利用した本丸水濠が現存している。
- ②水濠と直角、変形T字型に本丸乾壕の一部が繋がっている。本丸の回りは1辺が水濠で残り3辺が空堀とみられる。水濠と乾壕との接続部は一体化しているようであり、乾壕が水濠だった可能性もある。  
\*参考図として紹介した「迅速測図」をよると、本丸乾壕土塁は折れのある直線で延長およそ150m、高さ4.8m、やぐら台はない。土塁幅は1mと狭く城壁どころか柵も作れそうに無い。また壕の底面幅6.8m、深さ3.8m、堀底は舟型になっている。防御面ではあまり期待できないのではないか。

### 5) 鶴舞小学校として明治後期まで活用された \* 本丸藩主邸、藩庁舎跡

- ①鶴舞保育所(旧鶴舞小学校)に本丸藩主邸と藩庁舎が置かれた。  
\*藩庁と知事邸 = 政務を司る藩庁(表)と藩主私邸(中奥)、家族の居所(奥)からなつたと考えられる  
明治15年迅速図には当時鶴舞小学校として使用されたやや大きな建造物2棟が記載されている  
\*鶴舞小学校百年史 = 車寄せ、石畳、けやきの一枚板を並べた板の間の玄関(式台か)、両隣はめ板に玉モク、釘隠しギボシ、子供に開かない4枚の大戸、広間、大きなやぐら太鼓などの記載がある  
\*参考までに同時期掛川城から松尾城に移封された大田6万石藩庁舎の藩庁舎要図を付した。比較検討したが鶴舞城迅速図に共通点を見つけることはできなかった

- ②鶴舞城本丸跡碑 = 鶴舞城本丸の跡
- ③鶴舞藩庁跡史蹟看板 =

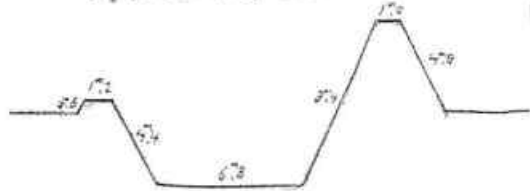
鶴舞藩は明治元年徳川家達の駿府移封にともない遠州浜松藩6万石の譜代大名井上河内守正直の上総鶴舞転封により成立しました。井上氏は四代正岑より六万石と江戸城雁の間詰めの家柄となり初代正就から十代正直まで転封を繰り返しながら幕府の要職を歴任し、正直自身二度も老中に抜擢されています。正直は明治2年2月11日はじめて藩領長南宿に到着し今関家を仮本営、浄徳寺を仮庁舎とし3月12日には城地を求め原野桐木原の開墾に着手、翌3年4月に藩庁知事邸が完成し藩名「鶴舞藩」が確定します。この間、明治2年6月の版籍奉還、また明治4年7月に廃藩置県が行なわれ、長南での大名時代



明治15年迅速図の鶴舞城跡

十分百三箇所、壕乾跡城村舞鶴

本丸大宇空堀



29丸高台が9眺望



は5か月、鶴舞での藩知事時代は15か月でした。

④鶴舞藩大井戸碑＝

この地に鶴舞藩、鶴舞県庁が築かれた時代、良質な水が豊富に産出される地として選ばれました。今なお随所の井戸は良質な水で有名です。

⑤椎の大木

⑥井上正直像＝天保8年～明治37年 と鶴舞の誕生、ここは鶴舞城下町、明治2年

井上正直侯は出世城いわれる浜松城々主でした。明治2年お国替えでこの地に来ました。この地を鶴舞藩と称し、鶴舞藩庁を建て教育、文化、政治経済のあらゆる面で活躍し、鶴舞の基礎を作りました。

⑦水濠側土塁が現存

6) 尾根を掘り切る\*からめ手の守り

①切りたつ尾根を掘り切り、推定からめ手門

②いったんバスに乗車、車中から3の丸相当の武家屋敷街、大手門跡、鶴舞城下を通過する。

7) 武家屋敷地、大手門跡から鶴舞城下へ\*バス車中から

①大手道＝鶴舞城の登城路。城下と武家屋敷街、城を結んだ。

明治時代から昭和戦後期にかけて桜並木が続く市原郡市屈指の繁華街として栄えた。

②3の丸相当武家屋敷街＝整然とした碁盤目区画、区画ごとに土塁を回した。

\*鶴舞藩士700人、家族含めた人口3000人。子孫現住は3、4軒程度か

明治3年民部省統計＝華族4(知事井上家)、士族1200、卒族1900、平民59000

\*旧藩土邸の面影が残る家＝久保田家離れ、侍医湯川家敷地

\*春日井梅鶯の生家＝人気浪曲師。「南部坂涙の別れ」など。藩士子孫ではない

③鶴舞城と城下を分ける大手門跡。通称天朝門、いまでもこのあたりを大手という。門形式は不明、左手に門番所が置かれた。領民は通常武家地に入らず帯曲輪道をからめ手側に迂回した。

④鶴舞公園＝桜の名所、花見時期は近郷の人出で賑わう。鶴舞城とは無関係。

⑤鶴舞城下＝町人、百姓町を取り込んだ総構え城下。桐木台7軒の寒村に突如として6万石巨大城下が出現した。

\*明治7年鶴舞村戸数627、人口3126、県下第8位であった。現在は過疎化が進んでいる。

⑥バスは国道297号線に戻り、大多喜城をめざす。

\*大多喜藩の参勤交代道は茂原街道で、伊南房総往還から潤井戸、浜野をへて房総往還へ抜けた



大井戸



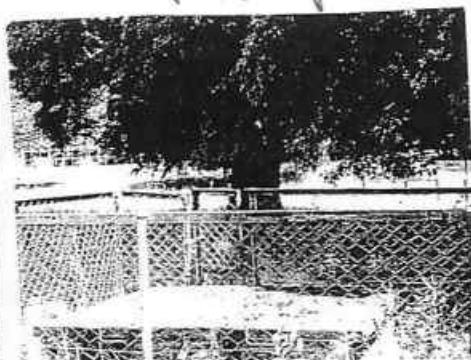
本丸碁



本丸水濠



本丸土塁



本丸の大じい



大手門跡



# 本多忠勝が築いた上総の名城「大多喜城」

### 大多喜城縄張図



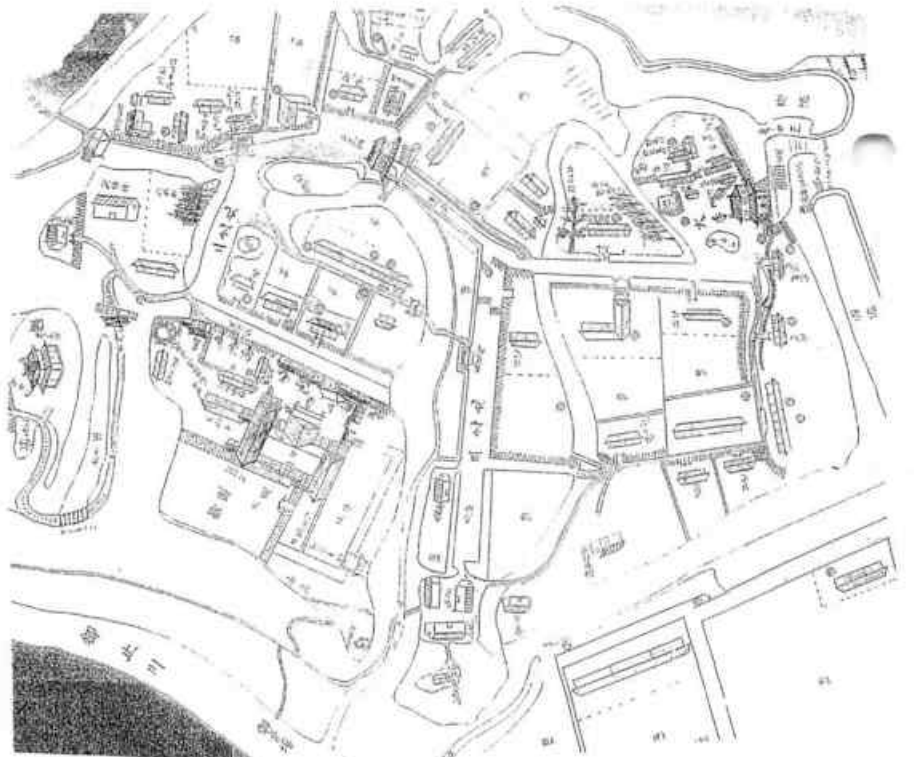
大多喜城博物館



本丸から二の丸を望む



二の丸行儀跡



明治元年の大多喜城図

### 1) 自然の地形を活用した要害 \* 大多喜城の特徴

- ①天然の要害=裏山に踏み入ることのできない深山をかかえた台地先端部に立地、中世山城を「詰めの城」、山階に2の丸、山すそに3の丸を配した階郭式、連郭式縄張り。近世城郭への移行期といえる。
- ②夷隅川の蛇行を外堀に利用=町人町、領民を取り込んだ「総構え」、天然の地形をうまく活用している。
- ③最大の弱点東側からめ手と大手に水濠、土塁を築き、寺院や低湿地を配して守りを固めている。
- ④近世土の城=2の丸と3の丸間に空堀、外濠、大手濠ともに広く近世城郭の鉄砲を意識している。
- ⑤厳しい大手の守り=水濠、はね橋、15mの城壁(土塁部分石垣)、鉄板門扉の2重やぐら門、桁形。2の門=切り石?城壁、登り坂、桁形2の門(ドン・ロドリゴ記録を考察)
- ⑥城主は2の丸に居住=本多氏当時は桃山式本格的な主殿建築。御殿は金銀で装飾(ドン・ロドリゴ)。\*ほぼ同時期の殿舎建築の現存は二条城2の丸御殿、後期のものに掛川城、高知城がある
- ⑦天守はないが角櫓を多用=2重角櫓10基、内訳は本丸1基、2の丸4基、3の丸5基。いずれも天保13年焼失か明治元年図にない。本丸発掘調査でもやぐら台跡は確認できなかった
- ⑧籠城を意識=中世正木氏の城を詰めの城、城内に自活の農地もあった。

### 2) 戦国時代の城を詰めの城に \* 大多喜城博物館

- ①大多喜街道を直進、七曲りをへて大多喜城下へ。
- ②いすみ鉄道大多喜駅、観光本陣、観光大手門(歓迎アーチ)を通過、右の高台が大多喜城3の丸、いすみ鉄道はおおむね大手水濠跡を走る。
- ③夷隅川=外濠。メキシコ通り。おとめ川(禁漁)。深い流れ、城の立地をみる。
- ④町営駐車場で降車。大多喜城博物館めざす。大多喜水道跡=藩政時代に計画、明治3年竣工、県下水道施設とされる。
- ⑤中世の大多喜城。八幡社出丸(近世は弾薬庫)。本丸詰めの城(緊急時の本拠)
- ⑥大多喜城博物館で昼食、自由見学。大多喜城模型、絵図など大多喜城関連資料を展示。各自、望楼風展望台から城地、城下、夷隅川、背後の丸十九谷など立地を確認。

### 3) 桃山殿舎が連なった本丸御殿 \* 大多喜高校

- ①本丸崖上から2の丸御殿跡などを俯瞰。空堀、土塁(帯曲輪?)。武者走り?から2の丸に降りる。
- ②大井戸=本多忠勝掘削という。周囲17m、深さ20m、日本一?とされる。大井碑
- ③本丸御殿跡=初期は桃山風御殿。金銀飾られた本格主殿建築。  
後期は簡略化城主御殿=車寄せ、玄関式台、遠侍、広間、表向き(役所、家老詰め所など)  
城主が普段居住する中奥、側室、子女の居所奥向き、庭、馬場
- ④2の丸役宅=家老屋敷、2の門(やぐら門)
- ⑤薬医門=元2の丸御殿門とされるが旧位置は不詳。明治維新の時地元旧家が競売で入手、現在地に戻された。屋根切妻造り銅板葺き、門形式を薬医門という。本柱、支柱の上に屋根を乗せた形で前面に軒先を作る。

### 4) 銃撃戦を意識した近世縄張り \* 3の丸から大手門へ

- ①大多喜高校の登校路途中から駅側のくぼ地に降りる。畑やテニスコートが続く低地は空堀跡で大堀切りになっている。右手3の丸側との広さを観察。鉄砲戦を意識した近世城郭縄張りがわかる。当初は畑地で後期は馬場として使用された。
- ②藩校「明善堂」跡=文政年間、松平正義が藩士子弟の文武教育機関として創設、明治3年校舎3棟を新築したが翌4年廃藩置県のため廃校、6年に火災焼失した。
- ③3の丸は藩庁役所、役宅。大手門前の家老役宅は現在八幡社になっている。

## ドン・ロドリゴの御宿座礁と「日本見聞記」

- ①ドン・ロドリゴ=1564年メキシコ生まれのスペイン人。フィリピン臨時総督
- ②慶長6年6月30日ドン・ロドリゴが乗船するサン・フランシスコ号が大多喜藩領の上総国岩田村の田尻の浜で座礁、乗員373名が遭難した。村民300人の寒村だが男たちは救済のため海へ飛び込み、女たちも肌で凍えた救難者を暖めた、こうして大半の317名が救助された。
- ③大多喜城主本多忠朝は救助を指揮するとともに一行を城内に向かえて歓待、その後ロドリゴは江戸に招かれて将軍秀忠と会見、駿府で家康に謁見して労をねぎらわれている。
- ④慶長15年家康が三浦按針（ウィリアム・アダムス）に命じて建造させたサン・ブエナ・ベントゥーラ号で豊前臼杵から帰国、スペイン国王は遭難者無事帰還謝礼のため駿府の家康に大使を派遣した。
- ④ロドリゴは日本漂着の体験を「日本見聞記」として残した。大多喜城については
- \* 1万ないし1万2千の人口ある「オンダキ」称する町
  - \* 殿の邸はその町全体より遙かに高き所にあり
  - \* 第1門を入れば1つの濠あり、深さ身長50?を超え、吊り橋ありて（中略）城地は天然にまたは少なくともわずかに人工を加えてほとんど侵すべからざるもの（中略）城門はことごとく鉄にて造り濠に面したる城の壁は高さ5m余の塁壁を設けたり（中略）非常に緊張せる銃手約100人あり
  - \* さらに約100歩進めばまた1つの堅固なる門あり、前より少し小なる城壁の大なる切り石をもって造りたるもの（中略）第1門および第2門の間には濠、菜園および庭園あり、稲田あり
  - \* 殿の宮殿に至れり。これらの室はことごとく木材をもって造りたるもの（中略）巧妙に工作し、金銀の各種の型および色を用い（中略）肉類、魚類および果実その他各種の美味たくさんあり

## 5) 大手門から城下へ

- ①大手門跡=前面に大手水濠、ロドリゴのはね橋とし明治元年図は土橋、登り坂横矢掛りを示す。大手門は2重やぐら門、1階が大御門で通路、2階は射場。西側急崖は自然岩山の石垣?と切り石を積み上げた部分石垣か、東側は土塁で壘上の明治図は竹矢来?だが当初は白壁の土塀であろう。また明治図の門内は郡奉行、勘定奉行の地は亀の甲山を土塁とした巨大な内枳形とも読める。
- ②大手水濠跡=東側はおおむね大多喜駅線路敷
- ③からめ手の守り=北側は城の最弱点といえる。水濠、寺院、中世城山
- ④四つ門跡=2の丸御殿表門から数えて2の門、大手門と続く4つめの門
- ⑤城下町散策=石井さん担当
- ⑥御菓子司「津知家」の包装紙「大多喜城絵図」は明治元年図を正確にトレスしてあり、原図より見やすい。今回の案内でも利用しました。時間あればおみやげに名物「10万石最中」をどうぞ。
- ⑦バスは途中「道の駅 あずの里いちほら」で小休止、八幡公民館をめざします。
- ⑧きょう一日大変お疲れさまでした。来年度の「八幡史学館」でまたお目にかかりましょう。

以上



39丸堀道



大手門跡



大手水濠跡



平成24年度 八幡公民館主催事業

4月18日から受け付け

# 電車でいざ鎌倉

## 感動の「切り通し旧道」と

### 新田義貞「鎌倉攻略の道」を歩く

講師 山岸弘明 氏

日時

- ・ 5月12日（土） 13:30～15:30
- ・ 5月26日（土） 7:30～18:00

場所

- ・ 八幡公民館 視聴覚室（5月12日）
- ・ 鎌倉（5月26日）

募集人数

- ・ 抽選 40名（一般成人）

内容

26日

鎌倉駅→稲村ヶ崎→極楽坂切り通し→  
長谷寺拝観（昼食）→大仏坂切り通し→  
高德院拝観→鎌倉駅（自由時間）

\* 徒歩の苦手な方はバスで移動

持ち物

- ・ 弁当・飲み物・敷物・交通費実費

参加費

- ・ 300円

お願い

- ・ 都合で欠席する場合は、早めにご連絡ください。

健脚で巡る古刹

# 電車でいざ鎌倉

5月26日(土)  
講師 山岸弘明 日



江ノ電に乗車して  
巡見出発!

新田義貞 鎌倉攻めの地  
稲村ヶ崎



切通し旧道を見ずに、  
鎌倉の歴史は語れない  
バスが疾走する大仏トンネルの脇に廃道となった旧道が残されている。鎌倉城の虎口である大仏坂切り通しである。  
敵の攻撃から鎌倉を守る防御施設であった切り通しに入るといきなり二〇メートル程の巨大な絶壁の切り岸に遭遇し、見る人の度胆を抜く。敵がよじ登れないように直角に削り落とした人口の岩壁で、上から石や木、弓矢を射掛けたと伝えられている。  
切岸にあるやぐらを見上げ、馬返し、置石を足元で体感しながら、ガイドブックにもない伝説の秘境を巡見した。



## 極楽寺

参道の苔むした鎌倉石がみんなを迎えてくれました。  
開山は忍性  
五輪塔が有名



元禄時代にタイムスリップ  
極上の味!



## 高徳院 大仏様

極楽寺坂切り通し、大仏坂切り通しの巡見を終え、大仏様に拝観。



長谷寺  
十一面観音菩薩像  
見晴らし台



八幡公民館主催事業\*電車で行く「いざ鎌倉」平成24-5-12

山岸弘明

- ①5月12日=大河ドラマ「平清盛」から源頼朝の「鎌倉城」へ
- ②5月25日現地巡見=感動の鎌倉城切通し旧道と新田義貞鎌倉攻略の道を歩く
- ③6月 日有志+1=北鎌倉から鶴岡八幡宮と大蔵御所跡を歩く(計画中)

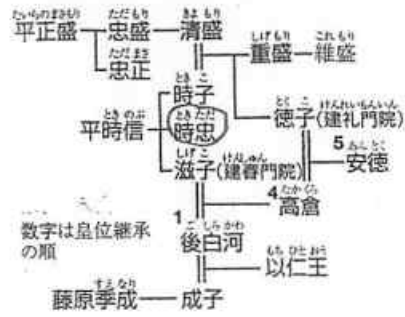


平成24年度大河ドラマ「平清盛」

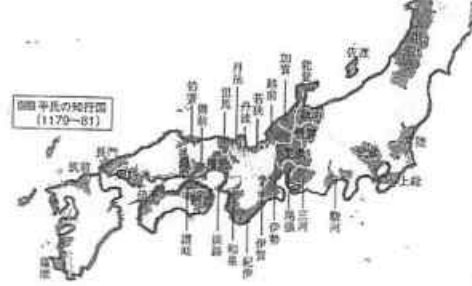
- ①平清盛=松山ケンイチ、父平清盛=中井貴一、妻平時子=深田恭子、源義朝=玉木宏、源頼朝=岡田将生、白河法皇=伊東四郎、祇園女御=松田聖子、崇徳天皇=ARATA、後白河法皇=松田翔太
- ②低迷する視聴率  
平清盛の悪イメージ=倣倣不遜、源氏の敵役
- ③見る気がしない クレームをつけた兵庫県知事
- ④ドラマは史実ではない。ドラマとして楽しもう

平氏にあらずんば人にあらず  
綺羅充滿して堂上花のごとし

平清盛  
安時代末期の武士で公卿も兼ねた。伊勢平氏棟梁家嫡男として誕生、一説は白河上皇の落胤とする。後白河上皇の信任をえて太政大臣に進み、上皇を押し込めて政権を掌握、全国の所領と要職を独占してわが国初の武家政権を確立した。治承4年いったん都を福原に移すが周囲の反対で半年後に京都に戻す。この年源頼朝や源義仲が平氏打倒の兵を起す。翌養和元年平氏政報の中病死、死因は心労とマラリアという。64歳であった。



平家一門の栄華  
平家一門の栄華といひてしかば、花族も英雄も面をむかへ肩をならぶる人なし。されば入道相国のこしうと、平太納言時忠朝のたまひけるは、「この一門にあらずらむ人は昔人非人なるべし」とぞのたまひける。かかりしかばいかなる人も相構へて其のゆかりにむすばはれんとぞしける。(平家物語)



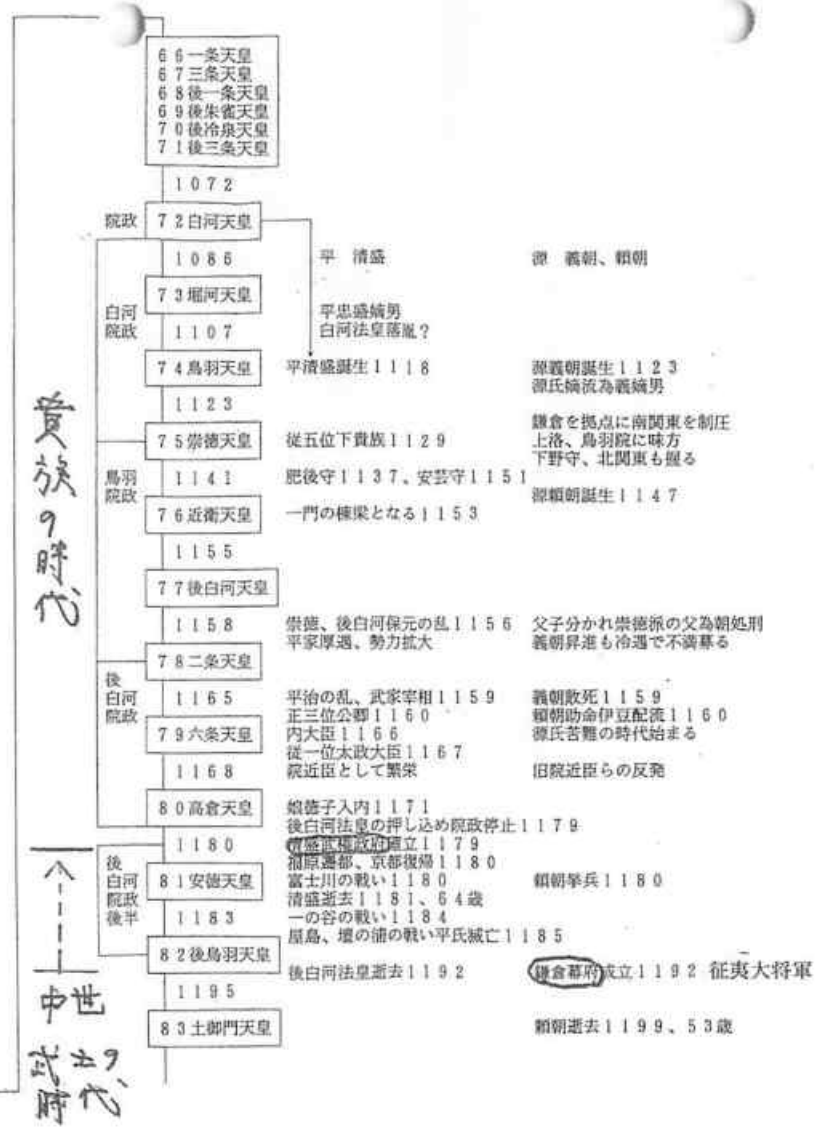
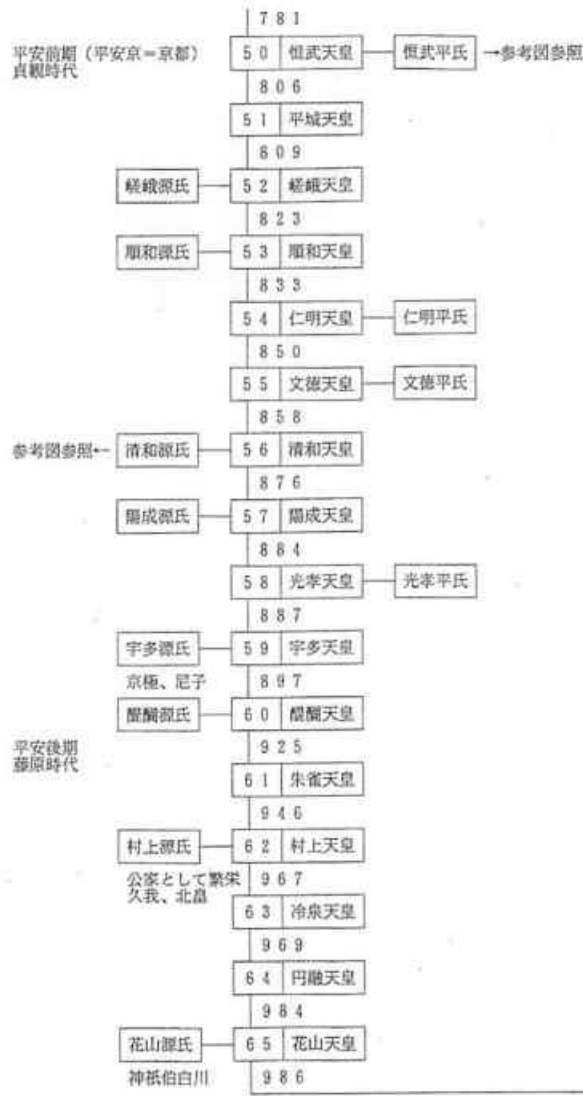
公卿16人 殿上人30人 長官クラス60人  
従3位以上 従5位以上=200人くらい  
貴族=朝廷側近の公卿

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。  
沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。  
おごれる者久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。



平家物語=平家滅亡後の鎌倉中期に完成、作者未詳、不朽の名作。びわ法師が語り継ぐ





①臣籍降下と皇族賜姓

天皇の男子は皇太子と親王、女子は内親王で男孫は王を名のった。ここまでが皇族、ひ孫は臣籍に降下した。降下にあたり姓を与えられることを「皇族賜姓」といい、平氏と源氏に天皇警固の任務が与えられた。源氏と平氏は武士として誕生したといえる。

②臣籍賜姓=とくに功績のあった臣籍にも賜姓された。

\*藤原、橘、豊臣などがある

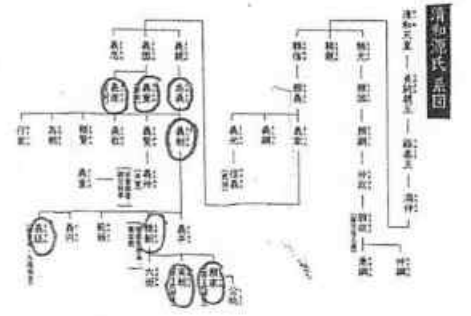
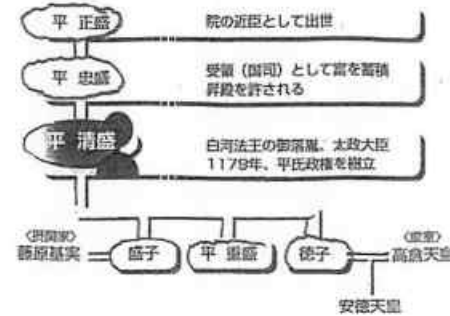
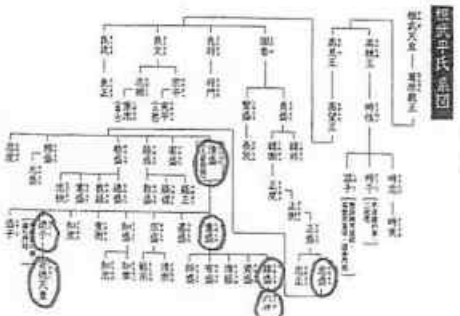
③平氏=平安初期に皇族賜姓によって生まれた氏の名。桓武、仁明、文徳、光孝の4平氏が生まれたが、中でも桓武天皇の孫・高見王から始まる桓武平氏がもっとも栄え、清和源氏とともに武家の棟梁となった。主人公の平清盛は一門の「伊勢平氏」から出た。

\*平氏のうち平清盛一族をとくに平家という

④源氏=嵯峨天皇以下9天皇から生まれた皇族賜姓。清和天皇から始まる清和源氏は関東を基盤に勢力を拡大、頼朝が鎌倉幕府を開き、足利尊氏は室町幕府を興した。

徳川	太政大臣	源	朝臣	家康	みなもと「の」
名字	官位	氏	皇子皇胤	名前	
羽柴	関白兼太政大臣	豊臣	秀吉	とよとみ「の」	
	太閤				

太政大臣は臨時の特別職、江戸時代の大老に相当  
関白>征夷大將軍=特任將軍、幕府を開く権限。源平にかぎる





平家物語 (巻第一)  
東京大学国文学部蔵  
紙21.6cm×横33.3cm

# 平家物語

**概観**  
 祇園精舎 いかなる者も、諸行無常、盛者必衰の理からはのがれ得ない。古今内外の例の中でも、最大の例は平清盛である。平氏は桓武天皇の後胤だが、正盛までは、諸園の受領でしかなかった。殿上閣計 鳥羽院の時、平忠盛が初めて昇殿を許された。殿上人たちはこれをねんで節会の際に閣計にしようとし、さまざまのいやがらせをしたが、忠盛の機転で、忠実な郎等のおかげで難を免れ、かえって院に認められた。忠盛は文事に通じた風流人でもあった。その子清盛は、保元・平治の乱に勲功を立て、めざましい昇進を上げて太政大臣にまでなった。これは鹿野権現のご利生だといふ。かつて鹿野参詣の途中、鐘が清盛の船に墜り入るといふ吉兆があった。禿髪 清盛は五十一歳で出家したが、ますます繁栄し、世はすべて平氏に迎合した。清盛は、異様な身なりの若者三百人を市中に放って、密告させ、反平氏の動きを封じた。  
 吾身榮花 清盛のみならず一族は繁栄し、息子・娘もそれぞれに榮華を極めた。日本六十六代国中、平氏の支配は過半に及んだ。祇王 清盛は横暴なるまゝにばかした。たとえ寵愛した白拍子祇王をたまに仏御前にかえ、さらに祇王の心を踏みにじった。祇王は母や妹とともに出家して隠居したが、仏御前も世の無常を悟って出家し、四人ともに仏に仕えて、やがて往生したといふ。二代后 世は不穏な動きが多く、院・内の対立もあつた。二条天皇は、故近衛天皇の后を無理に入内させ、自分の后としたが、永万元(二〇三年、病に臥し、わずかに二歳の六条天皇に譲位する。  
 額打論 同年七月、二条院崩御。その御葬所の周圍に寺々の額を打つ時、順序を争つて、興福寺・延暦寺の間で衝突が起る。清水寺炎上 山門の大衆は興福寺の末寺たる清水寺を焼き払う。世間には、後白河法皇が山門に平氏追討を命じたといふ噂が流れる。

## 祇園精舎

祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり。娑羅双樹の花の色、

盛者必衰の理をあらはす。おこれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ。遠く異朝をとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の周伊、唐の禄山、是等は皆旧主先皇の政にもしたがはず、榮しみをきはめ、諫をも思ひいれず、天下の乱れむ事をさとらずして、民間の愁ふる所を知らざししかば、久しからずして、亡じにし者どもなり。近く本朝をうかがふに、承平の将門、天慶の純友、康和の義親、平治の信賴、此等はおこれる心もたけき事も、皆とりくんにこそありしかども、まちかかは六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申しし人の有様、伝へ承るこそ、心も詞も及ばれぬ。  
 其先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原

## 祇園精舎

祇園精舎の鐘の音は、諸行無常の響きをたてる。釈迦入滅の時に、白色に変わったといふ娑羅双樹の花の色は、盛者必衰の道理を表わしている。驕り高ぶつた人も、末長く驕りにふける事はできないもので、ただ春の夜の夢のようにには滅びてしまふ。勇猛な者もついにには滅びてしまふ。遠く外国の例を搜してみると、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の安禄山、これらの人は皆、旧主先皇の政治にも従わず、榮しみを極め、人の諫言も心にとめて聞かないで、民衆の嘆き憂いを顧みなかつたので、末長く榮華を続ける事なしに滅びてしまつた者どもである。近くわが国にその例を搜してみると、承平の将門、天慶の藤原純友、康和の源義親、平治の藤原信賴、これらの人々は驕り高ぶる心も、猛悪な事も、皆それぞれにはなはだしかったが、やはりまもなく滅びてしまつた者どもである。ごく最近では、六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申しし人の驕り高ぶり、横暴なありさまを伝聞すると、なんとも想像もできず十分言

小学館版(2冊1000ページ)



平家物語絵巻 信西の首級(奇分)

# NHK 大河ドラマ「平清盛」の世界

## 平清盛のなぞ\* 白河法皇の皇胤か平忠盛の実子か

- ①平氏と源氏は天皇家を警固することで誕生。のち周囲の小武士団を統合して武士の棟梁となる。  
\*両氏は天皇の血を引くとはいえ武士の身分は低く、貴族の家人として宮廷や貴族の警固を担当した。  
のち「前九年の役」、「後三年の役」の活躍でようやく認められ、平清盛が貴族の政権を奪取することになる
- ②清盛の出生にはなぞが多い。母は白河上皇の元愛妾、祇園女御(異説も)といい、白河院から父忠盛に贈られていた。
- ③祇園女御の出自もまたなぞに包まれている。元白拍子とされる絶世の美女。白河上皇の寵愛を受け、祇園の地に邸宅を与えられた。上皇忍びのとき化け物が現われ、退治した清盛に褒美として与えられたという。清盛の出世のたびに白河上皇落胤のうわさが広がった。
- ④一方、ライバル源氏の棟梁・源義朝は清盛から5歳年下の保安4年(1123)に誕生している。

## 武士に支えられた院政時代\* 藤原摂関政治から政治形態が変わる

- ①「院政」は天皇の実父や祖父が実権を握り国を統治することをいう。とくに藤原氏による「摂関政治」が衰退した11世紀終わり73代堀河天皇の父白河上皇から始まる院政4代、およそ100年間を「院政時代」という。  
\*院政は世界に類をみない日本だけの政治形態といえる。院政の中心は「院庁」で、ここから出された「院宣」には朝廷も逆らえなかった
- ②院政の力が大きくなった背景に直属の「武士団」平氏と源氏の存在があった。院が武士を重用することで源平の活躍の場が広がった。

## 天皇と上皇が戦った「保元の乱」\* 清盛の勢力が拡大する

- ①75代崇徳天皇から近衛、後白河天皇にかけて権力を一手に握って院政を布いた鳥羽法皇の死後、後白河法皇と崇徳天皇の兄弟が後継を巡って対立した。それぞれに武士団が連なり天下を二分した。
- ②清盛は後白河方に付き、一方の源氏は父為義が崇徳方で義朝は後白河方となった。
- ③保元元年(1156)7月、清盛と義朝は白河殿にこもる崇徳天皇を急襲して破り、後白河上皇が後継者に決まる。戦後清盛は播磨守、大宰府長官となる。一方義朝は父を失い恩賞も少ない。平氏に遅れた義朝に不満が募った。



後白河法皇

保元・平治の乱



### NHK大河ドラマ

## 平清盛 第1回

8日 父

松山ケンイチが主役を務めるNHK大河ドラマ「平清盛」がスタート。貴族政治が崩壊を始めた平安末期、低い階級と評されていた武士として、初めて日本の覇者となった平清盛の生涯を描く。

――5年、京都、300年の平安を誇った貴族の世も乱れ、武家・平氏の雄飛である忠盛(中山)も、朝廷の命のままに

ある日、忠盛は物乞い家の母子(秋石)と出会う。母子は院政の御所に入りしる日母で、時の最高権力者・白河法皇(伊藤)の皇子を産み、不吉な子としておなかの子を殺さることを恐れて逃げた。忠盛は追う手である源氏方の武士・朝倉(小日向)の追及を受け、母子を自らのものにしようとする。

やがて、母子は忠盛の家の跡継ぎで赤ん坊を産み出す。その赤ん坊こそが、後の平清盛であった。

そして、人斬ることに決めている平清盛と母子は、次第に交わりを始めるようになる。

## 数奇な運命の清盛 誕生

**来週は** 青年となり、父の父を侍つという数奇な運命を知る平清盛(松山)は、阿蘇で自分いらいと、賭博をまっすぐまわっていた。人々は平氏の嫡男を「無難の高平太」と呼ぶようになる。それでも、忠盛は血のつながらない清盛を嫡男として育てて、弟の忠正(豊原)功徳と平清盛の2人なる嫡男に育てていく。



### 「平治の乱」で清盛が源氏に圧勝\*武門の頂点に立つ

- ① 3年後の平治元年（1159）二条天皇と後白河上皇との対立に端を発した平治の乱が起こる。義朝は一時天皇、上皇を自宅に拘束するが、清盛は奇策を弄して2人を救出、余勢をかって一気に義明を打ち破った。
- ② 敗れた源氏は義朝と嫡男義平が殺害される。
- ③ 義朝の側室・常盤御前は3人の息子をともなう清盛の元へ出頭、常盤の美しさに心を奪われた清盛は息子たちの命と引き替えに常盤を側室にしてしまう。  
\* 13歳の頼朝は伊豆に流罪、1歳だった義経は鞍馬山にあずけられた  
\* 一説では清盛父の正室宗子が若くして亡くした実子と似ていたことで助命嘆願したためとされる。のち平氏を滅ぼすことになる義朝の子を許した温情が仇となる
- ④ ライバル源氏を一掃した清盛は、第一人者として朝廷の軍事力、警察力を掌握する。

### 国土の半分を掌握\*平氏一門の繁栄ここに極まる

- ① 清盛の出世  
仁安2年（1160）50歳となった清盛は武士としてはじめて太政大臣となり、縁に連なる平氏一門から朝廷の要職につく者が多く出た。
- ② 清盛は摂関家などの貴族と婚姻関係を結び、承安元年（1171）には娘徳子（建礼門院）を高倉天皇の女御として入内させて安徳天皇の外祖父となった。
- ③ 全国500か所の荘園と多数の知行国を所有した。国司となった一門や家人を通じ一国の公地を事実上私有化、『平家物語』は「平家知行の国30余か国、すでに半国を越えたり」とある。
- ④ 一門繁栄の中に興隆を極めた清盛であったが、一方で恩恵にあやからぬ公卿や武士たちの反発が高まる。引き立てた後白河法皇や院臣にとって大きな危惧となっていた。
- ⑤ 治承元年（1177）東山鹿ヶ谷の山荘に法皇が行幸した時、平家打倒の密議が行なわれた。密告で知った清盛は関係者を処分、法皇を押し込めて院政を停止させ、ついに最高権力者に上り詰める。ここにわが国初の武家政治が樹立、中世「武家の時代」が幕を開いた。

### 1 源平の争乱関係年表

- 1177 6 鹿ヶ谷の除幕
- 1179 11 平清盛、後白河法皇を鳥羽殿に幽閉
- 1180 2 安徳天皇、即位
- 5 源頼朝、以仁王ら率兵、敗死①
- 6 福原京に遷都(11月には京都に帰る)
- 8 源頼朝率兵、石橋山の戦いで敗北②
- 9 源義仲率兵②
- 10 頼朝、鎌倉入り。富士川の戦いに勝利③  
(以後、西上せず、東国の安定確保に専念)
- 11 頼朝、侍所を設置
- 12 平重衡、南都を焼打ち(東大寺大仏殿・興福寺炎上)
- 1181 12 清盛死亡、「幕前に頼朝の首を供えよ」
- 4 義和の乱(〜83)おこる
- 1183 5 義仲、倶利伽羅峠(碓氷山)の戦いに勝利④
- 7 平氏都落ち、義仲入京(義仲軍の略奪多発)
- 10 後白河法皇、義仲討伐を要請  
(見返りに寿永二年十月宣旨=東国支配権を容認)
- 1184 1 頼朝、弟の範頼・義経を派遣し、義仲を討伐⑤  
法皇、平氏討伐を要請  
(見返りに平家没官領支配権を与える)
- 2 摂津一の谷の合戦⑥
- 8 法皇、鎌倉院(頼朝)の推挙なしで義経を叙任  
(以降、頼朝・義経対立)
- 10 頼朝、公文所・問注所を設置
- 1185 2 碓氷原の合戦⑦
- 3 壇の浦の戦いで平氏滅亡⑧
- 10 法皇、義経に頼朝追討の院宣を発給  
(義経、率兵に失敗し、奥州平泉へ逃亡)
- 11 頼朝、法皇に義経追討の院宣を要求
- 頼朝、法皇に守護・地頭設置の許可を要求
- 1189 4 頼朝、藤原泰衡に義経追討を要求
- 奈術、衣川の戦いで義経を自殺に追い込む⑨
- 7 頼朝、法皇に奥州藤原氏追討の院宣を要求
- 9 頼朝、奥州平定=奥州藤原氏滅亡
- 1180 11 頼朝、征夷大将軍任官を要求=法皇拒否
- 法皇、頼朝を権大納言・右近衛大将に叙任
- 1191 1 頼朝、政所(公卿=三位以上の家政機関)をおく
- 1192 7 法皇死去=頼朝、征夷大将軍となる

1183.10.10 寿永二年十月宣旨(1183年)の精簡の支配地

源頼朝の勢力範囲  
源義仲の勢力範囲  
平氏の勢力範囲  
奥州藤原氏の勢力範囲

● 国府 ● ももな戦場

— 源頼朝の行動(1180)  
— 源義仲の進路(1180~84)  
— 源義経の進路(1180~85)  
— 源義経の進路(1180~85)  
— 源頼朝の奥州征討(1189)

### 4 源平の争乱関係地図



主要出典) 新編日本史  
詳細日本史図録(中学教科書対応)

## 打倒平家へ\*源頼朝と義仲が挙兵

- ①治承4年(1180)後白河法皇の第3皇子以仁王(もちひとおう)が反平家ののろしを上げる。王は清盛の手勢によってあっけなく討ち取られるが、思いは源氏の頼朝と義仲に届けられ、それぞれの地で挙兵する。
- ②頼朝のいとこ義仲は北陸道から都に向かい、くりから峠の戦いで平家軍を大破して京都に入るが「旭將軍」といわれた勢いもここまで、軍兵の粗暴な振る舞いや自らの未熟さで孤立して敗死する。
- ③一方頼朝は、初戦の「石橋山の戦い」こそ敗れて安房に逃れたが、上総氏、千葉氏など東国武士の支援をえて鎌倉に入り、ここを本拠に力を養うことにつとめた。
- ④後白河法皇から義仲、ついで平家追討の命を受けた頼朝は弟の義経らを遣わし、義経は一の谷、ついで屋島で平家を打ち破り、壇ノ浦の合戦で滅亡させることになる。

## 敗報の中の清盛の死\*かなわぬ遺言「頼朝の首」

- ①清盛にとっての治承4年はまさに激動の年であった。「夢の国」をめざして福原(神戸)遷都を断行、直後に頼朝と義仲の挙兵を知る。常磐御前の命乞いで助命した経緯を振り返って清盛は激怒したという。
- ②その頼朝軍に「富士川の合戦」で敗れ、あわてて都を京都に戻す。ショックと心労が重なったのだろうか、翌5年熟病のため急逝、死因は当時流行のマラリヤであった。
- ③武士として始めて太政大臣に進み、政治の実権を握った男。神戸港を開き、海の向こうに夢をはせた「稀代の名将+政治家」の遺言はかなうことのなかった「頼朝の首」であった
- ④倣岸不遜、源氏の敵役として暗いイメージに包まれた清盛の評価が見直される日はあるのだろうか。

## 瀬戸内の海に育ち、瀬戸内の海に没す\*平家の滅亡

- ①大黒柱を失った平家は源氏の兵士に都を追われ、西へ西へと敗走した。
- ②元暦2年(1185)追い詰められた平家は壇ノ浦で義経率いる源氏と最後の戦いを挑んだ。勝敗を決めたのは熊野や瀬戸内の水軍が源氏に味方したことだった。清盛の本拠で長年平家とともにした水軍からも見放されていた。平家は瀬戸内の海とともに育ち、瀬戸内の海に没していった。

## 鎌倉幕府の成立と滅亡\*「盛者必衰の理」再び

- ①平家を滅亡させた頼朝は建久2年(1192)後白河法皇が没する直前、征夷大將軍に任じられて鎌倉幕府を開く。
- ②懐疑心強い頼朝は弟の範頼と義経を殺害、以後も一族間の血の粛清が続いた。2代頼家と3代実朝が相次いで殺害されて源氏の血統が途絶える。
- ③以後鎌倉幕府の実権は頼朝の妻政子の実家・北条氏に移る。
- ④北条氏の威勢は次第に高まり5代時頼、8代時宗、9代貞時のころ独裁政治となった。このころ幕府の要職や諸国の守護、地頭は北条一門が独占した。一族は政治を省みず遊興にふけり、わいろや不正が横行した。
- ⑤『平家物語』の「盛者必衰の理」がここにもあった。後醍醐天皇が倒幕運動を展開するともろくも崩壊する。
- ⑥鎌倉幕府を倒したのは幕府の武将・足利尊氏と新田義貞であった。  
源氏直系に近い両家にとって源氏は主筋だが北条氏に軽んじられるいわれはない。心の奥にそんな思いがあったに違いない。義貞は鎌倉の町を火の海にして北条一族を滅亡させている。

## 源頼朝の「鎌倉城」

中世は鎌倉と京都軸に展開\*頼朝、鎌倉幕府を開く

- ①鎌倉時代源頼朝築城、鎌倉幕府および室町幕府鎌倉府所在地。
- ②頼朝が鎌倉を本拠地としたのは源氏ゆかりの地であったことに加え、南面に海、三方を小高い山に囲まれた天然の要害、都城の地形であったことによる。
  - \*父義朝の旧居は現在扇ヶ谷寿福寺の地とされる。妻の北条政子が跡地に頼朝菩提のため同寺を創建、裏山に政子と3代将軍実朝の墓がある。
  - \*馬蹄形の連丘に囲まれた地域は弓矢の時代、理想的な都城とされ平安京、平城京、福原京なども同様な地形を選んでいる。
- ③中世「武士の時代」は、関東の武士団を掌握した鎌倉と天皇の住む京都の2枢を軸に展開した。

巨大総構えの都城\*難攻不落の切り岸絶壁と切り通し虎口

- ①鎌倉城の範囲は稲村ヶ崎から極楽寺切通し、大仏切通し、亀ヶ谷切通し、巨福呂切通し、鷲峰山、朝比奈切通し、天台山、名越切通しをへて飯島崎に至る外郭線の丘陵内部全域をいい、この中に将軍御所、幕府政庁と信仰の中心地鶴ヶ岡八幡宮、武家屋敷、庶民の町を取り込んだ総構え巨大城下町を築いた。
- ②鎌倉城の中心は八幡宮の東に隣接する現在清泉小学校周辺に置かれた大蔵幕府（御所）で、広さ6万㎡、周囲に水濠をめぐるせ將軍が住む大御所、家族の小御所、対の屋、持仏堂、寝所、釣り殿、庭園などを備えた。
  - \*持仏堂跡に頼朝の墓がある。大英雄にふさわしからぬ小さな五重石塔で江戸時代中期までは五輪塔だった
  - \*御所はのち、若宮幕府、宇都宮辻子幕府と変遷した
  - \*御所周圍に侍所、公文所（後に政所）、問注所などの幕府機関が置かれた
- ③鶴ヶ岡八幡宮は鎌倉の精神的支柱で幕府の公式行事が行なわれた。町の中心道路の参道＝若宮大道に段かずに築かれ、権威を象徴するパレードが行なわれた。
- ④総延長およそ20km、高さ100m余りの外郭線は切り岸の絶壁を連ねて兵馬の進行を遮断、切り立つ丘に「7口」と呼ばれる防御施設の切り通し虎口を築いた。
  - \*守りが厳重すぎれば城下町は発展しない、人と物の流通を優先すれば防御は甘くなる。本格的な切り通し工事を進めたのは3代執権北条泰時のころで、このころ鎌倉城は完成したといえる。
- ⑤7口には重臣を配備して守りを固め、防御体制の弱い地点には杉本城、住吉城、天神山城などの支城を配置した。
  - \*切り通しはわざわざ絶壁下を迂回させることで距離を稼ぎ、切り通しや横矢を連続させ、駒返し、置石を置いた。頂点は馬の背状の急崖とし、丘上尾根部分は守備側兵士が移動する武者走りになっていた。現在も大仏坂旧道、朝比奈切通しなどの一部が当時の旧態を伝えている。
  - \*鎌倉城を包囲した新田義貞20万の軍勢も切り通しを破れず、稲村ヶ崎の海岸から城内に突入した

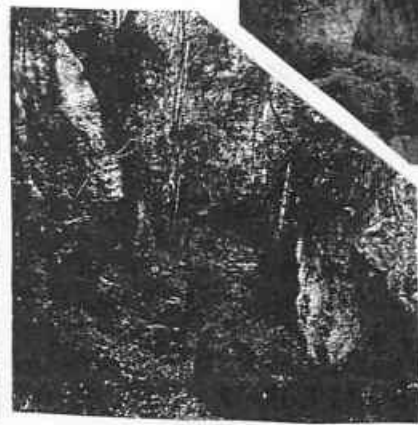


← 杯迎堂口

↓ 朝比奈切通し



大仏坂  
↓ 切通し



↑ 住吉城  
大切岸





### 稲村ヶ崎から突入\*新田義貞の鎌倉攻略とその後の鎌倉城

- ①元弘3年(1333)新田義貞が鎌倉城を攻略。北条高時以下は奮戦ののち自殺し、鎌倉幕府は滅亡した。平安時代以来、理想の都城として難攻不落を誇った鎌倉城も大軍を擁して攻め込むという戦法の変化に対抗するすべはなかった。
- ②延元3年(1337)新田義貞と並行して倒幕の軍を起こした足利尊氏が室町幕府を創設、鎌倉に「鎌倉府」が置かれ、鎌倉城は引き続き関東の中心地となった。しかし100年後、鎌倉府の内乱で足利氏が古河に逃れ、関東の戦国時代が始まるとその役割を終える。以後関東の中心は小田原、江戸へと移った。
- ③鎌倉はお寺や四季の花、グルメを巡る観光の町ばかりではない。その歴史は源頼朝が全国に号令した鎌倉幕府の首府=鎌倉城に始まる。「切通しを見ずに鎌倉は語れない」、次回現地巡見は、大感動の切通し旧道と新田義貞鎌倉攻略の足跡を訪ねる。

#### 1 城塞都市 鎌倉(南東上空より俯瞰)

鎌倉は源氏ゆかりの武士の都で、南方を海に、残る三方を山に囲まれた城塞都市である。山腰部分は人工的に切崩され、甲場や折形・切岸などの防衛機能が築かれ、鎌倉への出入りは7か所ある「切通し」を通らなければならない。切通し付近には、北条氏の有力氏族が配され、防衛にあたった。

#### 1-3 頼朝の墓



#### 1-6 建長寺



1253(建長5)年に5代執権北条時頼が創建(開山は覺範道隆)。この地の山之内は鎌倉外郭線の西北部、巨福呂坂切通し・龍ヶ谷坂切通しの外側にあり、鎌倉街道中づ道を束縛した敵に対応する拠点とな。



#### 1-9 鶴岡八幡宮

源頼朝が1063(康平6)年に京都南郊の石清水から勧請した由比若宮を、1180(治承4)年頼朝が現社地に移転。鎌倉の精神的支柱・都市計画の起点である。



#### 1-2 極楽寺

3代執権北条泰時(弟で、六波羅探題・連署を歴任した北条義時)は、鎌倉外郭線南西部にこの地にあった極楽寺(中間部には忍性→p.107)を基とし、古東海道を抑え、極楽寺切通しの防衛拠点とした。



#### 1-8 極楽寺



#### 1-5 和鋒江島



遠浅で波が荒かったため、入船に困難をともなった鎌倉村木坂海岸に、1232(貞永元年)年に築造された港湾施設。

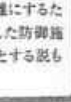


#### 1-10 和鋒江島

#### 1-15 名越の切通し

山腰部を開削して設けた出入口である。あえて道幅を狭くしたり、見通しを悪くすることで、大軍の通過を阻害した。また、兵軍の勢いを削ぐ目的で、上下の勾配に変化をつけたりする。

#### 1-7 切岸



切通し以外の山腰越えを困難にするため、山腰を垂直に切り落とした防衛施設。近年の調査で、石切場とする説も浮上してきた。



堀の切通し



# 切り通し旧道と新田義貞鎌倉攻略の道を歩く

## 1) 鎌倉幕府と新田義貞の鎌倉攻略＝プロローグ

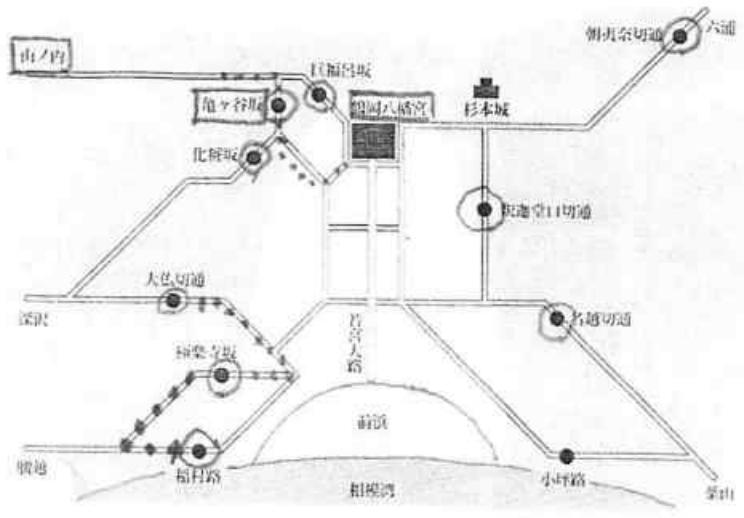
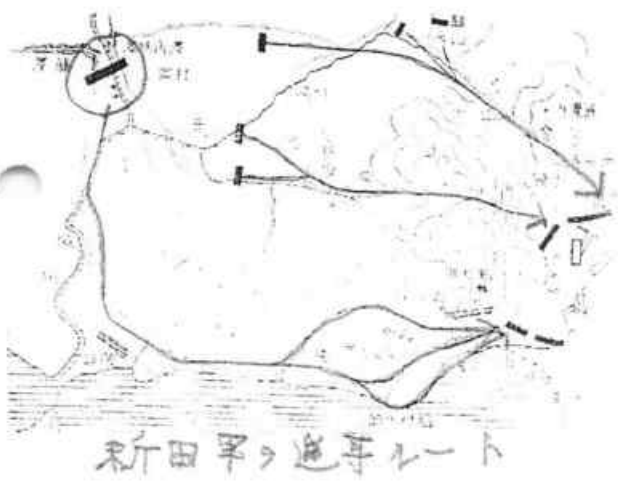
- ①鎌倉幕府（城）＝12世紀の後期、源頼朝が鎌倉に立てた武家政権。頼朝直系が3代、藤原氏将軍が2代、親王将軍が4代続くが実権は北条得宗家が握った。1世紀にわたって執権政治体制を持続したが、元寇を契機とした幕府の内紛と後醍醐天皇による公家勢力の反撃で崩壊した。
- ②鎌倉（城）は南面を海、3方を切り岸絶壁の山並みに囲まれた要害、街全体が総構えの「都城」であった。
- ③切り通し、鎌倉7口＝周囲の山を切り開いて作った鎌倉（城）の虎口。7口は極楽寺坂、大仏坂、化粧（けわい）坂、亀ヶ谷（かめがやつ）坂、巨福呂（こぶくろ）坂、朝夷（比）奈、名越の切り通しをいう。
- ④新田義貞の鎌倉攻略＝義貞は上野に土着した南北朝、鎌倉後期の武将。元弘3年（1333）わずか150騎で反幕府の軍を起こしたが、途中駆けつけた地方の兵を吸合、10万に膨れ上がった軍勢で鎌倉を攻め北条一族を滅亡させた。  
\*新田義貞＝清和源氏義国嫡流、上野の豪族新田朝氏の嫡男。北条氏に従って楠正成の千早城を攻めたが戦況を読んで寝返り、鎌倉城を落としたが足利尊氏とも対立、後醍醐天皇について敗死した
- ⑤鎌倉公方（府、将軍）＝新田義貞と鎌倉幕府を倒した足利尊氏は京都で室町幕府を興す。長男義詮を2代将軍に、4男基氏を旧鎌倉幕府の本拠跡地・鎌倉に置いて関東10か国（後奥羽2か国を追加）を分割統治させた。

## 2) 鎌倉から江ノ電で稲村が崎へ

- ①人気の江ノ電に乗り換えて稲村ヶ崎めざす。
- ②明治35年日本で6番目の電気鉄道として藤沢－江ノ島間に開通、明治45年鎌倉まで延長した。全長10kmの間に15駅、民家の軒をかすめながらゆったりと走る。車両もヨーロッパの香り漂う「レトロ列車」などさまざま、色や装飾もバリエーションに富んで楽しい。

## 3) 難攻不落の極楽寺口を破って鎌倉市街に突入＝稲村が崎

- ①元弘3年10万の大軍を率いた義貞は小手指が原の戦い、分倍河原の戦いに勝利、鎌倉に迫った。
- ②5月18日藤沢の州崎で迎え打つ公方軍5万を破った義貞は一気に化粧坂口に到着、ここで3隊にわかれる。義貞自らは主力本隊を指揮、極楽寺坂口には大館宗氏、巨袋呂坂口には大島守之を配して



稲村ヶ崎



両軍が対峙した。

③ 5月21日極楽橋口で戦端が開く。文字どおり難攻不落の要害は容易に落ちない。

\* 太平記 =

明け行く月に敵の陣見たまえば、北は切り通しまで山高く路険しきに、木戸を構え垣橋をかいて、数万の兵陣をならべて並いたり。南は稲村ヶ崎にて沙頭（しゃとう）路狭きに、波打ちぎわまで逆木（さかもぎ）繁く引きかけて、沖四、五町がほどに大船共を並べて矢倉をかきて横矢に射せんと構えたり

④ 稲村ヶ崎の山並み = 城壁は当時10m余りの急崖が連なる。山上は仏法寺で周辺を幕府軍が固めた。

⑤ 幕府軍はこの日こそ何とか持ちこたえたが、翌22日の再攻撃で山上を制圧される。

⑥ 義貞軍は稲村ヶ崎の引き潮を待って浅瀬を伝って鎌倉市街になだれ込むと鎌倉はたちまち火の海となった。

\* 稲村が崎碑 = 大正6年、鎌倉町青年会（漢字カナ文を現代文とした = 以下も）

今をへだたる584年の昔、元弘3年5月21日、新田義貞この岬を回りて鎌倉に進入せんとし、金装の刀を海に投じて潮を退けんことを海神にいうはこのところなり。

⑦ 火煙を合図に極楽寺切り通し、化粧坂切り通し、巨袋呂坂切り通しの3隊も一気に鎌倉に突入した。いよいよ市街での決戦に移る。もはやこれまで。覚悟を決めた北条氏棟梁、高時の決断は一族の自決であった。執権邸を後に一族は菩提寺の東勝寺に集まった。この地で命を絶った人870人、殉じた人6000余におよんだ。

\* 北条執権邸は現在の宝戒寺、自害の地は「高時腹切りやぐら」で「鎌倉幕府終焉の地」となる。

⑧ 稲村ヶ崎と引き続く山並み、仏性寺跡、極楽寺川。激戦攻防の地を眺めながら極楽寺めぐす。

4) 極楽寺坂切り通しを築いた開山上人 = 極楽寺

① 霊鷲山感応院極楽寺 = 真言律宗。鎌倉中期正元元年（1259）、2代執権北条義時の2男で極楽寺坂の守備隊長を勤めた重時が忍性上人を招き自邸に寺を開く。忍性は重時の子6代執権長時とともに極楽寺坂切り通しを開く。

② 当時600もの堂宇を谷津一带に連ねた大寺で極楽寺坂切り通し守備隊の本拠でもあったが、現在は茅ぶきの山門と鎌倉石の参道、不動堂のみ。盛時を想像できない。

③ 忍性は切り通しのほか、道路や架橋などの土木事業、病院、孤児院、養老院の開設などの慈善事業を行なって人びとの尊敬を集めた。最盛期は金堂、講堂、五重塔や49の支院など大伽藍を誇ったが度重なる天災、火災で消失した。

④ 山門 = 四脚門、かや葺き。みごとなけやき1枚戸。右くぐりから鎌倉石の参道を進む。

井戸跡 = 地産の鎌倉石に注目。やや柔らかめ。切り岸を生み、鎌倉古寺の石文化を作った。

本堂 = 宝形3間堂、棟上に北条氏の家紋三つウロコが輝く。

薬鉢、茶臼、北条時宗手植の桜



極楽寺川



関東の駅100選 = 極楽寺駅



上杉忠房一族の基



切り通しを  
開いた忍性  
←

← 極楽寺

5) こけむす上杉憲方の墓

- ①上杉憲方=足利時代の関東管領で山の内上杉家開祖。道向かい山裾に逆修塔の宝きょう印塔、開基の明月院にも宝きょう印塔がある。
- ②憲方の墓=安山岩七層塔。塔身4面に仏像、基台に格狭間を刻む。鎌倉中期の形式かつ巨大。隣の五層塔は妻の墓といわれる。周辺に一族の五輪塔数基がある。

6) 新田軍と幕府軍が激突した極楽寺坂切り通しと成就院の攻防

- ①極楽寺坂切り通し=京都と鎌倉を結ぶ幹線道路で、東海道を片瀬、腰越から鎌倉坂の下に通じた。現況は道路を掘り下げ直進、舗装拡張など変貌が激しい。かつての切り通しは極楽寺から西方寺(現存しない)境内、成就院前を曲折しながら山越えした。背後の岩山に切り岸が見えるがルートは解明されていない。
- ②鎌倉が落ちた5月22日の攻防では、稲村が崎を迂回した一隊と山上武者走り、極楽寺切り通しの3方面から鎌倉市街へ突入した。  
\*成就院後方の墓地は幕府防衛軍の本陣という。大将大仏貞直は切り込んで華々しい最後を遂げた
- ④成就院=弘法大師ゆかり地、承久元年(1219)3代執権北条泰時が創建。本堂は非公開。本尊不動明王、弘法大師像など。石段の両脇を埋める「アジサイ寺」として知られる。今回はまだ早い。
- ⑤旧道、石段からの由比が浜のながめを満喫する。好天なら最高の景観。  
\*極楽寺坂碑=  
このところ畳山なりじを極楽寺開山忍性菩薩、疏さくして一条の路を開きしという。すなわち極楽寺切り通しと唱うるはこれなり。元弘3年の鎌倉討ち入りに際し、大館次郎宗氏、江田三郎行義は新田軍の大将としてこの便路に向かい、大仏陸奥守貞直は鎌倉軍の将としてこの所を堅め相戦う

7) 成就院から御霊神社への道すじに

- ①星の井=鎌倉十井の一つ。昔樹木が生い茂り日中も暗く井戸をのぞくと星が輝いたという。鎌倉軍が飲料水とし、慶長5年関が原の合戦の前哨戦で会津をめぐす徳川家康も喉を潤したという。
- ②明鏡山円満院星井寺=虚空像堂。知恵と福を与え、すべての願いを叶えるという万能の神様。
- ③道標と力餅屋さん

8) 怪力鎌倉権五郎を祀る御霊神社

- ①鎌倉氏は鎌倉幕府以前鎌倉地区を領有した武将。「後三年の役」で活躍、怪力ぶりが知られる。

9) 観音霊場の長谷寺で昼食

- ①奈良時代、天平年間創建と伝わる名刹。本尊は高さ9mの観音像。古来観音霊場として信仰された。
- ②観音堂の高台から市街と由比ヶ浜を見下ろす。
- ③各自自由見学、昼食。集合時間厳守



成就院から由比ヶ浜まで  
夕ぞむ



極楽寺坂切り通し



長谷寺



←人氣のお店



昼食ポイント

## 10) 切り通しを見ずに鎌倉は語れない。鎌倉城を守る大仏坂切り通し旧道

- ①切り通し(前出) = 山や丘などを切開いて通した道をいう。鎌倉の切り通しは鎌倉城の虎口で、敵の攻撃から鎌倉を守る防御施設として作られている。
- ②大仏坂切り通し = 梶原、山崎から藤沢への道。バスや大型トラックが疾走する大仏トンネルの脇に廃道となった旧道が残されている。住宅図やガイドブックにもない伝説の秘境。
- ③当初はケモノ道程度で、余りの厳しさに鎌倉時代、室町時代、江戸時代、明治以降と数百年間に渡って改修された。コースは平場と山越えに分かれるが、山越えは一部崩落して危険なので今回は見送り、引き返してハイキングコースを迂回する。
- ④切り通し入口 = 火の見下バス停横、民家の軒先を通り抜けると不思議な小道に出る。
- ⑤切り岸 = いきなり高さ20mほどの巨大な絶壁に遭遇する。そびえたつ切岸は見る人の度胆を抜く。敵がよじ登れないよう直角に削り落とした人工の岩壁で、上から石や木、弓矢を射かける。  
\*かつて切り岸は鎌倉の周囲を一周したが数百年をへて大半が消滅、現在は一部が現存している。
- ⑥やぐら = 鎌倉のやぐらを墓所とみる人も多いが、矢倉の変化で櫓と同根。高さは開発の歴史を示している。
- ⑦馬返し(駒返し) = ガクンと一段上がった急坂、馬で一気に攻めこれないようわざと段差をつけた。
- ⑧置石 = 道の中央に置かれた巨石。通行を封ずる。
- ⑨屈折しながら切通しが続く = わざと複雑に曲折、距離を長くした道。この間で守備側は山上に作られた武者走りを巧みに利用したゲリラ攻撃も可能。カーブに、山上に城兵の姿が見え隠れしてうかつに攻め込めない。
- ⑩山越え = 急坂の山越え部分は一部崩落のため通行止め。ハイキングコースを迂回する。自信のない方は途中で引き返しバス移動、鎌倉大仏で合流する。

## 11) おなじみの国宝「鎌倉の大仏さん」

- ①正式寺名は「大異山高徳院清浄泉寺」だが、通称「鎌倉大仏」として親しまれている。
- ②阿弥陀如来坐像 = 像高11m + 台座2m = 総高13m、重さ124t。金銅造り、ほおなどに一部金箔が確認できる。
- ③鎌倉時代はじめ木造大仏として建立、台風倒壊のため建長4年金銅大仏に再建。室町中期の大津波で大仏殿を流出、以後礎石のみの露座となった。
- ④与謝野晶子歌碑「鎌倉や み仏なれど 釈迦牟尼は 美男におわす 夏木立かな」

## 12) 鎌倉駅に戻り、小町通りなどを自由散策

- ①長谷駅から江ノ電乗車、鎌倉駅に戻る。帰り電車まで自由行動。
- ②各自小町通りなどを散策、買い物を楽しむ。
- ③指定電車乗車、一路八幡宿をめざす。

以上



大仏坂切り通し旧道



山越え部分



鎌倉の大仏



⑦

← 大竹受切り道  
旧道



「切通し」とは、山や丘などを切りひらいて通した道をいう。三方を山にかこまれた天然の要害鎌倉には、俗に「鎌倉の七切通し」「七口」と呼ばれる切通しがある。鎌倉時代、敵の侵攻から鎌倉を守るうえで重要な拠点としての役割をはたすとともに、外の世界への窓口となった。

# 鎌倉七口物語

外界への「窓」は戦略拠点

## 極楽寺切通し

忍性のひらいた道

極楽寺を開創した忍性がひらいたと伝えられる。忍性は真言律宗の僧。道路や橋をつくったり貧しい人々を救済するなど社会事業に力をつくした。切通しは坂ノ下から越え片瀬へのびて東海道に通じた。京都と鎌倉をつなぐ大切な道でもあった。義経が平家の大物を捕虜にし、鎌倉へくだったのもこの切通し。新田義貞の鎌倉攻めの際には、義貞軍がここからの侵入を図ったが、幕府軍の防備は固く、新田軍は退けられたと太平記に記されている。現在は左右の樹影の下を舗装路がのびている。

## 大仏坂切通し

独歩もえかいた道

堀原、山崎から藤沢へとのびていた。「古へは深沢切通とも唱へけるといへり」と、ふるい書物にはある。作家国木田独歩は、明治35年頃のこの切通しの様子を、「大仏坂の切通しは鎌倉の地質にして初めて作り得るといふべき」などと、左右の絶壁、は当時を偲ばせるように描写している。現在も、左右の絶壁は、は当時を偲ばせるように残っている。

## 化粧坂

首裏側の地?

海蔵寺の手前から山に入り、



↑ 化粧坂

## 龍ヶ谷坂

カヌモヒヤリかえった?

龍ヶ谷と山ノ内をむすぶとともに、化粧坂同様、武蔵方面へ通じる。吾妻鏡は、仁治元年(1240)、3代執権北条泰時が要路だった山ノ内道を整備したと伝えている。この坂をのぼ

## 巨福呂(小袋)坂

鎌倉の世襲塔も

鶴岡八幡宮の裏参道のあたりから西の方角へ向かう道が旧来の巨福呂坂。やはり北条泰時が建長2年(1250)に整備したとされる。いにしへの面影をしのぶ12基の庚申塔や道祖神などならび、その記録から江戸時代の末期に改修工事が行われたこともわかる。なかには工事中の事故で不幸にもいのちを奪った

鶴岡八幡宮の裏参道のあたりから西の方角へ向かう道が旧来の巨福呂坂。やはり北条泰時が建長2年(1250)に整備したとされる。いにしへの面影をしのぶ12基の庚申塔や道祖神などならび、その記録から江戸時代の末期に改修工事が行われたこともわかる。なかには工事中の事故で不幸にもいのちを奪った

← 極楽寺坂  
切り通し



## 朝比奈切通し

鎌倉の生命線

した入びとを供養する道邊供養塔もある。

鎌倉と六浦をむすぶ。六浦は現在の横浜市金沢区。鎌倉時代には安房や上総など各地の物資の集散地として、また、交通、戦略上の大切な拠点として鎌倉の生命線、だった。朝比奈切通しは鎌倉と六浦の境界となった。鎌倉幕府初代の侍所トッブ和田義盛の子朝比奈義秀がひと晩でひらいたという伝説もある。鎌倉七口でもっともかつての雰囲気を感じているといわれる。

→ 龍ヶ谷坂  
切り通し



## 名越切通し

五十坪の道に三浦の切

鎌倉から三浦へ通じる。名越トンネルの上に、かつての切通しの面影はのこっている。道筋は、日本武尊が東夷を制圧する際に通った古東海道筋ではないかとみられる。文獻のうえではじめて「名越坂」の文字が確認されるのは「吾妻鏡」の天福元年(1233)8月18日のくだりだ。かつては鎌倉と三浦の境界をなした切通しは、いま鎌倉市と逗子市の境になっている。

→ 名越切通し



### 大仏坂切り通しご案内コース



### 鎌倉駅周辺図



# 電車で行く「いざ鎌倉」特別講座+1

## 「北鎌倉から鶴岡八幡宮と大蔵御所跡を歩く」

平成24-6-1

山岸弘明

主要行程(タイムスケジュール=進行にご協力ください)

7時15分	JR八幡宿駅集合、受付(他駅乗車は車中で合流)
7時36分	快速久里浜行き先頭または2両め乗車(極力車中トイレ)
9時57分	北鎌倉降車
10時20分~10時50分	建長寺(鎌倉五山第1位=有料500円)
11時00分~11時20分	長寿寺(禪寺古刹=有料300円)
11時20分~12時00分	亀ヶ谷坂切り通し、岩船地藏堂
12時10分~13時00分	寿福寺前広場(昼食休憩)
13時15分~13時45分	鶴岡八幡宮(いったん解散=以降健脚組有志で)
13時50分~15時30分	源頼朝の墓、大蔵御所跡、宝戒寺、東勝寺跡、若宮大路
16時2分	快速君津行き先頭車両または2両め乗車
18時43分	八幡宿降車、解散

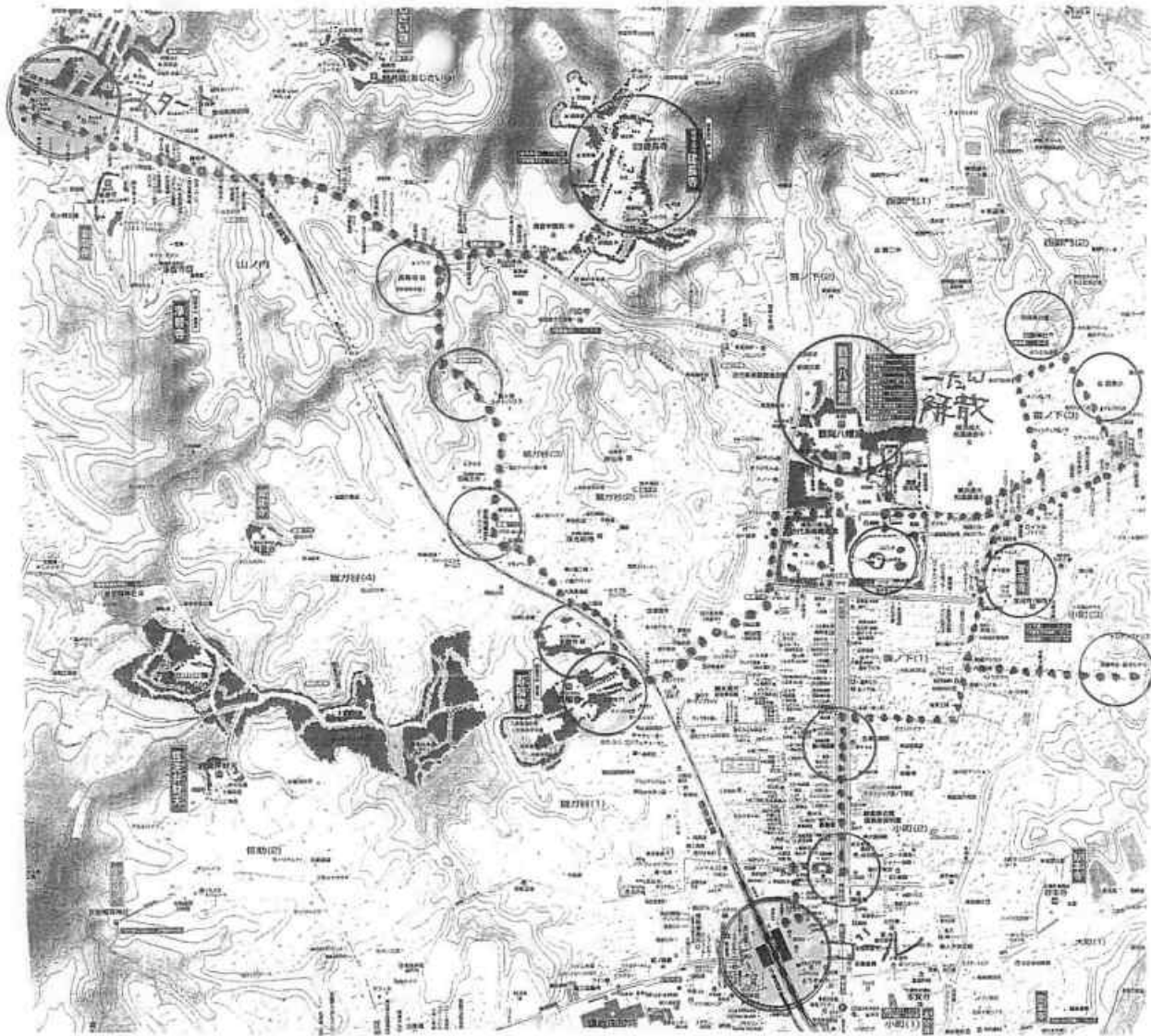
### ワンポイント情報

- 建長寺=鎌倉五山第一位、執権北条時頼創建の古刹、金色に輝く芝増上寺移築唐門
- 長寿寺=鎌倉公方足利基氏が父尊氏菩提のため創建、静かな佇まいの禅寺
- 亀ヶ谷坂=鎌倉七口、鎌倉城の守り
- 岩船地藏堂=頼朝の娘墓所、大姫の悲劇伝える
- 寿福寺=源氏ゆかり地、頼朝父祖の旧居
- 鶴岡八幡宮=鎌倉のシンボル。源氏の守護神。舞殿、大いちょう、本宮
- 頼朝の墓=権勢に似合わず質素な七重石塔
- 大蔵御所跡=頼朝が開いた幕府政庁、鎌倉城本丸跡。頼朝と政子が生活した
- 宝戒寺=執権北条得宗邸跡
- 東勝寺高時殿切りやぐら=北条一族自決の地
- 若宮大路=八幡宮参道、段かざらは権威象徴のパレード舞台

### 鎌倉五山(至徳3年1386=室町幕府制定、時代で序列の変化あり)

- 第1位=建長寺、第2位=円覚寺、第3位=寿福寺、第4位=浄智寺、第5位=浄妙寺
- 鎌倉尼五山
- 第1位=太平寺、第2位=東慶寺、第3位=国恩寺、第4位=護法寺、第5位=禅明寺

「頼朝は坂東に独立国家を樹立しようとしたのである。治承4年(1180)10月、頼朝は鎌倉に入った。源氏と鎌倉との関係は、前九年の役(1051~62)を平定した頼義(頼朝の5代前)が石清水八幡宮を(由比が浜に)勧請したのに始まり、義朝(頼朝の父)も亀ヶ谷に館をもっており、鎌倉は源氏ゆかりの地であった。ついで、富士川の合戦で平氏の追討軍を追って上洛することをやめ、最前線の遠江・駿河に守備軍を駐留させたうえで、東国独立国家の経営に専念した。新築中であった頼朝邸が完成し、同年12月には移転の儀式が行われたが、これは頼朝が独立国家の国王に就任する戴冠式の意味もっていた。鎌倉はその国家の首都であり、遠江は国家の西限、京都を首都とする西国国家との国境であった」(上横手雅敏『日本史の舞台 3』1982年5月・集英社)



### 鎌倉城の出入り口 鎌倉七口

- ①鎌倉七つの出入り口。戦時は敵の侵入を防ぎ平時は交通の便利をはかる。求められた矛盾。鎌倉府、関東管領が置かれた室町時代にも軍事、経済両面で重要な役割をはたした。
- ②極楽寺坂切り通し=坂ノ下~七里が浜。腰越、片瀬を経て東海道へ
- 大仏坂切り通し=長谷~常盤。深沢、藤沢を経て武蔵、上信越へ
- 化粧(けわい)坂切り通し=扇ヶ谷~梶原。深沢、藤沢を経て武蔵、上信越へ
- 亀ヶ谷坂切り通し=扇ヶ谷~山ノ内。武蔵、奥州方面へ
- 巨福呂(こぶくろ)坂切り通し=武蔵、奥州方面へ雪ノ下、山ノ内から武蔵、奥州方面へ
- 朝夷奈坂切り通し=十二所~六浦。房総、常陸方面へ
- 名越切り通し=大町~逗子。葉山を経て衣笠、浦賀、三崎方面へ
- \*7口は後世の俗称、このほか釈迦堂口、稲村路、小坪路など何か所かの通路があったと考えられる
- \*新田義貞の鎌倉攻略は腰越から稲村路(海岸)、極楽寺坂切り通し、深沢から化粧坂切り通し、山ノ内から巨福呂坂切り通しの3ルートから城内に突入した



## 北条時宗の建長寺と足利尊氏の長寿寺

## 1) 北鎌倉からスタート。建長寺への道すじに

- ①円覚寺＝臨済宗円覚寺派大本山。弘安5年(1283) 8代執権北条時宗が宋の高僧無学祖元を招き幕府祈禱所として創建。建長寺とともに鎌倉を代表する名刹。山門、仏殿、方丈などを一直線にならぶ禅宗様伽藍配置だが建物の多くは関東大震災で焼失、以後の再建。立ち入らず正面を通過。
- ②東慶寺＝室町時代尼五山の一つで、歴代住職は名門の息女が勤めた。天秀尼は豊臣秀頼の側室の娘で、正室・徳川2代将軍秀忠の娘千姫の外護で「縁切り寺」としての寺法を確立した。
- ③浄智寺＝5代執権北条時頼の子と孫10代執権師時が創建。関東大震災後の再建。鎌倉五山第4位。
- ④明月院＝関東管領・上杉憲方が開基した禅興寺(廃寺)の元塔中。アジサイ寺として有名。

## 2) 中国文化を咲かせた鎌倉五山の筆頭、建長寺

- ①巨福山(こふくさん) 建長興国禅寺。臨済宗建長寺派大本山。建長5年第5代執権北条時頼が宋の名僧、蘭溪道隆(らんけいどうりゅう)を開山として創建。時頼は無駄を嫌い、己に克つことを人生の指針とした。禅の精神「単純、直せつ、克己、自持」であった。
- ②建長寺のように年号を名乗る寺社は国立事業を表している。建長寺の格式と権威を示している。
- ③一直線、幾何学的に配した禅宗様式伽藍方式。地形に逆らわず建物を配置する日本の伽藍方式とは異なる。一方建物は装飾性が高く、屋根に反りを、軒下に組み物を重ねている。
- ④室町時代の応永年間、全山を焼失、江戸時代徳川家の寄進を受けて興隆した。現在の堂宇は江戸時代のものが多く、鎌倉最大の名刹となっている。

## 建長寺のみどころ

- ①総門＝別名「巨福(こふく)門」といい「大きな福をもたらす」の意。額は10世中国僧一山一寧禅師の書。京都槃舟三昧院からの移築で伝来のものではない。
  - ②三門(三解脱門＝重要文化財)＝江戸中期安永4年建造。
  - ③梵鐘(国宝)＝建長7年北条時頼が物部重光に鑄造させたもので、円覚寺梵鐘とならぶ鎌倉期梵鐘の双壁とされる。高さ207cm、重さ2.7t。
  - ④柏楨(びやくしん＝名勝史蹟)＝創建当時から700年をへた古木7本。最大は幹回り7mある。
  - ⑤仏殿(重要文化財)＝寛永5年建立の芝増上寺にあった徳川2代将軍・秀忠の御台所お江(崇源院)の靈廟を正保4年に移築。屋根、寄せ棟造り銅板ぶき。一重(平屋)もこし、軒唐破風。3間×3間、1戸。内部は折り上げ格天井、天井や壁に極彩色花鳥、金色欄間彫刻も鮮やか。華麗な江戸期代表的靈廟建築。
  - ⑥唐門(重要文化財)＝仏殿と同時に芝増上寺から移築した元崇源院廟門。正面前後に唐破風を設けた向唐門。表面のぼたん、唐草文様が彫刻されている。近年の修復で黄金燦然とかがやく。
- 小休止＝背後は半僧坊、勝上ヶ岳山腹に所在。前庭から鎌倉市街や相模湾を一望するが今回は省略。

## 3) 足利尊氏の菩提を弔う長寿寺

- ①臨済宗建長寺派に所属、山号を宝亀山という。室町時代はじめ鎌倉公方足利基氏が父・足利尊氏の菩提を弔うため建立、一説に尊氏開基ともいう。
- ②石段を登りかやぶき山門から境内へ。本堂に足利尊氏坐像、背後に伝尊氏の五輪塔がある。
- ③座敷に座りこみ閑静な庭園を鑑賞。しばし世間の雑念を忘れる。



北鎌倉駅



建長寺



増上寺移築唐門

## 北条得宗家が守った鎌倉城からめ手の要塞、亀ヶ谷坂切通し

## 1) 亀もひっくり返った？急坂

- ①長寿寺横の小道を亀ヶ谷切り通しという。一帯は鎌倉城からめ手、最大の防御拠点であった。鎌倉時代は執権北条得宗家が守備し、室町時代は上杉管領家が守った。
- ②鎌倉7口の1つで山ノ内と城内扇ヶ谷(おうぎがやつ)を結び、扇ヶ谷で化粧坂と接続する。  
\*武蔵、奥州方面の備え、山ノ内からの切り通しは巨福呂坂と2か所、鎌倉城の真裏からめ手にあたる
- ③「吾妻鏡」では仁治2年(1240)執権・北条泰時開削とする。
- ④坂名の由来は、この坂を登ろうとした亀があまりの急坂でひっくり返ったためという。

## 2) 岩肌あらわ、切りたつ急崖を横目にゆっくりと歩く

- ①深緑が真っ盛り、切り通しの景観を楽しみながら進む。いまは一直線の道だが旧道は未解明、山麓を迂回したと考えられる。  
\*大仏坂切り通しを思い浮かべる。わざわざ迂回させ、切り岸や駒止めを築き置石などの障害物を作った。亀ヶ谷でも山腹に人工的な平場や土塁、堀切などが確認されている。明治中期の測量図はすでに直線で早くから改変が進んだことが伺われる
- ②切り通しの坂を200mほど登ると峠部分に出る。岩肌もあらわな切り立つ急崖が圧倒する。亀ヶ谷最大の見どころといえる。
- ③教育委員会史跡看板=国指定史蹟 亀ヶ谷坂 昭和44年6月15日指定  
扇ヶ谷と山ノ内を結ぶ道で、鎌倉から武蔵方面に通じる重要な出入り口であり、中世鎌倉の切り通しとしての旧状よくとどめている。鎌倉時代初期より使用されていたと推定され、巨福呂坂と共に鎌倉街道中ノ道の基点とされている。  
切り通し=山の尾根部分を掘り下げて通行可能にすると同時に敵の進入に対する防御施設としたのが切り通し。亀ヶ谷坂、朝夷奈切り通し、巨福呂坂、化粧坂、大仏切り通し、名越切り通し、極楽寺坂の7つを称して鎌倉7口(切り通し)といい国の「歴史道百選」にも選ばれている。  
\*頂上付近の岩肌に六地藏像、石はさして古いものではない。設置当時の坂の高さを示している
- ④ここからが下り、城側の方が急坂、反対側からの山越えは大変だ。
- ⑤途中石段=上は墓地で延寿堂跡。立ち入り禁止。隋道状マンション=勝縁寺跡。北条氏創建と伝わる。
- ⑥坂を降りきったところが扇ヶ谷となる。



↑ ←  
長寿寺



亀ヶ谷切り通し



### 源氏旧居跡に北条政子が開基した寿福寺

#### 1) 駿河大納言の供養塔がある日蓮宗の名刹 薬王寺

- ①薬王寺は元梅嶺寺といい、永仁元年(1293)日像上人が荒廃寺を興こして日蓮宗の道場とした。
- ②徳川2代將軍秀忠の2男駿河大納言忠長の供養塔がある。

#### 2) 鎌倉時代商業地として賑わった辻 岩船地藏

- ①化粧坂からの道と交差する岩船地藏地蔵あたりが「吾妻鏡」にある「亀ヶ谷辻」で武蔵大路下に相当する。鎌倉時代商業地として賑わったという。
- ②岩船地藏は源頼朝の長女大姫の墓所。大姫の夫である木曾義仲の長男・志水冠者義高が頼朝の命で殺害されたことを知った大姫は嘆き悲しみ病死する。  
\*頼朝、義仲和睦のための結婚、しかし義仲を討った頼朝は後の災いとならないよう義高を殺害した
- ③堂内に岩石造りの船型地蔵を安置している。
- ④三つ辻を左にとると鎌倉市街、右は化粧坂へ。元弘3年化粧坂を破った新田義貞軍はなだれを打って鎌倉市街に突入した。

#### 3) 鎌倉唯一の尼寺 家康の側室お勝が開基した英勝寺

- ①浄土宗。東光山英勝寺。寛永13年、太田道灌の子孫・太田康資の娘で徳川家康の側室となったお勝が道灌の旧邸跡に開基。寺号はお勝の法号・英勝院にちなむ。
- ②お勝は市姫を生むが早世、家康の命で水戸頼房の養母となった。家康の没後、鎌倉に太田道灌屋敷跡があることを聞いて3代將軍家光に菩提寺建立を願い出、水戸頼房の娘・小良姫を初代住職とした。代々水戸家の娘が住持となり水戸家の尼寺と呼ばれた。
- ③英勝寺史蹟看板、大田道灌旧居碑

#### 4) 尼將軍・北条政子と3代將軍実朝が眠る寿福寺

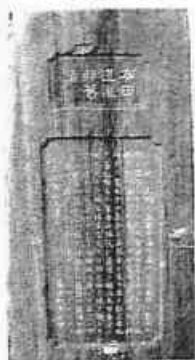
- ①臨済宗建長寺派。亀谷山。鎌倉五山第3位。
- ②鎌倉と源氏との関係は6祖頼信から4代が相模守を勤めたことによる。頼義が八幡宮を勧請、頼朝の父義朝の屋敷は寿福寺にあった。頼朝は当初この地に幕府を置こうと考えたが狭く大倉御所に本拠を移した。
- ③頼朝没後、尼將軍として鎌倉幕府を切り盛りした妻の北条政子が、正治2年頼朝菩提のため寿福寺を建立、本堂に重要文化財の地蔵菩薩像などを所蔵するが境内は非公開、閑静な佇まいが国史跡に指定されている。
- ③前庭の小公園で昼食休息、裏山のやぐらに北条政子と3代將軍実朝の五輪塔がある。

→ 北条政子



↓道灌旧邸跡 英勝寺

政子の墓



岩船地藏

寿福寺

昼食休息の広場



# 鎌倉幕府の象徴、源氏の心のよりどころとされた鶴岡八幡宮

## 1) 前九年の役で4祖頼義が創建、義家が修理して頼朝が現在地に移した

- ①康平6年(1063)前九年の役で阿部貞任を平定後、出陣にあたり戦勝を祈願した京都の石清水八幡宮を鎌倉の由比ガ浜近くに勧請したことに始まる。後三年の役勝利で義家が大改修、治承4年頼朝が鎌倉に本拠をおくと現在地に移して源氏の守護神とした。
- ②以後、源氏、北条鎌倉幕府、足利鎌倉府、小田原北条氏、徳川将軍家など各代関東を支配した武将たちの保護を受けて、(1) 興隆した。
- ③明治維新の神仏分離令で仏教色は一掃、明治15年国幣中社に列し、現在は鎌倉観光のシンボルとして賑わっている。
- ④舞殿から石段を登り、総朱塗りの上宮楼門、本宮を参拝、源氏池でいったん解散した上、健脚元気組で鎌倉幕府政庁=鎌倉城本丸跡、北条執権邸や一族滅亡の地などをめぐる。

\*集合は鎌倉駅ホーム、指定電車です。お間違いのないように集合ください

## 2) 鶴岡八幡宮のみどころ

- ①やぶさめの道
- ②舞殿=奈良吉野で捉えられた義経の側室・静御前が頼朝と政子の前で義経を慕った歌舞を演じたとされる。
- ③大いちょう跡=高さ30m、幹回り7mあったが近年の大風で倒れた。かたわらに2代目が芽ぶく。承久2年右大臣拝賀式をおえた3代将軍実朝がこの木の陰に潜んでいた兄2代将軍頼家の長男公暁に暗殺されたという。頼朝の血統はすべて絶え、妻政子の実家北条氏の執権政治が始まることになる。
- ④本宮=文政11年徳川家斉造営の華麗な神社建築。正面楼門、回廊、本殿は流れ権現造り、総朱塗り。祭神は八幡大神の応神天皇と神功皇后、比売(ひめ)神の3神を祀る。
- ⑤源氏池、平氏池、太鼓橋、3の鳥居
- ⑦若宮大路、段かずら、2の鳥居(後出)
- ⑧宝物殿、鎌倉国宝館

2010-3-10



鶴岡八幡宮境内図

鶴岡八幡宮

舞殿



若宮大路



源頼朝



← 上宮



### 元気組で大倉御所跡などをめぐる

#### 1) 頼朝と政子が住んだ 大倉御所(大蔵幕府)跡

- ①治承4年頼朝が鎌倉入りしてから嘉禄元年政子が亡くなるまでの46年間、わが国の政治の中心地となった大倉御所(鎌倉城本丸)跡。その後御所は2の鳥居東側の宇都宮幕府、若宮大路幕府と変遷した。
- ②大倉御所は將軍頼朝の公邸かつ幕府の政庁であり、部下の侍や政務を取る役人たちが近侍した。
- ③跡地は現在カトリック系の清泉小学校で、東西が南辺370m、北辺320m、南北210m、やや東に傾いた四角形、面積およそ7万㎡、発掘調査での時代層は深さ3mの地中にあった。
- ④周囲を水濠と土壁で囲み、東西南北それぞれに門を構え、御所内は寝殿造りで寝殿、大御所、小御所、対屋があり、「吾妻鏡」には18間の西侍所、南庭、南池、馬屋、納殿、西釣殿などが登場している。
- ④主要部が未発掘のため御所内の配置は未詳。
- ⑤参考図=一般的な寝殿造り配置図、大倉御所推定配置図
- ⑥大蔵御所跡碑、水濠跡、西御門跡

#### 2) 法華堂跡(白旗神社)

#### 3) 意外と質素な天下人の墓 源頼朝の墓

- ①正治元年没 歳。死因は未詳、落馬説、暗殺説、糖尿病説などがある。

#### 北条得宗家歴代の家 宝戒寺

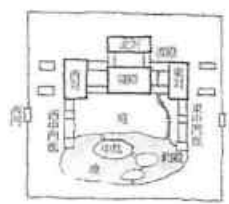
- ①元北条得宗家跡。室町將軍家を興した足利尊氏が北条氏の冥福を祈って建立。鎌倉では珍しい天台宗。
- ②ハギ寺として有名。

#### 5) 北条一族滅亡の地 東勝寺高時腹切りやぐら

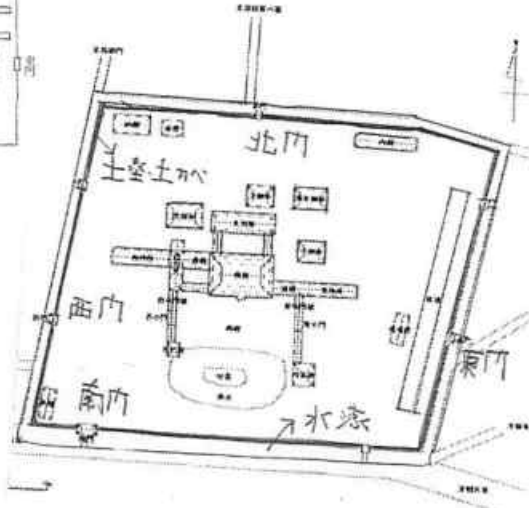
- ①滑川、東勝寺橋
- ②東勝寺跡=臨濟宗、関東十刹の一つ。執権北条泰時が母追善のため建立。滑川を掘割、背後を屏風山で囲む城壁、北条執権邸詰めの城でもあった。
- ③北条高時腹切りやぐら=元弘3年鎌倉落城の時、高時ら一族870人が自害、これに殉じた人6000人に達した。

#### 6) 政子の安産を祈って築いた段かづら 若宮大路

- ①若宮大路=八幡宮の社頭3の鳥居から由比ガ浜まで一直線にのびる参道。頼朝が妻政子の安産を祈願して構築したという。このとき2代將軍頼家が生まれた。
- ②段かづら=若宮大路のうち2の鳥居から3の鳥居まで、中央を一段高くして両側に土手を築いた歩道。桜やつつじの名所である。鎌倉時代幕府の主要行事の時、武将たちのパレードに使用された。



貫核の寝殿造り



大蔵幕府の推定図



頼朝の墓



御所水濠跡



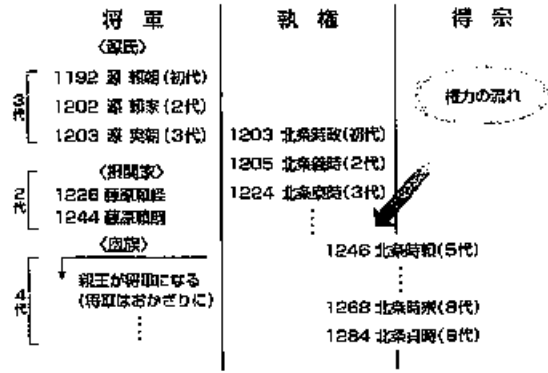
大蔵幕府跡



宝戒寺



鎌倉幕府の権力者の移動



権力は源氏から 執権北条氏へ

頼朝がいなくなると実権は有力御家人である北条家に移る。以後、御幕まで実権を握り続ける。

あつという間に実権を握った北条時政

鎌倉幕府を開いた源頼朝は、絶対権力者として東国武士のうえに君臨した。その頼朝が1199年に死ぬ。死因は落馬が原因だったと伝えられるが、幕府の正史たる『吾妻鏡』には、その死の前夜部分だけが欠落してあり、どうやら隠すべき事情があったようだ。時政説も言から根拠がある。頼朝がいなくなると権力の座は、あつという間に北条家に移ってしまふ。以後、鎌倉幕府が開かれるまでの約130年間、実権を握り続けるのだ。

頼朝の死後、2代将軍に就任したのは、頼朝の嫡男、頼家であった。しかし、位についてからわずか3か月後、御幕の権力のあるまいが御家人の反感をかい、謀殺を停止され、政治は有力御家人13名による合議制とあってしまふ。

時政は頼朝の妻、北条政子の父である。時政は頼家を伊豆修善寺に幽閉して殺し、頼家の弟、実朝を将軍にすえ、堀原時義や高山重忠といった重臣を倒して幕府の実権を掌握した。だが、実朝を倒して娘婿を将軍にしてうとしたことで、娘の政子と時義の養育の反発を受けて失脚した。時政は時義と政子(公文所)の別当(長官)を受け継ぎ、さらに息子の時義に伝えた。時義は、「御殿政子(四ノ御前)」を制定して司法制度をととのえ、選考と称する執権の補佐役をおき、評定衆(有力御家人の集まり)をもつて合議政治を開始した。これを執権政治という。

その後幕府は、皇族である親王を将軍にする。以後、幕府滅亡まで親王(皇族)将軍は4代続くが、将軍とは名ばかりのおかざりの存在で、実権は北条氏が握っていた。

北条氏の政務は次第に地味になり、とくに相模家と呼ばれる時義の嫡流が絶大な力をもつようになった。得宗家は5代時義・時宗、8代時宗と継承され、9代貞時の代になって、幕府の権威であった「安徳」(土佐の保護)の権限もも手の中に、有力御家人安徳を滅ぼして得宗専制(独裁政治)がはじめられた。このころ(13世紀後半)になると、幕府の要職、守護・地頭は、北条一門によって独占された。しかし、この北条氏占有体制が、御家人たちの不満をつのらせ、幕府に対する忠誠心を薄めていった。そしてやがて、後醍醐天皇が討幕運動を展開すると、鎌倉幕府はあっさり崩壊してしまうのであった(1333年)。

2人の武将の寝返りで 滅んだ幕府

実際に鎌倉幕府を倒したのは京都を攻めた足利尊氏と、鎌倉を攻めた新田義貞だった。

結核計算高い(一) 足利尊氏

鎌倉にみえた幕府を倒そうとした後醍醐天皇の命令と、楠木正成の奮闘が、歴史の流れを大きく変えたことはすでに述べた。だが、現実には武力で幕府を打倒したのは、足利尊氏と新田義貞であった。

尊氏と義貞は、清和源氏の嫡流、鎌倉から分かれた同族であり、源氏も足利氏が下野国足利庄(栃木県足利市)、新田氏が上野国新田庄(群馬県新田郡)と隣接していた。だが、北条氏と姻戚関係にあった足利氏のほうに、幕府から格段の厚遇を受けた。

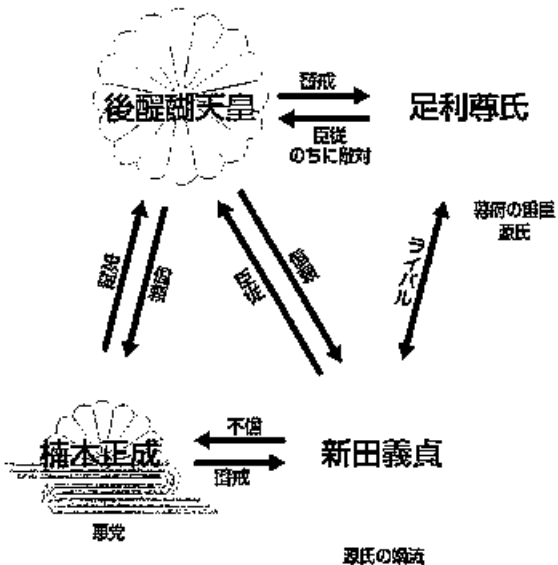
なに尊氏は、1333年、幕府の大將として兵を率いて京都に赴いた際、後醍醐天皇の密勅を受けて天皇方に寝返り、六波羅探題(京の東にできた京都)における幕府の政務機関)に乱入して、これを攻め滅ぼしたのである。

尊氏が寝返った動機としては、父親の喪中に出征を命じられ憤慨した、祖先の遺言に天下を取れとあったなど、諸説が伝えられるが、混乱に乗じて北条氏を倒し、次の天下を握ろうとしたというのが、彼の本心だったと思われる。

一方、新田義貞は、正成の千早城を攻めていたが、やはり後醍醐天皇方の密勅をもらい、戦線を離脱して京都へもどり、生霊明神に一族を集めて討幕の兵をあげた。こうして尊氏が六波羅探題を陥落させたころである。

鎌倉を倒した義貞のもとに多くの武士が集結せよ、新田軍は下り坂を断る管現のように、断崖、大蛇となつて敵兵を蹴散りながら鎌倉近くに君臨した。しかし、三方を山で囲まれ海を背負った鎌倉の地は、新田軍の侵入を許さなかった。困つたすえ、義貞は海からの敵前上陸を敢行する。

太平記の詳像

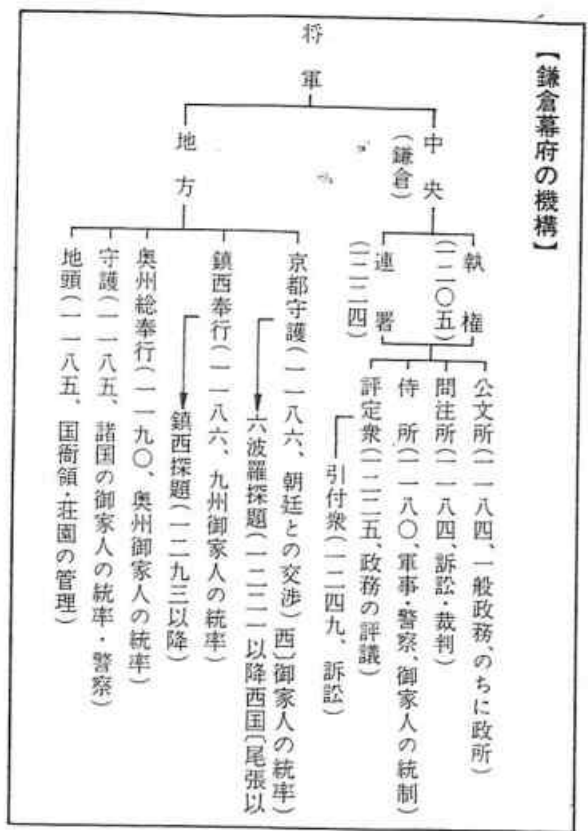


稲村ヶ崎で義貞が、黄金の太刀を海に投げ入れて道神に祈ると、にわかには潮が引いて陸地が現れ、新田軍はここを渡つて鎌倉に攻め入ったと、「太平記」は語る。もちろんそれは、引き潮を見越した義貞の演出だろうが、大いに将士を鼓舞したのである(ここは想像である)。新田軍の放つた火で鎌倉の町が燃え上がるなか、北条一族870余名は東勝寺において集団自決した。ここに、鎌倉幕府130年の歴史は、幕を閉じたのである。なお、幕府を倒した直接の功労者、足利尊氏と新田義貞の2人は、やがて敵対関係に入つてゆく。

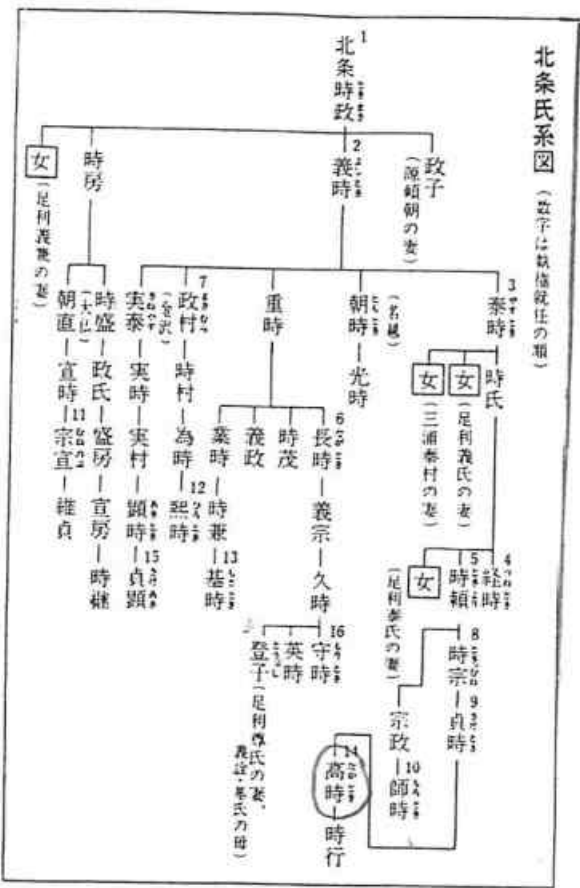




【鎌倉幕府の機構】



北条氏系図 (数字は執権就任の順)



鎌倉炎上——幕府滅亡まで

◆足利高氏、幕府打倒へ立つ

幕府軍の副将格として西下する途中、三河国(現愛知県)矢矧宿で倒幕の決意を明らかにした足利高氏は、諭旨を受け取る使者を船上山の後醍醐天皇のもとに派遣すると何食わぬ顔で入京。伯耆の天皇軍攻めに向かうと見せかけて1333年(元弘3・正慶2)4月29日、自領の丹波国(現京都府)篠村で挙兵した。高氏率いる軍は隣りに近隣諸国に伝わり統々と武士が参集。3000人だった高氏の軍は一夜あけると、2万3000余になつたといわれている。

それから1週間ほどたった5月7日、高氏は大江山から嵯峨野を経て京市中に突入した。赤松則村や千種忠顕の率いる天皇方山陽道軍も時を同じく京に迫り、幕府方の拠点・六波羅探題は一夜にして陥落した。ここに形勢は一気に逆転。天皇方は俄然、優位にたつた。

◆新田義貞、上野国で決起

足利高氏が京・六波羅を攻めた翌日の5月8日、上野国新田荘(現群馬県)では新田義貞が鎌倉攻めの旗をあげた。新田軍は一直線に鎌倉を目指して南下。途中、越後、信濃、関東の武士団が次々と参加し、鎌倉を脱出した高氏の子・千寿王を大将にした足利軍も加わり、20万人を超える大軍になったという。武蔵国小手指原(現埼玉県所沢市)で鎌倉から北上してきた桜田貞貞の幕府軍を破り、分倍河原(現東京都)で北条泰家軍を撃破した新田軍は、わずか10日間で鎌倉に迫つた。

◆新田軍、鎌倉に突入

鎌倉は三方を山に囲まれ、一方は海が開ける要害の地である。幕府軍の相次ぐ敗退に幕府は激しく動揺した。さらに京・六波羅陥落の知らせがそれに輪をかけた。幕府軍は、陸

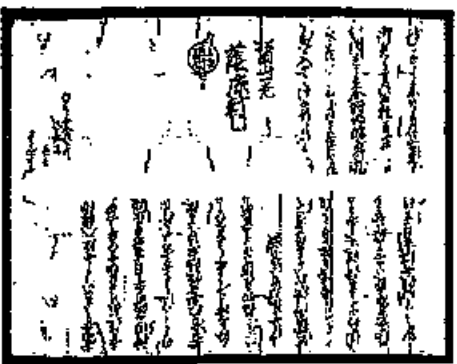
新田義貞が率兵した生島神社。現在、それを覚える碑がたてられている。(群馬県新田郡新田町)



新田義貞騎像(左)。(群馬県新田郡新田町)



# 東慶寺の縁切寺法



寺山書

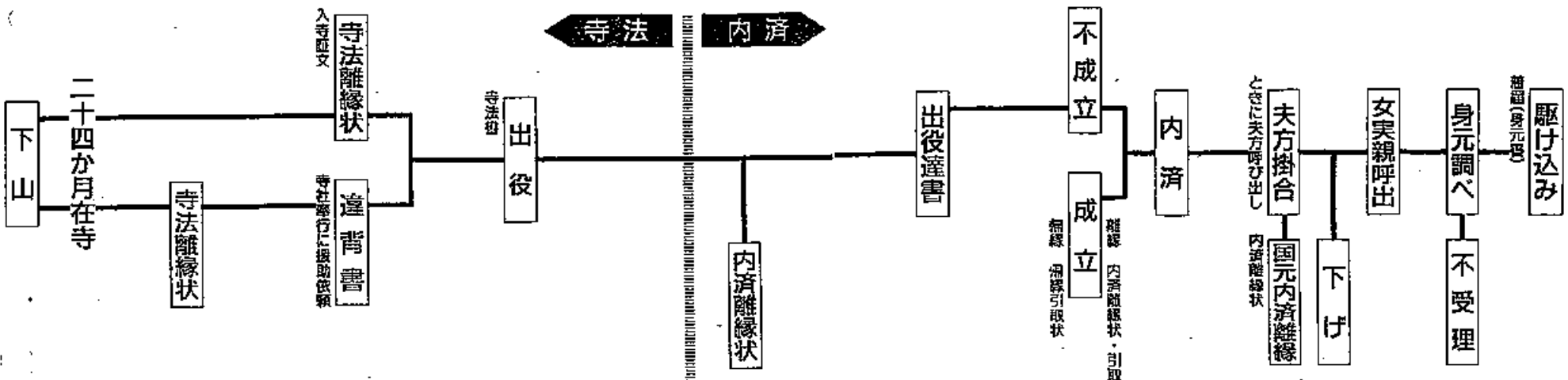
若妻えれいと申す、願入離縁寺法願書二付、様子相尋  
似へは、江戸神田三河町三丁目長町大右衛門前と申し、  
弥々其方妻三無御候、苦勞なる寺法助難儀申す不申  
二、京州候より色々見申御得とも存御縁切願書  
二、願書、無御双方願書、若  
公儀御法式にて申候者にて申分候は、御縁取番各  
主組同道にて委許使所二可申候、様子聞御候て可中  
被取、尤申分なく候は、以後無御得付二形致し遊  
し様似二不及候、古來より御免之寺法助難儀申二候、  
いつれも立合持明御多の難儀に成不申候御可致候、甚  
忍の寺法念を人と、け如斯に候、以上  
松岡山、老、藤野野郎  
明上二月七日 江戸下谷後形下町 有願門 名主組中 吉



寺法願書

願書一札之類  
私妻もと并修兵衛願書よね せん  
御山へ願入離縁寺法願書二付、御許之御縁切願書  
成下拜見仕候、委細御現候、以後有之方何方へ願儀  
共少も無御難儀候、為後下御印渡上申候、伏て御許  
深川様下町  
文政九年十二月  
久兵衛願書  
大 伊兵衛願書  
家主 久兵衛願書  
五人組 修兵衛願書  
右之御少も相違無御難儀、以上  
名主 忠右衛門願書  
縁切公同  
御所様  
御世所

駆け込みから縁切りまで

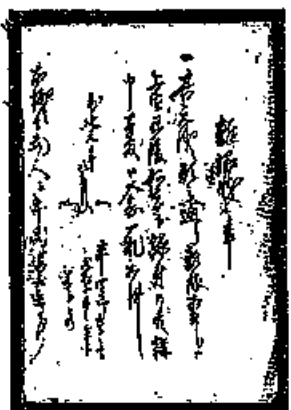


## 縁切寺法の特徴

幕府は古くは縁切寺における離婚に反感的な姿勢をとったが、しだいにその寺法を承認するようになった。夫が「違背書」を提出して離婚拒絶の意思を示しても、寺は奉行所では夫に半強制的に離婚を仰せ付けたのである。  
東慶寺の離婚には、三年(安永は二十四か月)の入寺を必要とする「寺法離縁」と入寺しなくてもよい「内済離縁」の二つがあるが、出役の有無によって、はっきりと区別される。

## 内済離縁

寺の仲介・調停によって夫婦双方が示談で離婚をすることをいい、妻は入寺する必要はなかった。寺では常に内済の成立に努めた。駆け込み直後に妻の実親を呼び出すとき、出願前に国元での内済を知らぬ、また強固に拒絶する夫には出役の日時を知らぬ「出役違背」で吃驚させ、この時点でほとんど内済が成立した。内済離縁状は通常の三行半である。



内済離縁状

## 寺法離縁

在寺三年(安永は二十四か月)とひきかえに寺法を奨励して夫から離縁状を強制的に差し出させることをいう。寺役人が「寺法書」をもって夫方に出張する、いわゆる「出役」後の手続きで、女は「入寺証文」を提出して在寺する。寺法離縁状には寺法による離縁であることが明記され、三行半でなく、夫のほか家主・五人組が連署押印し、名主が調印し、寺(松ヶ岡御所御縁切所)宛になっている。

## 寺中生活

女の在寺生活は苦勞なる勤めであり(むすずかしい精進をして縁を切り)、その費用は女の実家の負擔であった。女は三格式に分けられ、待遇に差があった。一八三八(天保九)年当時、最上級の格では三千両必要だった。  
男子不入の尼寺では、女は「張明候事」と、髪は剃ったのではなく、切ったのである(松園有樂の尼で三とせきん)。また「御程よみ候事」と、お経や座禅もし、清浄を旨としたのである(お経の花咲く声や松ヶ岡)。

## 1866(慶応2)年の駆け込み事例

- 駆け込み36件
- 内済離縁24、下げ5、不明4、非縁3、不受理1、取下げ(夫出願につき)1
- 海田(逗留)5件
- 下山1、不受理1、弟子願不受理1
- 寺法離縁在寺女4名
- 駆け込み女の年齢 最低20歳、最高54歳、平均29歳

この図解は寺法願書の寺法取り扱いである。







平成24年3月20日

山岸弘明様

市原市立辰巳公民館  
館長 仲條 信

平成24年度辰巳公民館主催事業の講師について（依頼）

早春の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成23年度本公民館主催事業では、熱心かつ丁寧なご指導を賜り、誠にありがとうございました。

さて、平成24年度の主催事業を下記の通りに計画いたしました。

つきましては、公私ご多用の折り、誠に恐縮に存じますが、主催事業の講師としてご指導くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 事業名 歴史散策
2. 日時 ・平成24年9月4日（火）講義  
午前9時30分～11時30分  
（場所） 市原市立辰巳公民館 会議室、研修室  
  
・平成24年10月2日（火）バス研修  
午前8時30分～16時30分予定
3. 内容 江戸の面影を残す谷中を散歩しながら、地域の歴史文化を学ぶ。
4. 対象 一般成人 35名
5. その他 ・公民館で用意するものにつきましては、事前にご連絡いただきましたら幸いです。  
・講座の当日ご印鑑をお借りいたしますので、ご用意をお願いいたします。

担当 白川ますみ 宮澤洋子  
TEL 0436 (74) 8521  
FAX 0436 (74) 8543



# 歴史散策

## 2回シリーズ

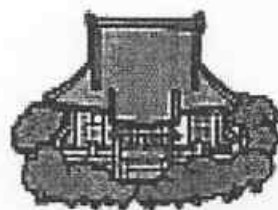
### 第1回 講義「江戸・東京歴史散歩」

講師 山岸 弘明 先生

日時 平成24年9月4日(火)

午前9時30分～11時30分

場所 辰巳公民館 2階 視聴覚室

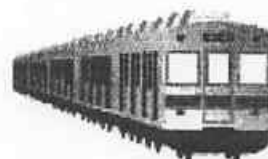


### 第2回 バス研修

講師 山岸 弘明 先生

期日 平成24年10月2日(火)

行き先 谷中 上野 寛永寺



平成24年9月4日(火)

氏名 ( )

# バス研修

(日時) 10月2日(火)

(場所) 谷中 上野 寛永寺

(集合時刻) 8時20分 厳守



(日程)

公民館集合	.....	出発	.....	上野公園(駐車場)	.....	JR上野駅	.....	JR日暮里駅	.....
8:20		8:45		10:15		10:30		10:40	

谷中散策	.....	谷中霊園(昼食)	.....	寛永寺	.....	上野公園駐車場出発	.....
		11:40~ 12:20		12:50~14:00		15:00	

公民館着  
16:30

(持ち物) ・弁当 ・飲み物 ・筆記用具 ・参加費 1,000 円

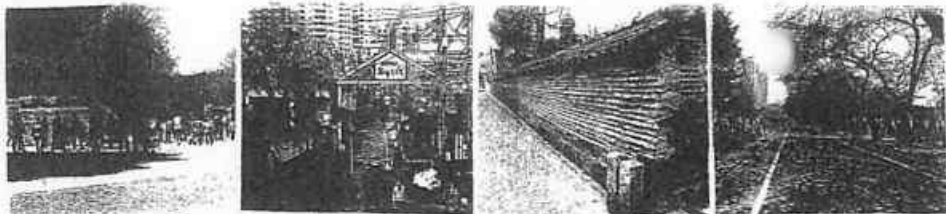
・雨具(雨合羽、傘など) ・帽子や日傘 ・その他必要なもの

(服装) ・歩きやすい服装とくつ (かなり歩きます。)

(注意) ・当日欠席される時は、8:00~8:20の間に公民館へご連絡ください。

(辰巳公民館 ☎ 74-8521)





上野公園 夕焼けだんだん 築地塀 谷中墓地

辰巳公民館主催事業「江戸・東京歴史散歩」

平成24-9-4

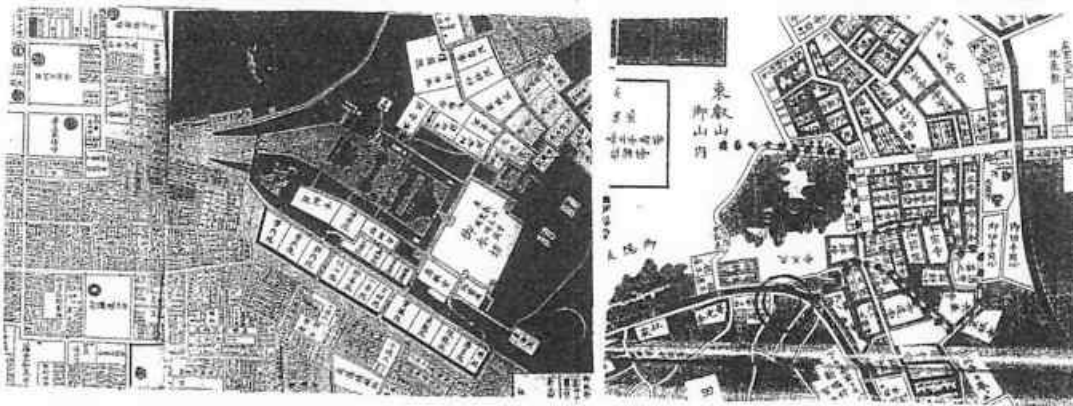
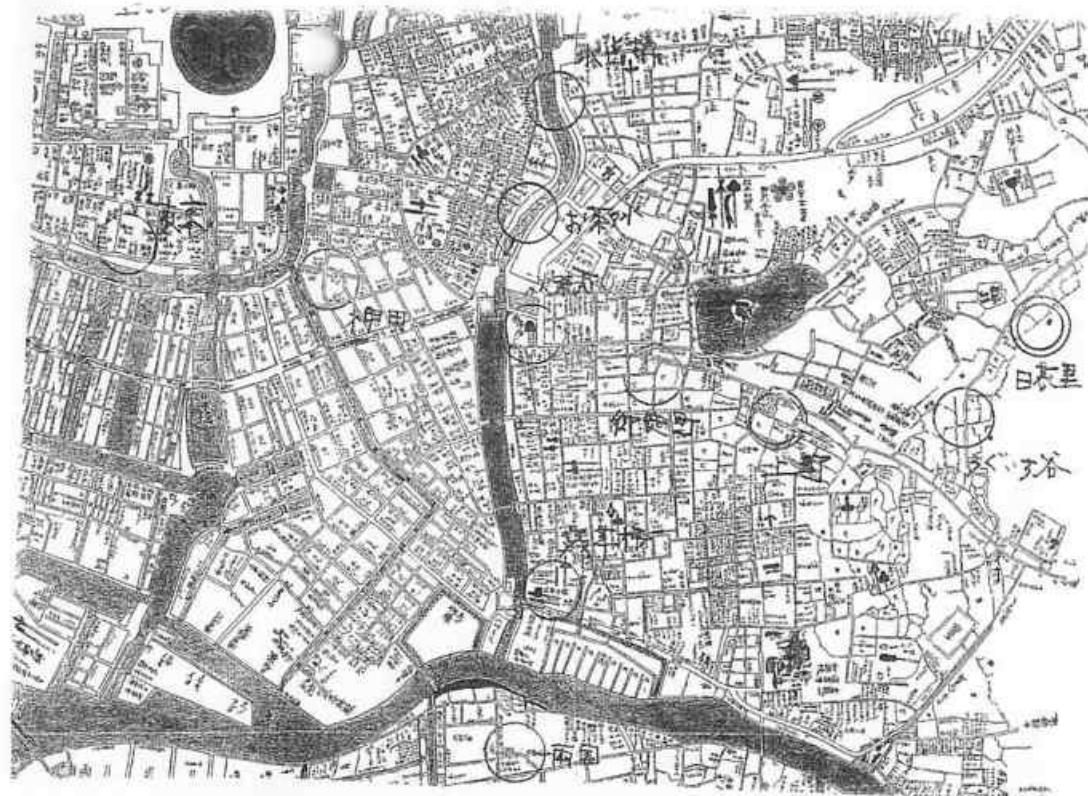
①徳川将軍家と上野寛永寺

山岸弘明

普段非公開の「徳川将軍家霊廟」綱吉、吉宗、家定、篤姫墓所を特別参観

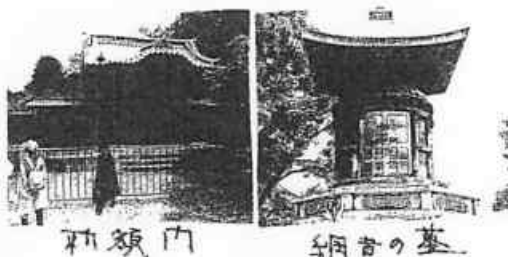
②次回10月2日(火曜日) = バス研修 \* 谷中と上野寛永寺を歩く

- \* 辰巳公民館出発8時45分、上野公園10時15分ころ着
- \* JR上野駅(山手線2駅移動160円)日暮里駅降車  
北口、御殿坂、月見寺、道灌物見塚、経王寺、延命院、夕焼けだんだん  
岡倉天心記念公園、谷中コミュニティ、谷中防災広場、螢坂、観音寺築地塀  
天王寺五重塔跡(昼食)、谷中墓地、徳川慶喜の墓、御三脚一ツ橋家墓所、
- \* 東叡山寛永寺特別参観(非公開部分)13時00分~14時00分  
本坊根本中堂、徳川将軍家第2霊廟、勅額門、水盤舎、宝塔、唐門  
常憲院、有徳院、温恭院、天璋院殿宝塔
- \* 巖有院勅額門、第1霊廟前、大猷院霊廟跡、殉死の墓、両大師、旧本坊表門(工事中)
- \* 上野公園第2駐車場出発15時00分、辰巳公民館16時30分ころ着
- 雨天の時(当日の降雨状況で判断)
- \* 前半の谷中地区を早回りし、寛永寺境内でバス車中昼食
- \* 13時00分から寛永寺特別参観
- \* 後半の上野公園移動を省略、早めに寛永寺から帰路につき辰巳公民館着



寛永寺の「東日本大震災復興支援活動」に協力して参加費の一部を「志納」します

寛永寺第2霊廟=5代綱吉霊廟に8代吉宗、13代家定、正室篤姫ほかを付設。特別参観  
 〃 第1霊廟=4代家綱霊廟に10代家治、11代家斉を付設。前を通過、外観見学  
 〃 3代家光霊廟跡=家康の眠る日光に移葬。前を通過、説明  
 \*当初は将軍ごとに霊廟を建立したが吉宗「享保の改革」緊縮政策の一環として墓域以外を共用、青銅宝塔を石造とするなど経費節減を図った  
 昭和20年東京大空襲で第1、第2霊廟の権現造り御霊屋、本殿、相殿、拝殿などを焼失したが、全将軍の墓神と両霊廟の勅額門、水盤舎が現存、いずれも重要文化財に指定されている。今回は普段非公開の第2霊廟を特別参観する。



勅額門

綱吉の墓

元禄6年(1693)江戸図正方鑑(通称江戸捨しるし)

佐藤四郎右衛門版、温精軒作  
5代将軍綱吉代。元禄時代の絵図は彩色も豊かで人気がある。

嘉永4年(1851)東都下谷絵図

安政3年(1856)根岸谷中日暮里豊島辺図  
尾張屋版切絵図。案内コースの江戸後期図



# 徳川将軍家15代と寛永寺



徳川家康

## 1) でたらめ?系図で獲得した源氏将軍

①徳川家康と豊臣秀吉。2人の天下人の身元調査

徳川	征夷大將軍、太政大臣	源(みなもとの)	朝臣	家康
羽柴	関白兼太政大臣	豊臣(とよとみの)		秀吉

太閤(養子秀次に関白を譲渡後)

名字	官位	氏	皇子皇孫	名前
----	----	---	------	----

秀吉はあくまでも羽柴秀吉、豊臣(とよとみ=のなし)秀吉は後世の呼び名

\* 征夷大將軍=えびす(えぞ、未開地)討伐のため派遣された将軍。中世以降は幕府主宰者で軍事(武士)と政権を掌握した。源平交代論。鎮守府将軍、鎮東将軍、征夷将軍

\* 関白=天皇を補佐し政務を取り行なう要職

\* 太政大臣=臨時の太政官長官、一種の名誉職

\* 太政大臣>征夷大將軍。位は低いが武家の棟梁としてのこだわり

②秀吉=藤原→豊臣。百姓の出公知のため源平の系図がとれず征夷大將軍になれない

家康=藤原→源。8祖親氏は流浪の僧侶であったが運良く三河松平郷の土豪宅にムコ養子となって松平を称した。源氏とのかかわりはなく、朝廷系図係の万里小路家や朝廷に多額の贈賄を繰り返し、源氏姓を獲得、征夷大將軍の座を獲得する

## 2) 鳴かぬなら鳴くまで待とうほととぎす 耐え抜いた初代家康の天下取りレース

①秀吉存命中は5大老筆頭として絶大な信頼を受ける。関東8か国250万石、豊臣政権最大の実権者。臨終に際し秀頼後顧を哀願される。

\* 5大老=徳川家康、前田利家、毛利輝元、上杉景勝、宇喜多秀家

5奉行=石田三成、長束正家、増田長盛、前田玄以、浅野長政

②慶長3年(1598)秀吉逝去後急変、露骨に天下取り狙う。ラストチャンスは逃がさない。

③派閥の対立を利用して関が原の合戦を開く。

\* 文治派=石田三成ら5奉行を中心とした官僚グループ

武断派=池田輝政、加藤清正、黒田長政、伊達政宗、福島正則、細川忠興ら武将グループ。

武断派は本来「反石田」ではあるが「反豊臣」ではない

\* 家康に抵抗する会津の上杉景勝。石田三成の挙兵、小山評定での東軍決起

④慶長5年(1600)関が原合戦勝利。天下人になる。

\* 関が原合戦両軍配置、絶対不利から強行突入で活路。勝敗分けた毛利不戦と小早川秀秋の寝返り

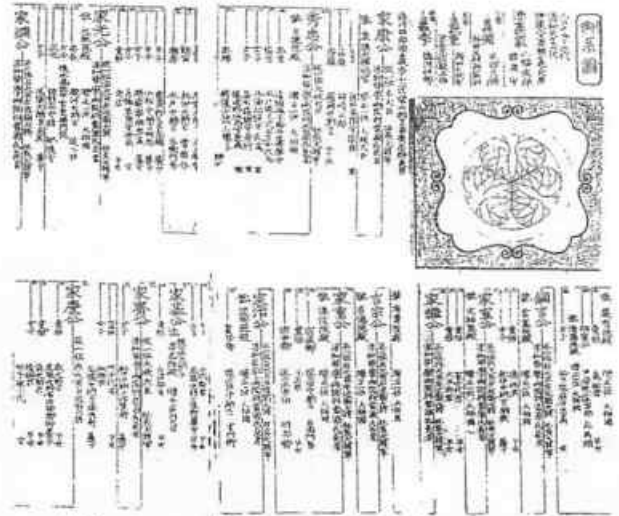
⑤本隊秀忠の遅参で徳川家は大きな代償を払う。

\* 外様大名の活躍で恩賞増大。九州、東北などに潜在的な外敵を抱えることに

⑥慶長8年(1603)江戸に幕府を開く。10年隠居、大御所。元和元年大坂の役で豊臣家の滅亡。

⑦元和2年(1616)4月17日薨去、75歳。久能山東照宮葬、日光東照宮移葬。神格化。

\* 東照大権現=東に照りおわす権現=衆生を救済するため神が姿を変えて現われること



「大名武鑑」の徳川家系図

関ヶ原の合戦用戦図



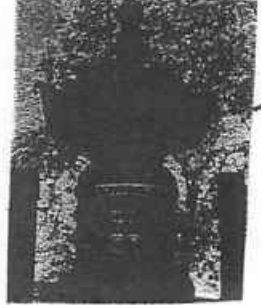
- ③ 10代将軍家治=宝暦10年将軍宣下。聡明だが田沼意次に政治関与を妨げられ独裁を許す。天明6年没、50歳。寛永寺葬、法名凌明院。  
\* 田沼時代=商業資本を活用して幕府財政再建をめざすが一方で「賄賂政治」の批判も  
\* 第1霊廟家綱宝塔の隣におかれているが未公開。バス研修では霊廟前を通る
- ④ 11代将軍家斉=天明6年将軍宣下。家治に嫡子なく御三卿一ツ橋治済長男から養子。はじめ松平定信を重用して善政をしくが、後半の親政には見るべく所もないいい加減な放漫政治となる。隠居後も政権を手放さず50年以上にもわたって実権を握った。化政文化、江戸っ子と粋、博徒の横行、文学、浮世絵、絵画  
天保12年没、69歳。寛永寺第1霊廟葬、文恭院。  
\* 寛政の改革=松平定信が主唱、享保の改革を理想とした復古理想主義で農村復興、都市政策強化などにあたった。厳しい統制、儉約政策が庶民の反発を招いて失敗に終わる  
\* 大御所時代=理想のない放漫経営。賄賂政治が復活、ぜいたくな生活は財政破綻を招き、治安が混乱した  
\* 日本一の子福将軍=側室40人、子女55人、自分勝手な養子政策の押し付け  
\* 寛永寺バス研修で前を通過
- ⑤ 12代将軍家慶=天保8年将軍宣下。当初は父家斉の院政、死後の12年から実権を握り水野忠邦を登用して「天保の改革」を進めるが失敗。増上寺葬。

6) 混乱する幕末、幕府崩壊へ 13代家定、篤姫夫妻と15代慶喜

- ① 13代将軍家定=嘉永6年将軍宣下。体が不自由で子が望めず、早くから後継争いが起こった。ペリー黒船来航後、内憂外患の時代、大老に豪腕の井伊直弼が就任する。「日米通商条約」を無断許で調印、反対派を弾圧して「安政の大獄」を布くが「桜田門外の変」で倒れた。安政5年没、35歳。毒殺説もある。寛永寺第2霊廟葬、温恭院。  
\* バス研修で正室・篤姫墓とともに参拝する
- ② 正室篤姫=島津斉彬のおじ忠剛のむすめ。斉彬養女として家定3番目の御台所に迎えらる。家定死去後天璋院を号す。江戸開城時、城内徳川家をまとめ退出、14代家茂正室皇女和宮とともに徳川家存続に奔走、16代家達の母代わりを勤める。明治16年没、48歳。寛永寺第2霊廟、夫家定宝塔の傍らに眠る。
- ③ 14代将軍家茂=家定に子供なく紀伊家から養子。安政5年将軍宣下。政局混乱の中、慶応2年第2次長州征伐のため大坂城滞在中病死。芝増上寺葬。
- ④ 15代将軍慶喜=慶応2年家茂に子供なく水戸家から一ツ橋家に養子となっていた慶喜が継承。機先を制した「大政奉還」で引き続く政権担当を狙うが、鳥羽伏見の戦いに敗れて江戸へ逃げ帰る。2月寛永寺大慈院（現寛永寺）に謹慎し、江戸開城の4月15日生家の水戸に退出した。大正2年没、77歳。谷中墓地葬。  
\* 谷中墓地で慶喜の土饅頭墓神式墓を参拝する。かたわらに御台所美賀子や側室たちが並ぶ



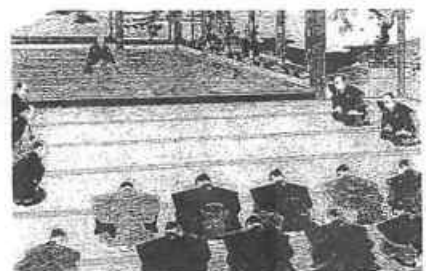
吉宗



家定

篤姫

坂本龍馬および土佐藩の構想では、徳川慶喜に「大政奉還」をさせた後、譜大名・藩士などによる公議政体をつくり、その議長に慶喜を就かせようとしていた。龍馬が福井藩士・村田三郎らに語ったといわれているように、「上様（慶喜）は開白」と考えていたらしいのである。慶喜自身は後年これを否定しているが、この時期、側近の西岡に「議題草案」という具体的な政体構想を立てさせていたことは間違いない。「議政開白」として送り付き、天皇を補佐する形で実質的な政界トップになろうという計画だ。しかし、この思いはかなわなかった。その後幕府は「戊辰戦争」に突入するが、もしも幕府側が勝利していれば、慶喜はどんな政権をつくったのだろうか。



大政奉還上野の祭。慶喜は「大政奉還」を朝廷に上奏することで、倒幕の軍を動かそうとする龍馬のたくらみをくじいた。（歴史記念館提供）



# 境内30万坪、比叡山にならった寛永寺

## 1) 年号を名乗る寺院は国家的事業で創建された=寛永寺と天台宗

- ①山号(寺名に冠する称号、元は多くの寺が山にあり山名を名乗ったことに由来)=東叡山。京都鬼門を守る比叡山に対して、江戸城の鬼門を守る「東の比叡山」から
- ②寺号=寛永寺。創建時の年号。年号名を許された寺院は国家的事業として創建されている
- ③院号(元は貴族や将軍が立てた寺院の号)=円頓院。天台宗の究極の教え。円満にしてかたよらず、時を経ずして速やかに成仏すること
- ④天台宗=法華経を根本経典とした仏教宗派の一つ。宗祖は9世紀はじめの最澄。比叡山延暦寺を本山とし、この地で学んだ法然、親鸞、日蓮らが分流、「日本仏教の母」とされる。戦国後期織田信長の焼き討ちで一時その勢力にかけりが見えたが江戸時代天海の活躍で盛り返した。現在信徒およそ300万人、浄土、日蓮、真言宗に次いでいる。
- ⑤徳川家の宗派はかつて浄土宗と天台宗であったが現在は天台宗といえる

## 2) 3代将軍家光が開基、天海が開山した江戸随一の大寺院

- ①開基(創立者)=3代将軍家光
- ②開山(初代住職)=天海(徳川家康、秀忠、家光代寺社行政顧問)
- ③天海=江戸初期の天台宗僧、天文5年(1536)会津生まれ、比叡山で天台を学ぶ。徳川家康の知遇を得て内外の政務に参画、川越喜多院、日光山を授かる。家康の死後、権現号の勅許を請い、日光山に改装して輪王寺を建立、その廟の経営に勤めた。寛永元年秀忠の命により上野寛永寺を開山、家光からも信任されて寛永20年(1643)没、107歳となる。  
\*家康の神格化と神号「権現」=古代人間神格化はなく豊臣秀吉の豊国大明神が第1号。崇伝らの大明神を退け天海主張の東照大権現に決まる。
- ④寛永2年創建=江戸に天台宗の拠点を作りたいとの天海の思いを知った秀忠が、現在上野公園の地にあった藤堂高虎津藩邸を移転させて寺域を提供。寛永2年家光が現在国立博物館に本坊を、同4年法華堂、多宝塔、東照宮、8年清水観音堂、五重塔を、元禄11年綱吉が寺の中心となる根本中堂を建立、江戸時代を通じ天台宗本山として絶大な権勢を誇った。
- ⑤輪王寺宮=3代貫主(住職)に後水尾天皇の第3皇子守澄法親王を迎え、日光山主と天台座主を兼ねた。以後代々の貫主は皇子または天皇の猶子が勤めた。「輪王寺宮」を称し、徳川御三家待遇、日光東照宮、比叡山を統括兼務した。
- ⑥将軍家祈禱寺、菩提寺=6将軍が眠る。



寛永寺の歴史  
寛永寺の歴史(寛永寺)

寛永寺は、寛永2年(1645)に3代将軍家光が、上野公園の地に、藤堂高虎の津藩邸を移転させて創建された。寺域は、寛永2年から寛永20年(1643)まで、約20年間にわたって、家光の御願寺として、整備された。寺域は、寛永2年から寛永20年(1643)まで、約20年間にわたって、家光の御願寺として、整備された。

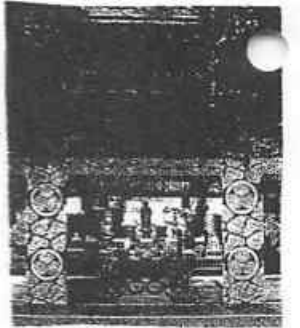
東叡山寛永寺開山大師天海大僧正  
天海は、和歌山県熊野本宮大社(熊野大社)の僧侶として、天文5年(1536)に会津生まれ、比叡山で天台を学ぶ。家康の知遇を得て内外の政務に参画、川越喜多院、日光山を授かる。家康の死後、権現号の勅許を請い、日光山に改装して輪王寺を建立、その廟の経営に勤めた。寛永元年秀忠の命により上野寛永寺を開山、家光からも信任されて寛永20年(1643)没、107歳となる。

寛永寺の歴史  
寛永寺の歴史(寛永寺)

寛永寺は、寛永2年(1645)に3代将軍家光が、上野公園の地に、藤堂高虎の津藩邸を移転させて創建された。寺域は、寛永2年から寛永20年(1643)まで、約20年間にわたって、家光の御願寺として、整備された。寺域は、寛永2年から寛永20年(1643)まで、約20年間にわたって、家光の御願寺として、整備された。



家光  
本堂内陣



根本中堂



### 3) 上野戦争でほぼ全山を焼失、政府に没収され上野公園となる

- ①慶応4年、鳥羽伏見の戦い敗れた徳川慶喜は上野寛永寺にこもって朝廷に恭順を示した。慶喜の身辺警護を目的に彰義隊が結成され、江戸に進攻した新政府と激しく反目した。5月15日ついに開戦、寛永寺は砲火を受けてほぼ全山が焼失した。
- ②新政府は境内地を没収、寛永寺は子院の大慈院に移り本坊を再興した。
- ③昭和20年戦災で第1、第2霊廟の主要建造物を焼失、勅額門、宝塔などが残った。

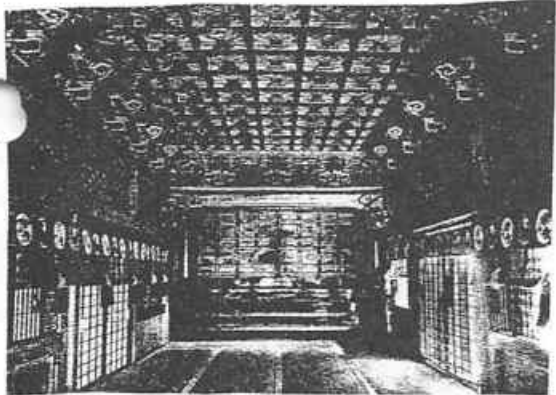
### 4) 寛永寺の主な文化財

- ①根本中堂=川越喜多院から家光建立の本地堂を移築。重文。勅額は東山天皇の筆で「瑠璃殿」
- ②薬師如来坐像=根本中堂に安置。等身大尊像。重文
- ③徳川慶喜謹の間=2か月謹慎した部屋。非公開
- ④徳川歴代將軍霊廟=綱吉ほか宝塔、勅額門、水盤舎、石垣、石灯ろう。一部重文
- ⑤開山堂=天海聖人を祀る。境内に寛永寺移築本坊表門、金唐灯ろうがある。重文
- ⑥清水観音堂=京都清水寺を模した舞台作り堂。重文
- ⑦しのぼずの池中の島弁天堂=比叡山の琵琶湖竹生島宝蔵寺をなぞえる
- ⑧上野大仏=寛永造立の青銅大仏。顔だけが残る
- ⑨上野東照宮=家光が造営。重文(工事中)
- ⑩寛永寺五重塔=上野動物園に現存。重文
- ⑪天海僧正毛髪塔=墓所は日光。ここでは遺髪を取める
- ⑫時報塔=寛文年間建立。いまも朝夕6時と正午に時を告げる
- ⑬彰義隊の墓=直後の碑は小さく、明治14年碑は山岡鉄舟筆



戦災焼失前の  
の霊廟

④ 綱吉  
⑤ 綱吉

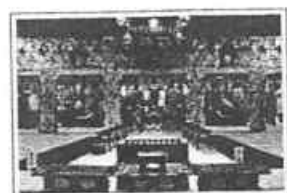


立入り 子せん 十五代將軍 徳川慶喜公 謹慎の間 現存 移築

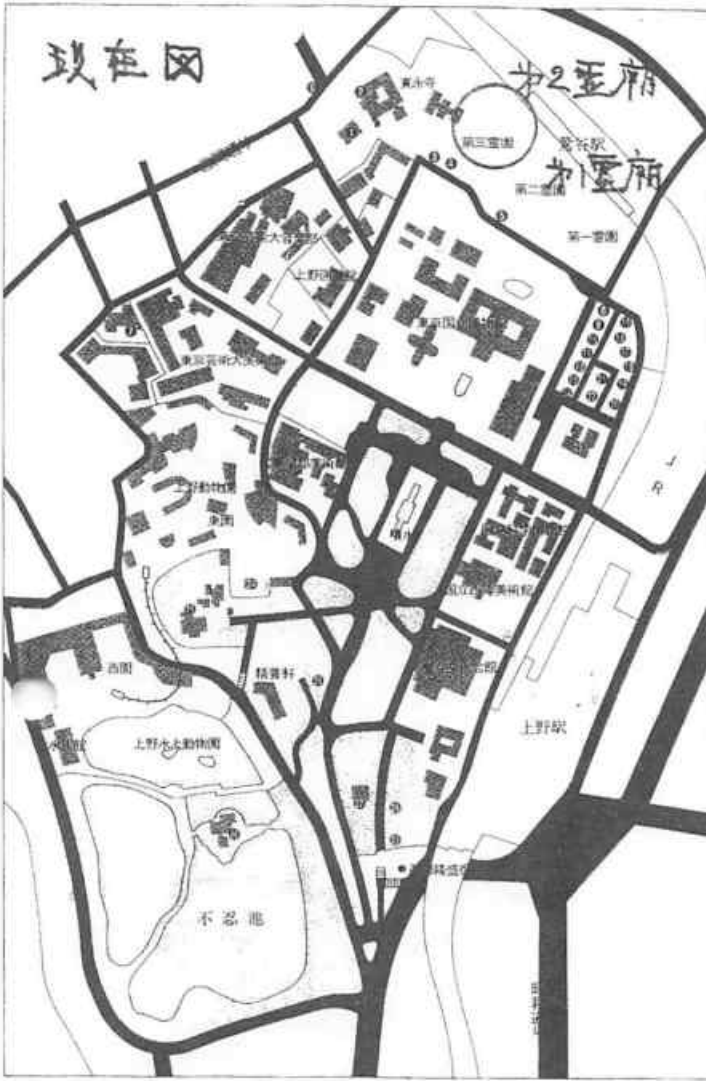
現在、寛永寺には「謹の間」と呼んでいる二間続きの部屋がありますが、此処は慶応四年（一八六八）の二月十二日から四月十一日まで、十五代将軍慶喜公が謹慎されたお部屋です。上方から伝来した「謹の間」は、一月の間幕閣の議論を聴取した上で、一先謹慎を決定し、寛永寺の境内に、徳川慶喜公の別荘（現在の寛永寺の地）に入られました。おは正徳の御代に建てられました。そのため、江戸城の無血開城の日（四月十一日）の朝、此処を築いた徳川慶喜公へ向かわれたのです。

なお、この部屋はかつて現在の太皇太后の御所にありましたが、天正三年に現在地に移築されました。その際、おえて木材のみを用いて再建したため、元々十二畳半、十畳の二間続きでも、そのものが、現在のようになり、八畳の形になりました。

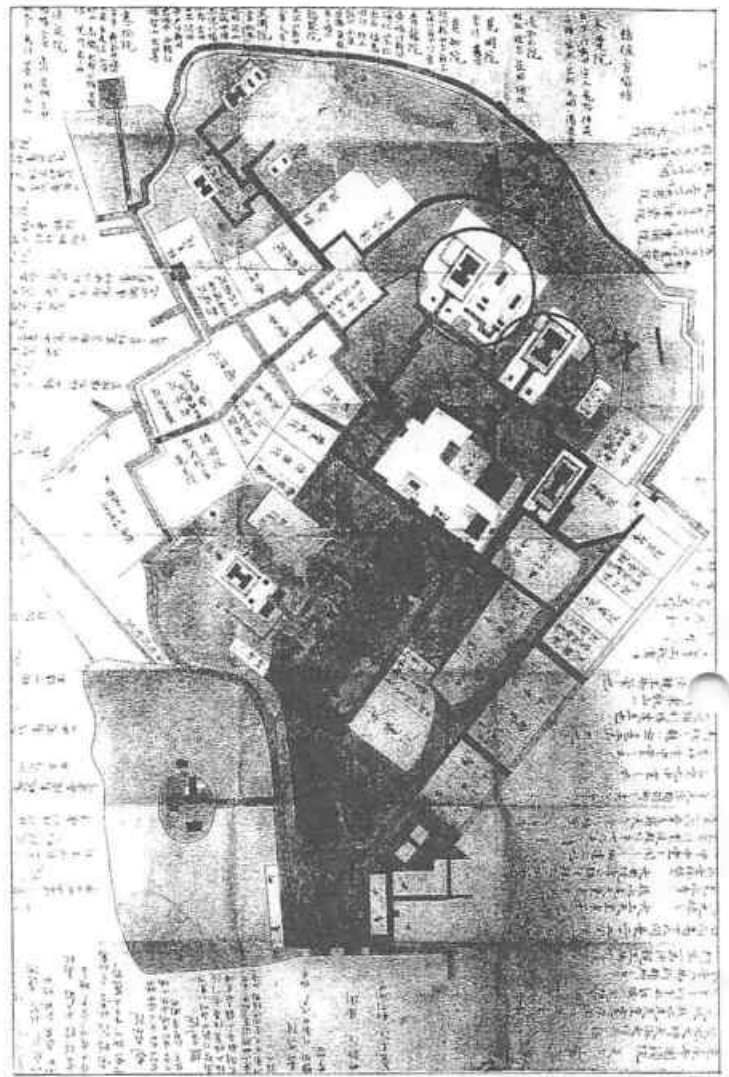
このことは、原の間柱や建具を見るとよくわかります。



特別拝観コース(公式ネット)



- |          |            |        |        |            |           |
|----------|------------|--------|--------|------------|-----------|
| 1 観音堂    | 8 浄光院      | 11 善行院 | 18 徳助院 | 25 善徳院     | 32 大仏堂    |
| 2 龍王寺の岡  | 9 護国院(大基天) | 12 華光院 | 19 本堂院 | 26 善光院     | 33 清水観音堂  |
| 3 常楽院徳門  | 10 善知院     | 13 権持院 | 20 元光院 | 27 善王(向大鐘) | 34 天海堂正徳堂 |
| 4 常楽院水鏡寺 | 11 善徳院     | 14 東光院 | 21 東光院 | 28 瓦葺屋     | 35 善徳院の墓  |
| 5 善行院徳門  | 12 林光院     | 15 光明院 | 22 徳助院 | 29 善徳院     | 36 善光堂    |

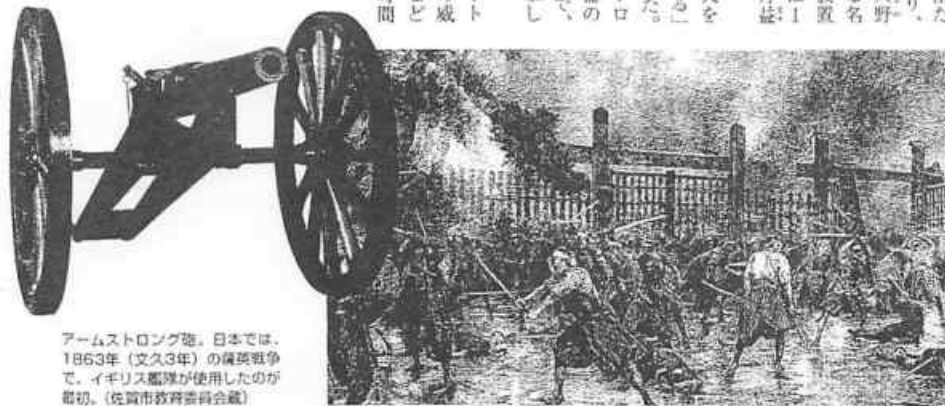


10代家治の39 寛永寺境内図



天野八郎貞徳。影義隊の副頭取だが、事実上のリーダーだった。

新政府軍への恭順に納得しない幕臣たちの中に、上野寛永寺山内に集まり、「影義隊」と名乗る勢力があった。天野八郎をリーダーとし、慶喜を守護する名目で結成されたこの一団が、やがて放置できない勢力に膨らむと、新政府軍は1868年(慶応4年)5月15日、大村益次郎の指揮下に攻撃を開始した。倒幕派の益次郎は、「影義隊を『戦火を江戸城におよぼすことなくせん滅する』と約言したが、その通り1日で壊滅した。その際、彼が使用したのがアームストロング砲。この砲撃の威力は当時の兵器の中でもズバぬけており、益次郎はこれで、現在の東京・本郷から上野の山を砲撃したという。



アームストロング砲。日本では、1863年(文久3年)の薩長戦争で、イギリス艦隊が使用したのが最初。(佐賀市教育委員会)



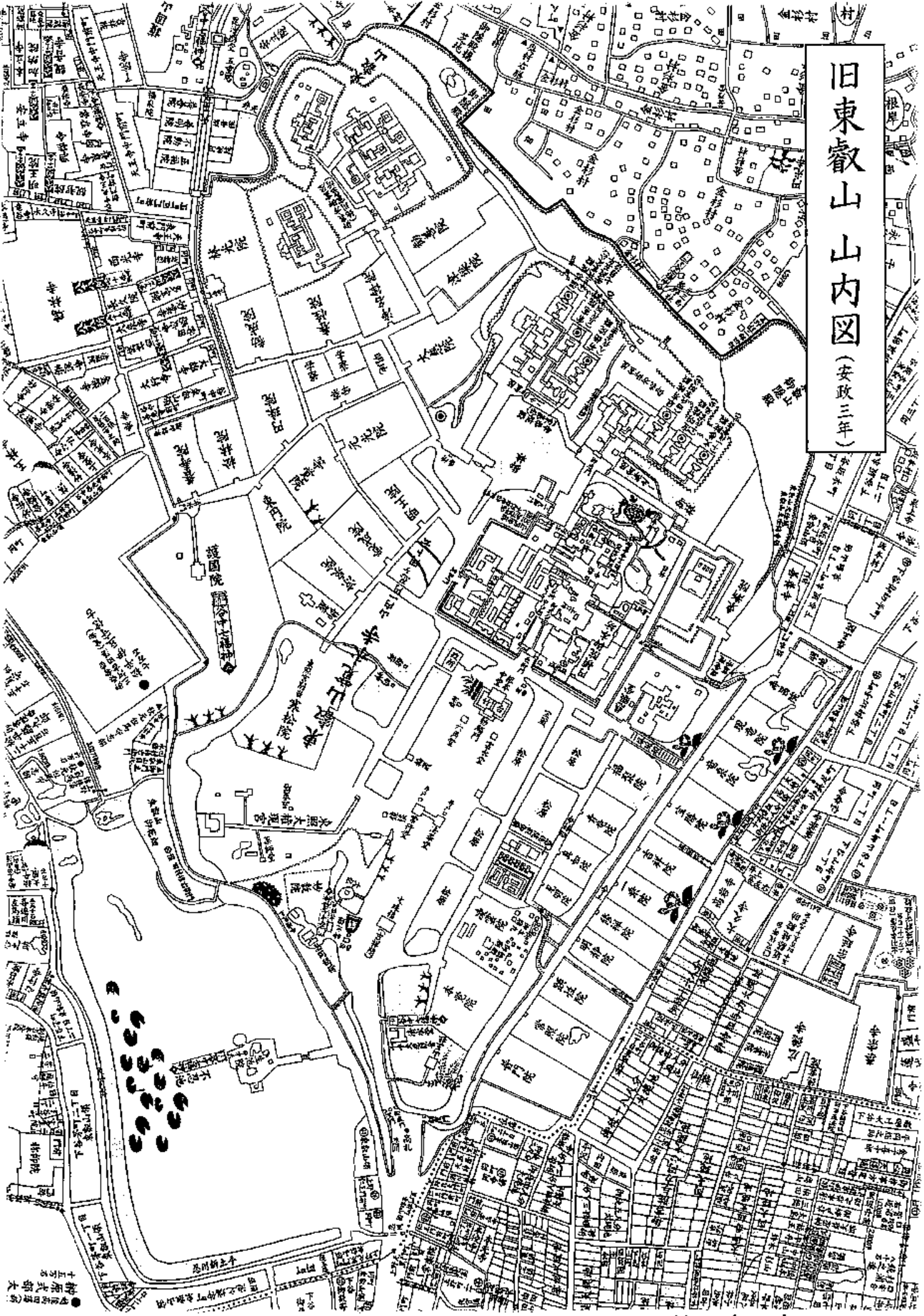
上野の山で大暴れ!  
最強アームストロング砲

1868年(慶応4年)、勝海舟と西郷隆盛の取り決めに従い、新政府軍が江戸城に入城した。しかし、江戸は開城したばかりの混乱で、各地で新政府軍に対する内乱が相次ぐ。旧幕府お膝元の江戸では、徳川慶喜の復権を望む影義隊が上野戦争をしかけるが、1日で壊滅。東北では、奥羽政権を擁護した奥羽越前同盟軍があるさき降伏し、かの松平容保の居城、会津若松城も落城の末路をたどる。

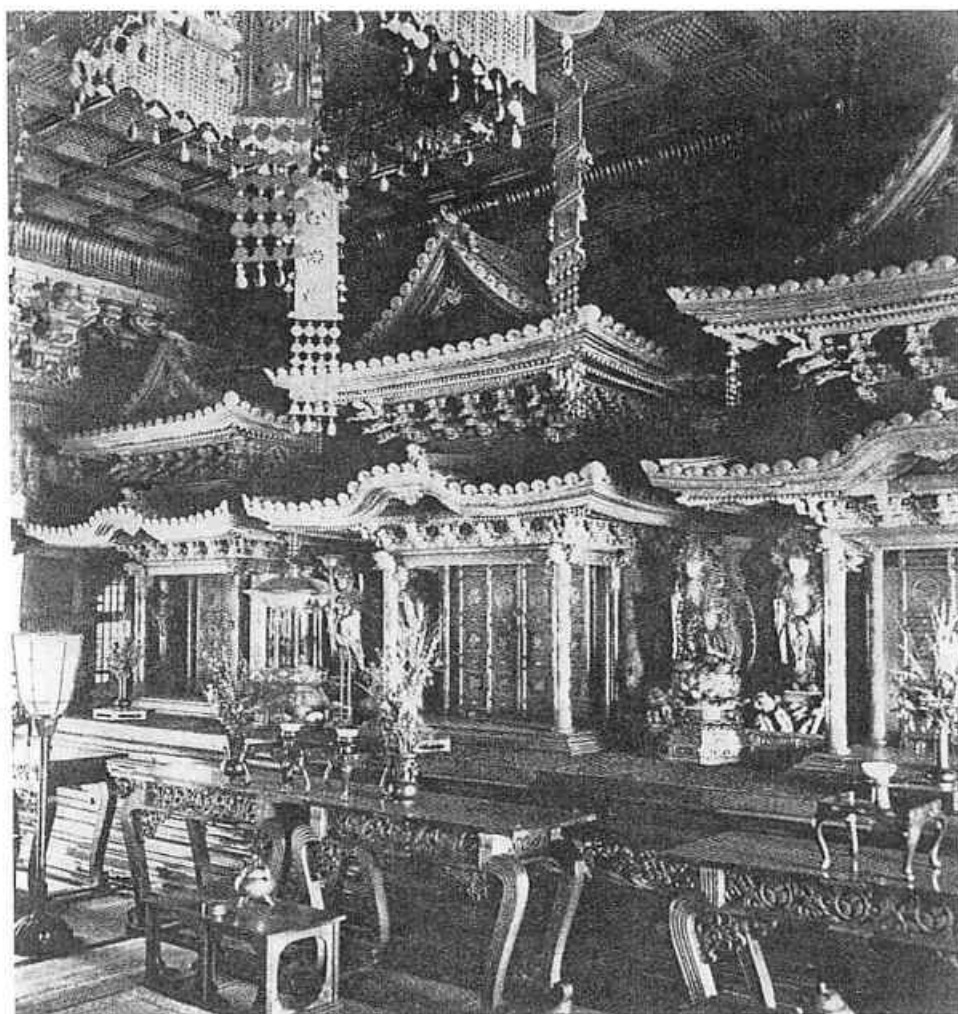
上野戦争で指揮をとった益次郎は、寛永寺に立てこもった旧幕府勢力を討滅した。左は影義隊砲台。上野戦争の様子が描かれている。(円通寺蔵)



# 旧東叡山山内図 (安政三年)



此文字 特別資料 記念 資料



# 東叡山寛永寺 特別参拝

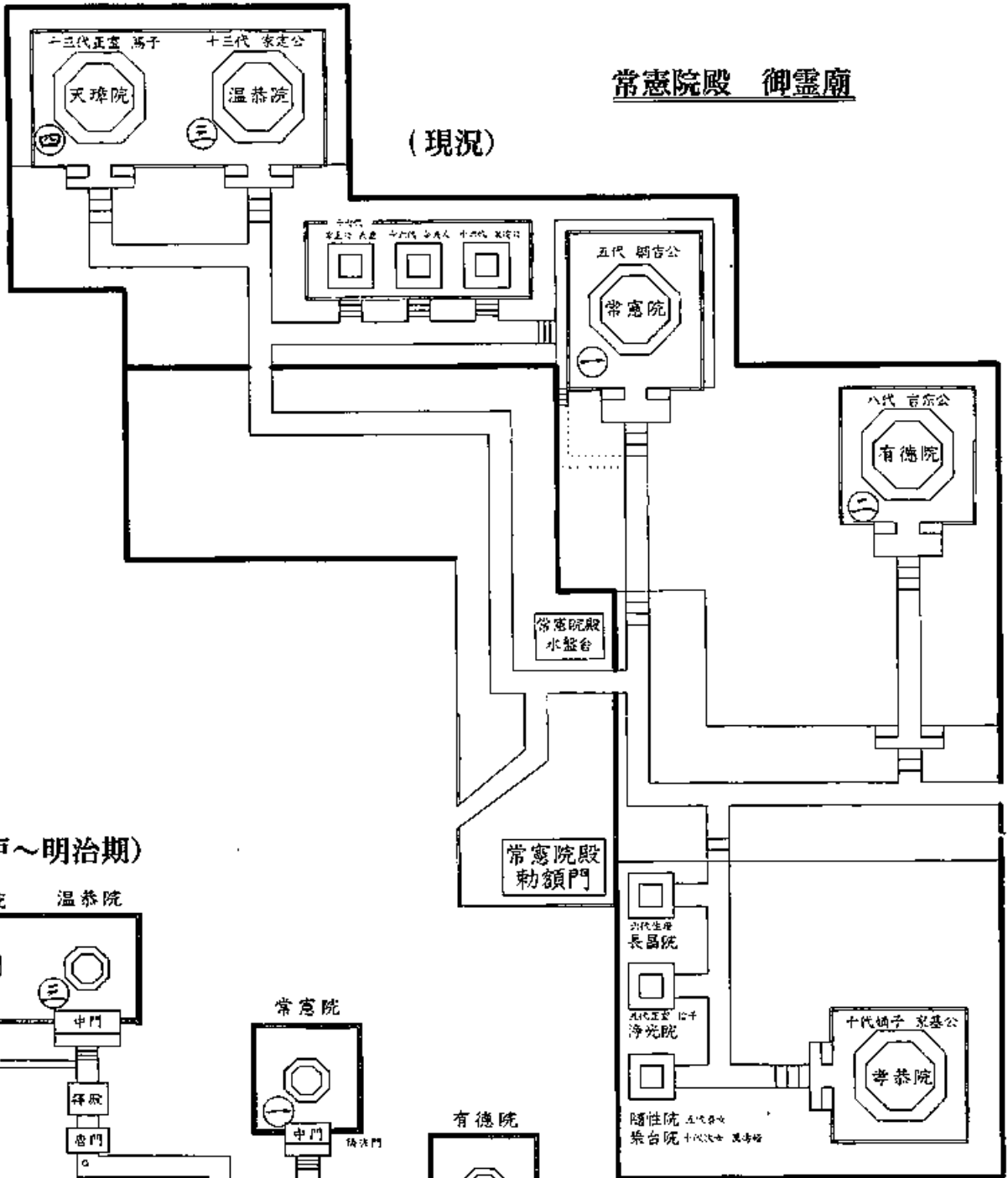
御位牌所 本殿（第二次大戦にて焼失）

参拝にあたってのお願い

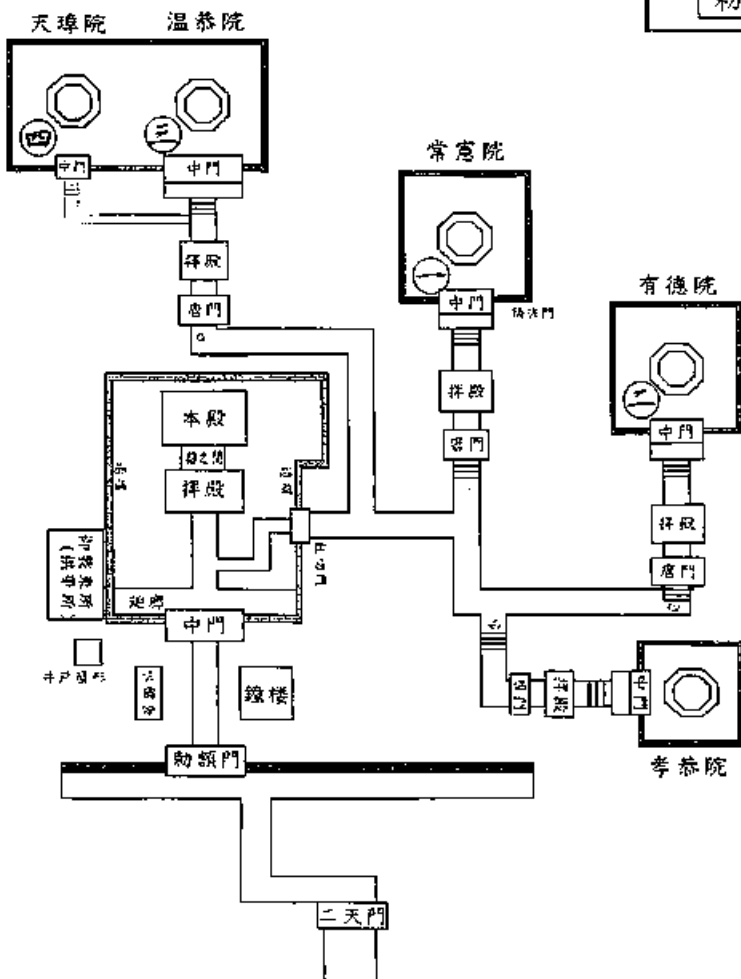
- ・参拝時間や場所の制限（撮影や立入禁止場所等）を遵守し、案内の者の指示に従って下さい。
- ・仏像・宝塔をはじめ寺物及び展示物等には、手を触れないで下さい。
- ・室内及び霊廟内での飲食・喫煙は禁止しています。また、同所では脱帽をお願いします。
- ・参拝中は携帯電話の電源を切るかマナーモードにして使用を控えて下さい。
- ・ゴミは各自にてお持ち帰り下さい。
- ・参拝順路には江戸時代に造成された参道等をご利用頂く部分が含まれます。歴史的建造物であることをご理解頂き、転倒等に十分にお気を付け下さい。

常憲院殿 御靈廟

(現況)



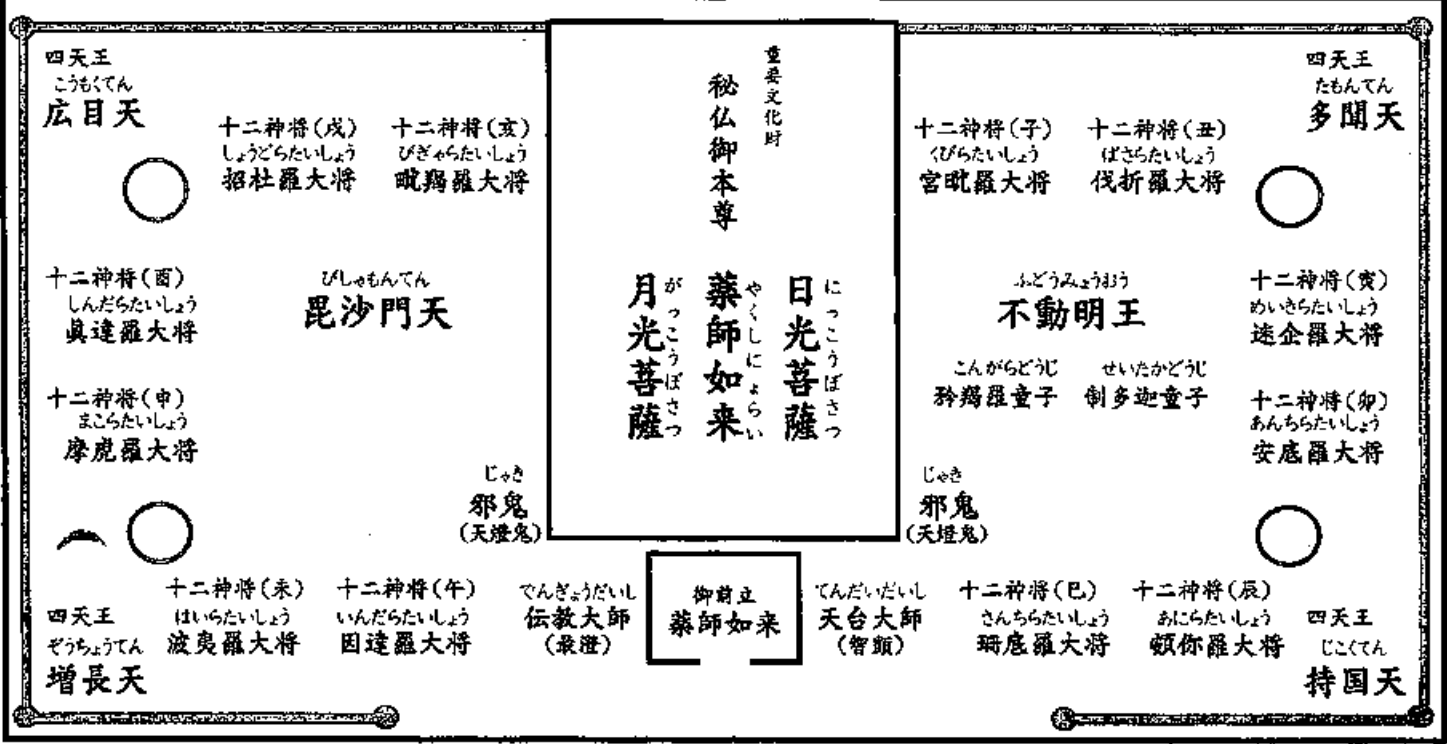
(江戸~明治期)



- 一、常憲院殿御寶塔  
五代將軍綱吉公  
(宝永六年 1709 段 享年六十四)
- 二、有徳院殿御寶塔  
八代將軍吉宗公  
(寛延四年 1751 段 享年六十八)
- 三、温恭院殿御寶塔  
十三代將軍家定公  
(安政五年 1858 段 享年三十五)
- 四、天璋院殿御寶塔  
家定公御正室 篤子  
(明治十六年 1883 段 享年四十八)



### 根本中堂須弥壇之図



【国指定重要文化財】 薬師如来三尊像 34号 平安時代  
 【台東区登録文化財】 四天王像 146号 江戸時代 元和8(1620)年

### 寛永寺史 略年表

西暦	年号	東叡山 寛永寺	参考事項
一五三六	天文五	開山天海誕生	
一六〇三	慶長八	寛永寺開創。本坊落成。「寛永寺圓頓院」の物頭を賜る。	家康江戸幕府を開く
一六一六	元和二	此頃、不忍池開天宮建立	家康、逝去
一六二五	寛永二	法華堂、普行堂、仁王門、黒門、多宝塔、三十三社等建立	
一六三〇	寛永七	釈迦堂、建立	
一六三一	寛永八	五重塔、鐘楼、港噴大仏、祇園堂、清水観音堂建立	
一六三七	寛永一〇	天海版一切経給刊。山王社建立。	
一六四三	寛永一六	天海、東叡山において入滅。公海、寛永寺に住して日光山を遺傳す。	
一六四四	寛永一七	開山堂建立。	
一六四七	寛永二〇	守澄法親王入山。	
一六四八	寛永二一	天海に「慈眼大師」勅諡。天海版一切経完成。家光、寛永寺で葬送。	
一六五一	寛永二四	大猷院殿(家光)宣明建立。	
一六五二	寛永二五	守澄法親王、公海の法席をつぎ日光、東叡、比叡の三山を管掌す。	
一六五四	寛永二七	守澄法親王、「輪王寺」門室寺を賜る。	
一六五五	寛永二八	時の鐘初納。	
一六六六	寛永三九	家康を寛永寺に葬る。	
一六八〇	延宝八	家康を寛永寺に葬る。	
一六八一	天和元	版有院殿(家綱)宣明建立。	
一六八二	天和二	了翁律師、東叡山勸学講院を興す。	
一六八八	元禄一	根本中堂落慶。「階勝殿」の納額を賜る。	
一七〇九	宝永六	文殊精建立。下寺通りを作る。	
一七五二	寛延四	吉宗を寛永寺に葬る。	
一七五五	天明六	家治を寛永寺に葬る。	
一七八六	天明二	家治を寛永寺に葬る。	
一八四一	天保二	家定を寛永寺に葬る。	
一八五八	安政五	慶喜、大慈院にて謹慎。(同平水戸へ下る) 公現法親王、東叡山を立退く。同日兵火により根本中堂、本坊等、山内堂千の大半を焼失す。	大政奉還 戊辰の役
一八六七	慶応三	東京府、寛永寺境内の神社関係建築物除去を命ず。輪王寺門跡号廃止。	東京の神仏分離
一八七〇	明治元	新根本中堂として川越喜多院の本堂を移築再建。	
一八七三	明治六	東叡山跡地、上野公園用地に指定。	
一八七九	明治一三	「輪王寺」門室寺の復讐許可。	
一八八五	明治一九	唐銅大仏復興で銅鑄、解体される。	
一九二二	大正一〇	寛永寺幼稚園創立。	
一九二四	大正一三	東京大空襲にて徳川家御堂焼失。子院多数、不忍池開天宮焼失。	関東大震災
一九四二	昭和一七	徳川家御堂復興再建。	
一九五五	昭和三〇	上野大仏山パブリック建立。	太平洋戦争終結
一九六三	昭和三八	開山堂焼失。	
一九八九	平成元	開山堂再建。輪王殿創設。	

平成23年度 辰巳公民館主催事業

# 市原の歴史(3回シリーズ)

講師 山越 国臣氏

目的：市原市民に歴史文化の薫る市原市の魅力を再認識し、

郷土に対する地域の誇りを持つ。



## 第1回. 地元学「市原を知ろう！」

平成24年9月14日(金) 9:30~11:30 研修室

## 第2回 バス研修

日時 平成24年10月9日(火) 8:45~16:30 (雨天決行)

見学場所 市原八幡神社、阿須波神社、光善寺薬師堂

飯香岡八幡宮(宝物殿)、埋蔵文化財調査センターなど

集合場所 辰巳公民館 ロビー 9:00集合(9:15出発)

費用 無料

持ち物 昼食(飲料)、筆記用具、履きなれた靴(必要に応じて雨具)



※欠席の場合、必ずご連絡ください。(連絡先 Tel. 74-8521)

9/29  
28 AP

口道二柳ヶ原

# 地元学「市原を知ろう！」

国府

平成24年9月14日  
市原市立辰巳公民館歴史講座

光

## (一) 知ってるつもりで知らない市原

- 市原市の市名の由来
- 奈良・平安・中世にかけて市原郡に上総国府が置かれた

国府が  
の途中

## (二) 古代ロマンに満ちた市原地区

- 市原市の一丁目一番地は「市原八幡神社」
- 万葉集に登場する「阿須波神社」  
旅の神様として崇敬されている
- 光徳寺は国分寺、国分尼寺より古い瓦が出土  
境内には県内で一番古い石灯ろう（市原市指定文化財）が残っている

ヤシ

8/8 前

## (三) 市原地区周辺には古代遺跡が多数

- 市原条里制遺跡
- 古代官道跡
- 五所四反田遺跡

国府 → 市原

井戸 → 八幡宮

## (四) 特殊神事の「市原の柳橋神事」(千葉県無形民俗文化財)

- 柳橋が八幡の飯香岡八幡宮に到着しないと祭事・みこしが出御できない
- 国府に関連した神事か？

飯香岡八幡宮は上総国府総社

似た例は全国に多い。館山市の鶴谷八幡宮の例大祭「やわたんまち」は、南房総市(旧三芳村)の元八幡神社からの清水が届かないと始まらない。正式名称は「国府祭」

相模国府(神奈川県大磯町)の国府祭(こうのまち)。六所神社(総社)の使者が轡を持って一宮薬川神社など五社のみこしを境界で迎える。五社がそろったところで座問答という神事を行う

- 市原の柳橋神事の進めかた

祭り前日。柳橋司家で調整—市原公民館(出ぶるまい)—市原八幡神社—阿須波神社—柳橋の道(中道)—五所公民館(一泊)—飯香岡八幡宮(祭事・みこし出御)

市原里づくりの会  
山越 国巨

携帯 090-8728-7324

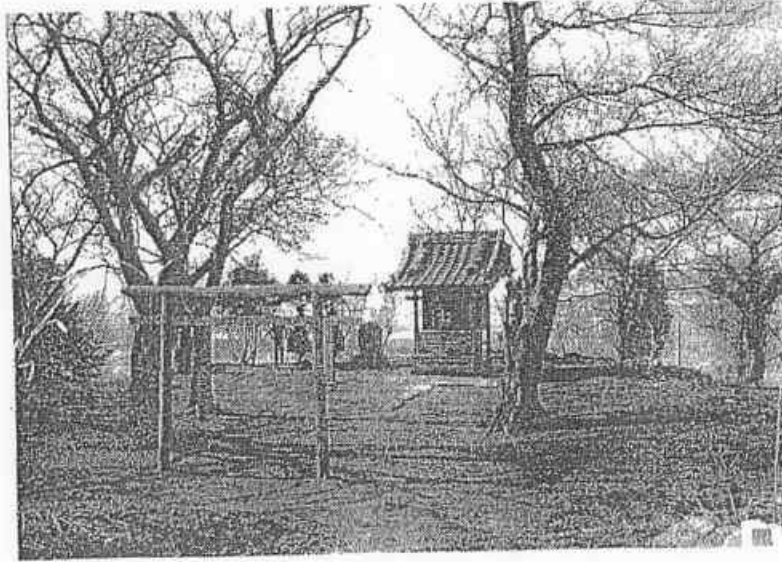
柳橋神事

柳橋

柳橋

柳橋





阿須波神社

この歌は、二つの解釈がある。諸人という隣人が家族の身になって詠んだとも、家族が歌つたものを提出したともいわれている。作者としては防人の名が記されているが、作者名の下には「父・母」または「妻」の文字が落ちたのではないかという説もある。内容から見ると、留守家族の歌のように思われるので、この歌は家族の誰かが詠んだ歌を諸人が覚えていて、提出したと考えたい。ただしこの「吾」は誰だろうか。父か母か、それとも妻であったのだろうか。一家の柱を、また愛する人を防人として遠い筑紫に送るにあたっては、その安全を神に祈る他はなかつたのであろう。

〔鑑賞〕

庭さきに祭つてある阿須波の神に、小柴をさして依り代とし、私は潔斎して祈ろう。帰つて来るまでの無事を。

〔歌意〕

庭中の 阿須波の神に 小柴さし 吾は斎はむ 帰り来までに (巻二十・B1110)  
 小波奈加能 阿須波乃可美介 古志波佐之 阿例波伊波々牟 加倍理久麻泥介

右一首、帳 丁若麻績部諸人

〔語釈〕

○阿須波の神—古事記に出て来る神で大年神の子神とされる。農業神とも屋敷神ともいわれているが、ここでは、防人の旅の安全を祈つたと思われる。○小柴さし—木の枝の小さい柴を土にさして。ここでは、出発に際して柴を神の依り代としたことをいうのであろう。○斎はむ—潔斎して祈ろう。



(19)

## 阿須波神社

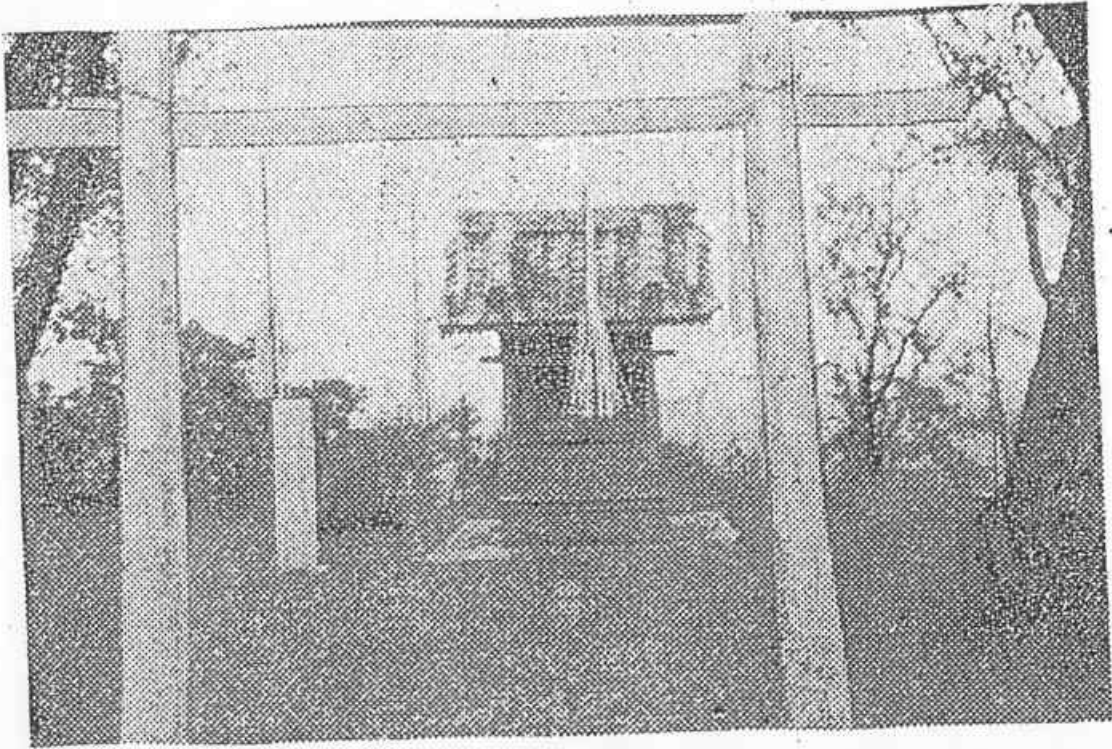
千葉県の子輪を象徴する遺跡

が、市原市市原の阿須波台あり、過去の社会や文化をしのばせてくれる。阿須波神社と呼ばれる小社がそれで、かつての条理制水田を望んだ台地上にあって、現状からは想像できないひとつの歴史を秘めている。

今井福治郎

著「房総万葉地理の研究」(春秋社刊)では、この阿須波神社を万葉遺跡だと重視して「庭中の阿須波の神に木柴さし吾は茶はむ嚙り来まで」という「万葉集」巻二十の歌と連結している。上総の風から出た防人の若

# 神の国衛の上総



市原市の阿須波神社。

麻績部諸人(わかおみべのもろひと)の詠んだ歌だが、防人として遠い旅に行く諸人が、帰って来るまでの安全を祈り、庭中の阿須波の神に小柴をさしたという歌である。万葉人が生きた奈良時代には、遠い旅に出る場合は集落の神に小枝をさして供奉、無事帰着を願う民俗があった。しかも屋敷神と同じく宮に西北隅にまつられてきた。今井博士はこうして阿須波神社は上総の国の国衛の神ではなからう

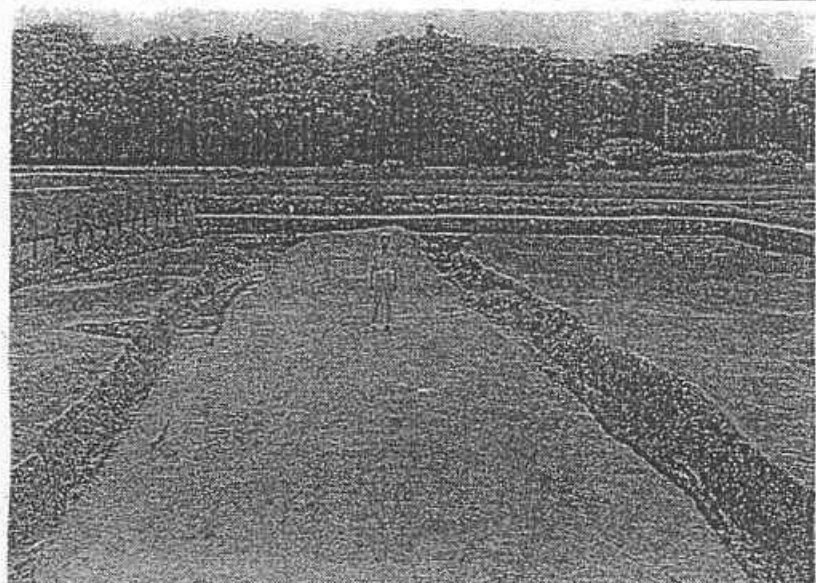
かと、詳細な考察を展開し、奈良時代の民俗の反映と受け止めている。

十年前に千葉市で講演された湯川秀樹博士は、周辺の古代遺跡の見学を希望された。県教育委員会の主催だったので、私が案内を命じられて、湯川博士をこの阿須波神社に案内し、古典考古学の一端と、阿須波神社を中心にした防人の歴史を説明して、実感してもらった思い出がある。(高橋在久)

# 市原条理制遺跡

## 側溝持つ古道跡発見

### 古東海道との関連高まる



市原条理制遺跡で発掘された古道跡。上方右が阿須波神社

県文化財センターが昭和六十三年から発掘調査を進めている市原市市原の「市原条理制遺跡」で道幅約五・五メートルの側溝を持った十世紀以前に造られたと思われる古代幹線道路の古道跡が見つかった。古道跡は市原市内では、同市山田橋の表通遺跡、同市五所の四反目遺跡（調査中）など三カ所で確認されている。この古道跡は、調査から全国各地で見ついている官道の造りに似ているため、今回の発見は古代に県内を通っていたとされる今までの「古東海道」との関連性も高まってきた。

市原条理制遺跡は、同市市原の国道二九七号近くの標高五メートル前後の沖積平野上に立地している。昭和六十三年一月に東関東千葉富津線の建設に伴い発掘調査を開始した。条理については、発掘以前に歴史地理学的調査から確認がされていたが、昭和四十一年に耕地整理で失われた。同遺跡調査では、一の坪と小字

の古道跡が検出された。規模は側溝の断面形が逆台形、幅は平均一・七二・五メートル。溝底面から道路面までの高さが約一・四メートル。溝面は東側（台地）から西側（海）に向けて少し低くなる傾向を示している。

道路面は、後世の水田耕作で削られ、道路開通当時の姿を失っていた。が、削られなかった一部からは灰緑色砂と黒色土の混土層が見られ、盛り土が行われ、比較的しっかりとした道であることが分かった。古道建設時期については、条理的土地区画の方向と合わないことや、条里開田期に近い一〇八〇年（天仁元年）の浅間山噴火の降灰を含んだ水田耕土が北側側溝の上にある点や側溝内の遺物などから「条里」より以前に造られたとしている。

今回の古道跡確認は、同遺跡西側約一・五キロの地点で市原市教委が行っている五所四反目遺跡での古道跡確認と併せてほぼ一直線に延びていることが分かり、市原市役所近くの表通遺跡の古道跡とも有機的に結ばれる可能性が高くなった。

この古道跡の付近には、ほ場整備以前には「おおみち」「なかみち」と呼ばれる道があり、飯倉岡八幡宮の祭礼儀式の柳橋神事（県指定文化財）が執り行われていた（現在は耕地整理後の道を通っている）。

また、古道跡の延長線上には万葉集に登場する阿須波神社があり、古道跡が市原周辺の主要道であった可能性が高いことを示している。

今回の発見は、今までのナソとされている古東海道を探る上で重要な手がかりになると思われる。

◆堀部昭夫県文化財センター調査部長の話「今の段階では古東海道とは断定できない。でも、なぜ湿地（当時）の中に大きな道路を造る必要があったのか、相当重要な道路であったことは間違いない」。

朝日新聞 7/21(土)





# 特別講演「古代の道」

## 1. 市原条里制遺跡検出の古道跡について

大谷 弘 幸

市原条里制遺跡は、市原市北西部に広がる標高約5mの沖積平野に位置し、南約1.5kmの台地上には上総国分寺・国分尼寺があります。本遺跡には、1960年代の圃場整備以前まで明瞭に条里的土地区画が残っており、上総国府所在地問題と相俟って古くから注目されていました。

調査は、東関東自動車道の建設に伴って行われ、1988年には試掘調査が、1988年～1989年には確認調査が実施され、現在本調査が進められています。今回は市原条里制遺跡のうち、市原地区で約50mに亘って検出された古道跡について紹介します。

この古道跡は、調査区を東側から西側に向けて横切っており、道幅は約5.5mで両側に側溝を持っています。側溝の断面形は逆台形を呈し、幅は平均で約2mありますが、南側の側溝は東に行くにしたがって広くなり、東端では約2.7mを測ります。溝底面から道路面までの高さは、約1.3mあります。側溝底面は東側(台地側)から西側(海岸)に向かって若干低くなる傾向があり、排水に便利のように造られています。このほか、北側側溝には北壁の一部に約2m×2.5mの突出部を持っており、その底面は側溝よりも幾分低くなっていますが用途などは明らかではありません。

道路面は、後世の水田耕作により削られ道路開通当時の面影は失われていますが、道路を造るに当たって盛り土を行ったことが断面観察により明らかになりました。盛り土の下はすぐに腐食土となり、道路が造られる以前は葦などが茂る湿地帯であったようです。このような土地条件のためか路肩の補強のために杭が打たれていました。また、その幅が約4.5m(15尺)あることから、実際に使用された道幅はこれ以下と推定されます。

現在までの調査では、この道路の築造年代は明らかではありませんが、条里的土地区画の方向に合わないことや側溝内の遺物から考えて条里に先行することは間違いなく、10世紀段階には北側側溝の機能は停止し廃絶へと向っていたものと思われまます。

市原市内では、このほか稲荷台遺跡G地点や山田橋表通遺跡、五所四反田遺跡でも幅約6mで側溝を持つ同規模の古道跡が検出され、地籍図や航空写真等の検討からこれらは南北を貫く一本の道として使用されていたと考えられます。また、当遺構の付近は圃場整備以前まで「オオミチ」または「ナカミチ」と称され、飯沼八幡宮の祭礼の一つである御橋神事が執り行われた所であったことや、この道跡の延長線上に『万葉集』に「庭中の阿須波の神に小柴さし香は新はむ帰る来までに」(巻二十 横丁若読部諸人)と歌われた阿須波神社があること、さらには全国で検出されている官道跡の多くが幅6m前後乃至12m前後で側溝を持つことなどを考え合わせると、この道は上総国の主要道(官道クラス)であった可能性は極めて高いといえます。



1. 飯沼八幡宮
2. 五所四反田遺跡
3. 光善寺廃寺
4. 阿須波神社
5. 郡本八幡宮
6. 府中日吉神社
7. 稲荷台遺跡G地点
8. 山田橋表通遺跡
9. 上総国分尼寺
10. 上総国分寺
11. 今富庵寺

市原条里制遺跡の位置と周辺の遺跡





# 室町時代の建築を継承

市原市市原の光善寺薬師堂内に保存されている厨子（ずし）と富津市鶴岡に現存する江戸時代の古民家を二十九日まで、東京文化財研究所の工学博士、伊藤延男教授が相次いで訪れ、詳しい鑑定を行った。市原市の建築士で、文化財の研究・保存に取り組んでいる瀧本平八氏らが昨年中に所在を確認、正式な鑑定を進めていたもので、共に当時を代表する優れた建築様式を残す貴重な建物と判明した。（関連記事15面）

## 古建築の伊藤教授が鑑定

光（広）善寺は国道297号の隣接地で、もともと広大な寺域を有した地域の中心地と推定されている。上総国分寺・同尼寺にも近く、本格的な発掘調査は行われていないものの国分寺より五十年ほど古い、奈良時代（七

### 市原市市原

世紀末〜八世紀初め）の世に建てられたものと推定されている。薬師堂は現在の寺院の隣接地に現存、何度も修復されているが、もともとは鎌倉から室町時代ごろに建てられたものとみられる。境内の石灯ろう

の一角は中心部が六角形で、市文化財審議委員の安藤登氏らの調査で室町時代の貴重なものと確認されている。

今回は本尊の薬師如来を安置する堂内の厨子が調査の対象となった。伊藤教授のほか瀧本、安藤両氏、市教委の担当者、

さらに管理する石川光盛住職、檀家関係者の立ち会いで行われた。同住職らによると年に一度、八月八日の縁日に開帳され

ており、伊藤教授は外観から内部、扇垂木（おおぎたるき）の屋根、細工が施された欄間、さらに厨子が置かれている須弥壇（しゆみだん）など細部にわたって調査。「室町時代の禅宗建築の様式を忠実に残している建物。ただ修復部分も多く、証拠となるようなものもないが、桃山時代のもではないか。いずれにしても室町の本格的な技法を残しており、大事に保存してもらいたい」と鑑定した。



厨子とともに本尊が安置されている光善寺の薬師堂。市原市市原



## 更級日記物語

市原の里々々々

## 遺跡の位置

光善寺廃寺は、西に東京湾をのぞむ北東に張り出した通称市原台地と呼ばれる洪積台の北端にある。標高は20 m前後、西には沖積地が広がり、約1.5 kmで東京湾に続く。周辺の台地は、小支谷によって開析され、北と東はこの支谷によって限られる。現在、光善寺と呼ばれる無住の寺があり、縁起によると建立者である「光善」という人名を寺名にしたとある。

## 周辺の遺跡

光善寺廃寺の北東約3 kmの村田川下流域に菊間古墳群、南西約6 kmには姉崎古墳群があり、菊間国造・上海上国造の支配地域の中心と考えられている。光善寺廃寺のある市原台地はこの中間地域に位置し、古墳は確認されていないが、むしろ、7世紀以降に重視された地域である。すなわち、南約1 kmの郡本八幡社には上総国分寺と同じ組成の大型礎石が使用され、古くから市原郡衙に推定されてきた。また、市原台地の東端にある、「古甲」「古光」「甲田」などの地名は、古国府や国府田の転化と考えられ、上総国府の推定地にされてきた。この地区の調査では、掘立柱建物、溝状遺構のほか、上総国分寺と同じ凸型一枚作りの平瓦・緑釉陶器・鈿帯などが検出されたが、積極的に国府を推定しうるものは発見されなかった。しかし、依然として国府推定地のひとつであることに変わりはない。光善寺廃寺の西150 mに、「万葉集」に詠われた「阿須波の神」と考えられている阿須波神社がある。この付近にも、上総国分寺と同じ方形埴や瓦が散布されている。さらに、この台地の中央を南北に走る古代官道があり、阿須波神社付近で西の沖積平野に続くことが確認されている。この沖積平野での官道跡は、中世国衙機構との関連で説かれている国府総社飯香岡八幡宮へ至る柳橋神事の通過道と一致するなど、古代・中世における重要地区として注目される(20-図1)。

## 発掘調査

光善寺廃寺は、1948(昭和23)年に早稲田大学によって市原台地の総合調査が実施されたころ、平野元三郎によって、上総国分寺や千草山廃寺と異なる軒先瓦が存在する遺跡として認識された。その後、大川清によって調査が行われ、凸面に布目痕を有する特異な平瓦が出土することで注目された。瓦が分布する範囲は、現光善寺境内を中心とした地域で、周辺地形と合わせ七堂伽藍を備えた寺院跡を想定することは困難である。境内地には、古くから麦飯石と称される石があるが、礎石は確認されていない。その後、大室晃によって新種の瓦が採集された。

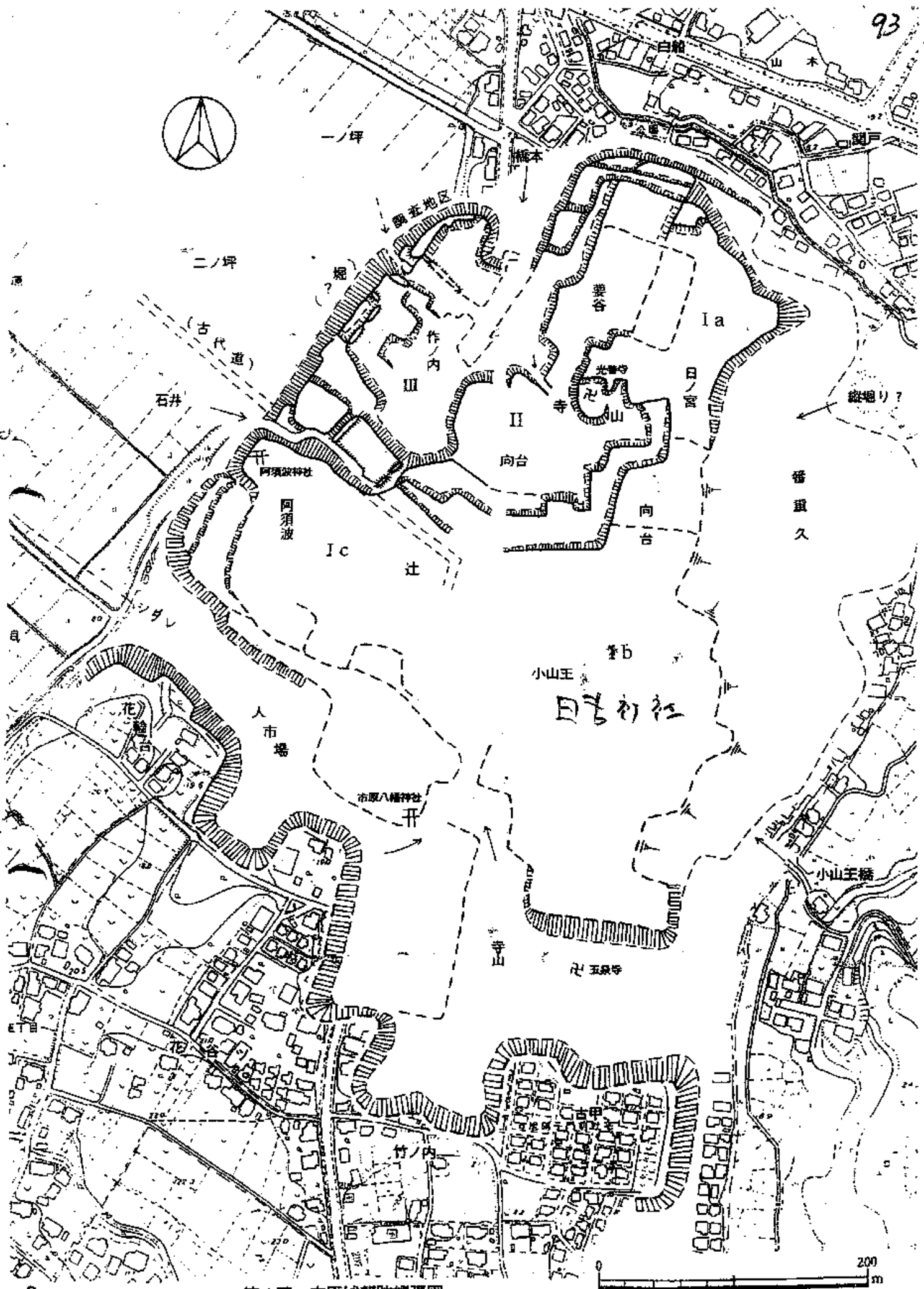
## 出土瓦

出土した瓦には軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・道具瓦などがあるが、文様瓦の范種が多いことと、凸面布目痕のある軒平瓦・平瓦が認められた点に特徴がある。

## まとめ

上総国の初期寺院は、上総大寺廃寺、成東町真行寺廃寺および二日市場廃寺の一部を除き、いずれも龍角寺式ないしはこの亜式をもって成立する。その成立の背後には、共通した基盤があったことを想定せざるを得ないであろう。しかし、個々の寺院の瓦を検討すると、龍角寺亜式とする瓦当文様もさまざまであり、光善寺廃寺でみられるような桶型内巻き作りの特殊な技法が採用されるなど、共通性と独自性が共存したところに特色がある。この光善寺廃寺は、市原郡内での成立時期や郡衙推定地との位置関係などから考慮すると、市原郡の郡名寺院としての性格が想定できる。この市原郡が、国段階の官衙や寺院の造営事業に対する協力関係をもったことを光善寺廃寺を通して直接的に知ることができるのは、8世紀第2四半期であろう。とくに、上総国分寺の創建期の窯は、南河原坂瓦窯、川焼瓦窯、神門瓦窯ともいずれも市原郡内にあり、同範の瓦当文様も市原郡内から外に流出することはなかった。上総国分寺造営寺の造瓦部門に、市原郡が主導権をもっていたことは間違いあるまい。こうした官の政策に対し積極的な協力関係をもった市原郡の郡名寺院が、ある時期定額寺に列したことは、室町初期の「覚園寺成神将胎内文書」にあるように、上総国分寺とともに公田支配を受けていたこととで想定できる。

(須田 勉)



第4図 市原城郭跡縄張り図



# 600年の伝統支える「司家」

## 市原・飯香岡八幡宮の「柳楯」神事

約六百年の伝統を誇る特殊な神事「柳楯(やなぎたて)神事」が市原市八幡の飯香岡八幡宮の秋の大祭で、今年も行われた。県無形民俗文化財に指定されている柳楯神事を支える柳楯司家の人々を通して、同神事をルポしてみた。(市原支局)

市原市のJR八幡駅の南東二丁の市原地区。毎年「柳楯」を調整する「柳楯司家」の森家がある。森敬一さん(こし)、森順史さん(のり)の二軒の司家が交代で調整する。「柳楯」は、ヤナギの小枝を右方十二本、左方十三本の計二十五本を縦に並べ、五本の青竹を横にして青楯で結んで編んだヤナギの楯。ヤナギ

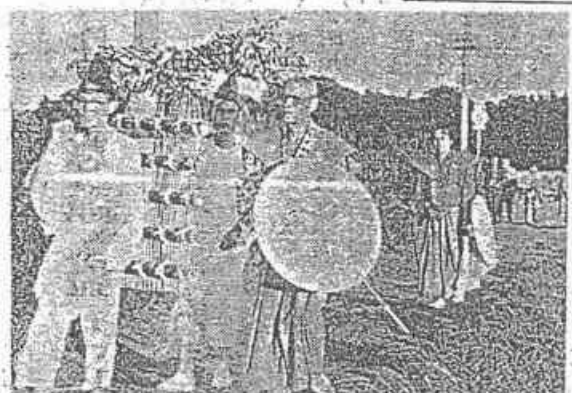


は神降置の霊木で八幡神が青竹を削り、五段に分けて結ぶ。武神であることから柳楯んでゆく。最近の出来上りか、神事が生まれたと伝承された柳楯は市原地区の区長の手で約七十から六十センチの間にまじらされた後、司家の

### 二軒の森家交代で 台風の日も休まず

森家当主、市原の氏字交代は二日目。午前八時すぎに五所地区の氏子の齋岡、カルサ、町役らに守られて柳楯が出発。途中で八幡地区の氏子らに迎えられ同神社に。雨も出発地の市原地区の地味から神社に近づくと、雨は華やいた祭り本来の雰囲気にあわってゆく。

「柳楯と「司家の森敬一さん(左)と森順史さん(右)」神社に到着した柳楯は、本



【五所へ通じる中道を行く市原地区の氏子一行】



【森家当主の森敬一さん(左)と森順史さん(右)】

月曜 わりど

いちばらのやなぎだてしんじ

# 市原の柳楯神事

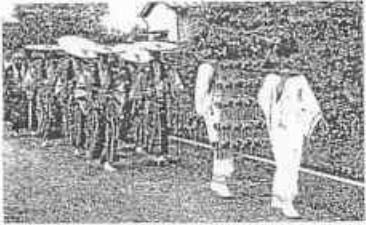
Yanagitate Shinto in Ichihara

MAP 下町形  
 所在地 市原、五所、八幡  
 祭日 毎年旧暦の8月15日  
 問い合わせ 0438-23-9853 (観光委員会)



市原の台地上から二日  
 がかりで運ばれる柳の楯

飯香岡八幡宮の秋季大祭にまつわる神事です。柳は神降臨のための霊木で、八幡神は武神であるため、柳で作った楯であるとの説もあります。楯は市原地区の司家が1年交代で調整しており、柳の小枝25本と青竹5本を使って毎年新調します。市原を出た楯は二日かかって飯香岡八幡宮へと到着し(右図参照)、そこから大祭が始まります。大祭では神輿を先導して町内を巡回し、その後本殿内に安置されます。翌年正月14日のドンドン焼きの際に焼かれます。



### 市原の柳楯神事 ルートマップ

- A-市原(伊弉諾宮)
- B-光善寺(出陣所)
- C-市原八幡(伊弉)
- D-阿須賀神社(拝礼、旗の折置)
- E-五所小学校校門(五所山道入)
- F-五所町北端(柳楯の成り立ち)
- G-五所橋(一ノ宮出陣)
- H-飯香岡八幡宮(秋季大祭)



市原の里スライド  
**更級日記物語**

# 光善寺石燈籠

これは2.03mで安山岩製。平面六角形の基礎、覆井小花付十二弁を刻む円形の基礎など、簡素ながら定感のある姿を示します。紀年銘はありません。寺域は湊水齋日神社(厚木市)の応永24年(1417)石灯籠に近いもので、室町時代前期の作とみられるため、県内の石灯籠では最も古いものです。火後補ですが、全体的に残りも良く、このような石灯籠は、関東地方では希少な存在です。

MAP P48 B-4  
 所在地 市原198-1  
 料金 自由  
 問い合わせ 0438-23-9853 (観光委員会)



交通  
 JR八幡宮駅から  
 山伏入口行き小滝バス  
 市原坂下車徒歩5分  
 駐車場  
 2台









平成24年度 辰巳公民館主催事業

# 市原の歴史(3回シリーズ)

講師 山越 国臣氏

目的：市原市民に歴史文化の薫る市原市の魅力を再認識し、  
郷土に対する地域の誇りを持つ。



## 第2回. バス研修旅行

平成24年10月 9日(火) 9:00~16:30

集合9:00 出発9:15

- ① 市原地区(光善寺、阿須波神社、市原八幡神社、他) (9:30~11:30)
- ~ 昼食(市原公民館) ~ (11:30~12:30)
- ② 飯香岡八幡宮 解説 山岸弘明氏 (13:00~14:00)
- ③ 埋蔵文化財調査センター (14:30~15:30)

## 第3回 上総国府と市原地区

日 時 平成24年10月19日(金) 9:30~11:30

場 所 辰巳公民館 研修室・会議室

持ち物 筆記用具

※欠席の場合、必ずご連絡ください。(連絡先 Tel.74-8521)

# よみがえるか戦国ロマン

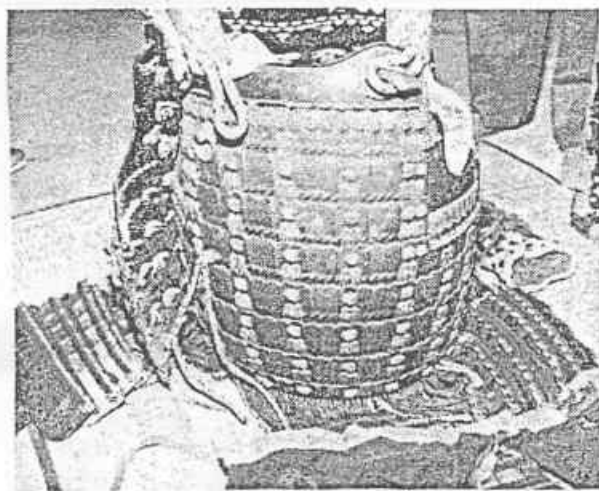
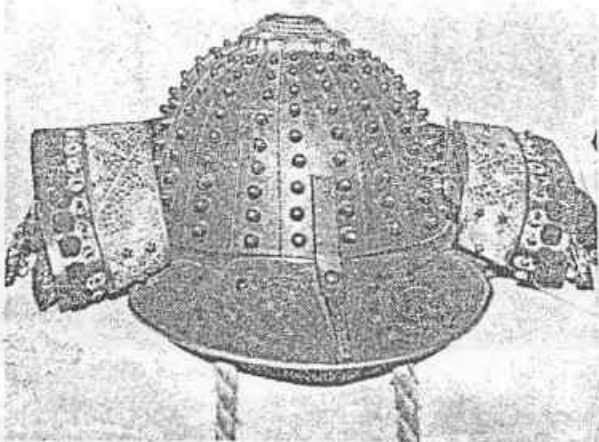
## 「源朝臣寄進」の墨書

もしかしたら、源頼朝などの武将が着用したものかもしれない。市原市八幡にある飯香岡八幡宮で発見された戦国時代の甲冑(かぶつ)は、考古学ファンの興奮を誘っている。鎧(よろい)、兜(かぶつ)には、刃物の傷や擦れの跡らしきものがあり、表裏で着用したものを奉納したものと思われる。現地に戦国ロマンをほうふつとさせる。

### 市原で発見の甲冑

### 保存良く完全な形で

甲冑は十一個の桐箱に詰め込まれていた。市川宮司が、同神社の宝物を整理していた



飯香岡八幡宮から発見された兜(上)と鎧

たまたま発見した。文化財関係者の話では、「頭巾(ずきん)、星型の兜、鎧にもさまざまな特徴があり、鎌倉時代・室町時代にかけてのもの」と推定されるという。事実、「文治五年西八月十五日」(大將源朝臣寄進)という墨書も残されていた。当時としては木綿を使って作られた鎧(しころ)・兜の首筋をおおう布(もろほろ)になることなく、ほぼ完全な形で残っていた。

市川宮司の話では、同神社の宝物は江戸時代末期と昭和六年に、虫干しした記録が残っており、「鎧(しころ)のつづの袋もあるところから、保管が行き届いていたため、現代まで長持ちしていたのではない。昔から、宝物には手を付けるな」といわれており、もちろん、このような歴史的なものが眠っているとは知らなかったと語っている。

同神社は勧請(しょう)以来、国司をはじめ、東國ゆかりの深い源、千葉、足利、徳川などから厚い崇敬を受けてきた。現在も庶民から遺産興業、子育ての神として広く信仰されている。また、中秋の名月に開催される秋期大祭には、鎌倉時代から約六百年の歴史を持つ全面でも珍しい

「柳事(やなぎたて)神事」  
 〓 泉無形民俗文化財〓が行われることで知られている。  
 今回の見定めから燦りょうの火のように願野を駆けめぐる武將の勇姿がしのばれ、氏子総代の間でも、「また一つ神社に自慢の宝物ができた。専門家の正式鑑定に期待したい」という喜びの声があがっている。

3/22(木) 千葉日報

# 北斎の同門絵師らの力作



原色に近い状態で元の形で見えられた僅残りの絵師。一編引

## 絵馬4枚完全な形で

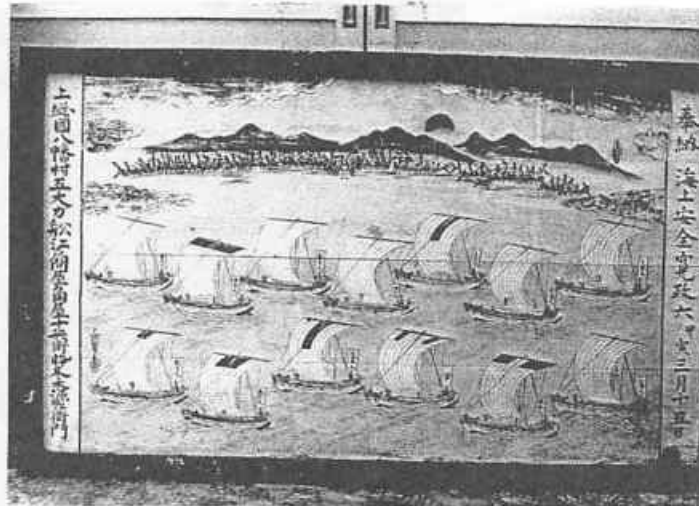
市原の八幡宮

江戸時代の代表的な浮世絵師・葛飾北斎が筆法を学んだ鳥居清満が描いた絵馬が、市原市の飯巻岡八幡宮（市川教生吉司）で見つかり、二百まで江戸世絵や絵馬に詳しい船山市の鎌立安房博物館の石村文亮館長によって鑑定された。うち四枚は、原色をとどめた完全な形で、美術的価値は高く、北斎と本町の関係を調べるうえでも貴重なものとみられている。

## 往時の原色とどめる

### ズシリ大型 他に16枚も

発見された絵馬は、全部 原色をとどめた完全な形で、周囲の紙で非常に 20枚。縦九五センチ、横 一六〇センチの大絵馬と呼ばれ るもの。 今月中旬ごろ、同八幡宮 境内の土蔵の改築のため市 川高岡が土蔵内を整理して いて見つけた。絵馬は十歳 の頃の壁に立てかけよう として、めったとい 二年（一八〇二）、北斎の 兄弟弟子の等舟（せいぶね）と 呼ばれる絵師が、北斎の筆法を 学んだこと知られる。近頃、 一編引（ひとひら）と 呼ばれる絵師のた



上段、松村五文の松江御祭舟屋土前也大渡舟門

奉納海上安全御祝六、三月十五日



等舟

原色に近い状態で元の形で見えられた僅残りの絵師。一編引

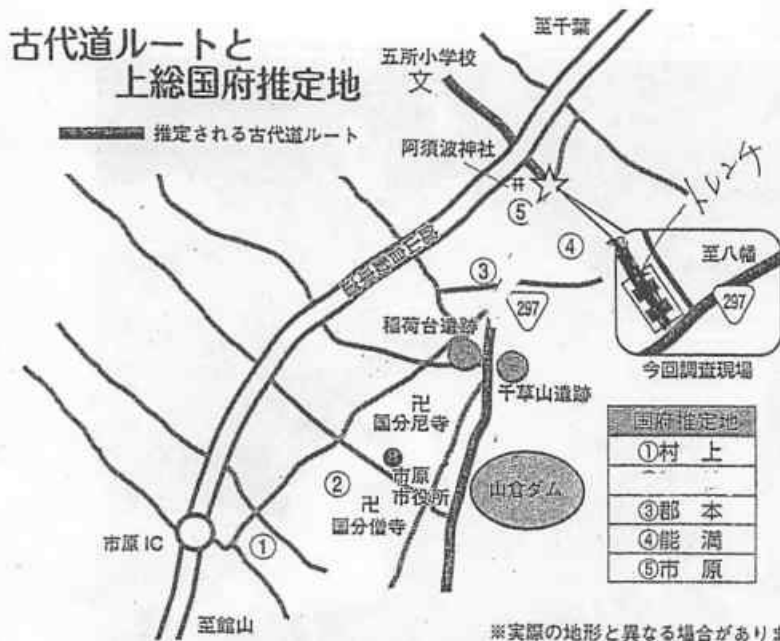


# 推定ルート。の延長線上に

市原市で見つかった2本の「溝」は年代、その性格など詳細は不明だが、既に見つかっている海側と山側の古代道跡をつなぐ「道」である可能性が高いとみられる。小さな発見ながら、諸説ある上総国府の特定に一石を投じるなど、歴史ファンに興味をくすぐりそうだ。(本記1面)

## 市原で発見の幅6メートルの溝

溝が発見されたのは同市した確認調査で同じ敷地の市原地先。民家の新築に伴地中2カ所から見つかった。市教委が10日から実施した。幅は約6メートル。



※実際の地形と異なる場合があります

# 「上総国府」特定に一石

奈良、平安時代に存在したとされる上総国府の、現在の県庁に当たる国府が市内に置かれていたとされ、その所在地をめぐってはさまざまな議論がある(地図・**○**上総国府推定地とは参照)。今回の現場(地図・**☆**)は国府推定地の一つの市原地区内(地図**⑤**)だ。

同地区が推定地とされる主な理由は地区内を縦断する「道」。古代において道は中央政府の命令などの情報やヒト、モノを運ぶ最重要施設。過去の調査では、海側(五所小学校)から同地区に向かう、幅約6メートルに側溝がついた古代道跡が見つかった。

海沿いの古代東海道と国府推定地(地図**○**)は、**③**郡本には「古国府」に通じ、**④**能満は「府中」日吉神社が存在する。**⑤**市原は縦断する古代道の存在から、ただし国府は、時代や政治の変遷とともに複数地点を移動した可能性もあるという。



今回見つかった台地上の溝につながる可能性のある台地への道。道を上がると阿須波神社がある=市原市市原

府を結びとみられるこの古道の道は、「万葉集」にも記載がある同地区の阿須波神社などと、八幡地区の飯香岡八幡宮を結び、柳楯神社(具無形民俗文化財)のルートでもある。いかに重要な道だったかが分かる。今回の「溝」は、幅がこれら古道跡と一致。今回現地の調査は、溝の築造年代や、溝が本道に道であるかなど詳細な調査が必要で、しかも年代確定は難しい作業。担当する同市埋蔵文化財調査センターは「溝は途切れていた台地上の、上総国府と関係の強い古代道跡である可能性はあるが、今はまだルート上の史料が増えたという段階」と慎重な見方を示している。

平成24年度 辰巳公民館主催事業

# 市原の歴史(3回シリーズ)

講師 山越 国臣氏

目的：市原市民に歴史文化の薫る市原市の魅力を再認識し、  
郷土に対する地域の誇りを持つ。



## 第3回. 地元学「市原を知ろう！」

平成24年10月19日(金) 9:30~11:30

I部 市原と上総国府

II部 市原市の50歳にジンジャーエール(神社から応援)で乾杯

# 地元学「市原を知ろう！」

平成24年10月19日

市原市立辰巳公民館歴史講座

## I部 市原と上総国府

### (一) 国府とは

●律令時代の地方行政組織で中央政府の出先機関。全国60余国に行政区が置かれた。国庁（現代の県庁か）の所在地が国府と呼ばれている。その重要度によって大国、上国、中国、下国の4ランクに分けられていた。国府域内に国から派遣された国司（守、介）が政務をつかさどる政庁、国司館、正倉などが配置された。発掘された政庁跡の共通点は周囲を溝や堀で区画、南に門を開き、正殿を正面北により置き、脇殿をコの字型に配した建物配置になっているのが特徴。県内には上総のほかには下総、安房の3国があった。

上総は大国で親王任国で格が上だった。歴代の国司には、万葉歌人で万葉集を編さんした大伴家持、東大寺大仏の建立に貢献した百濟王（くだらのおにきし）敬福、古代文学の「更級日記」の作者の父親である菅原孝標などの名前が見える。上総国府の解明は地方行政統括の重要拠点としての位置（規模など）、更級日記の中の記述の整合性を知る上でも一級の史料となる。

### (二) 上総国府跡を探る現況

●現在は考古学的に発掘状況から有力視されていた惣者説は消えた。

古代道の発掘から稲荷台遺跡がある山田橋地区から阿須波神社、光善寺廃寺（現光善寺）がある市原地区を含めた市原台地上が国府城ではないかと考えられている。中世国府は能満地区にあったらしい。また村上説は残されている。

●市原地区があやしい。最近の発掘調査から市原説（政庁など）が注目されている。

●行政組織どうして葛藤。

まぼろしの上総国府の解明をしたい現場。ロマンのままにしたい市長部局。地道な努力をしいる現場の学芸員の夢を実現させたい。

### (三) 京都にも「市原」があった！

●歴史は市原市の方が古いようだ。市原市とのつながりを探したが、足利義満がからんでいた。「至徳」の年号がカギを握っていた。

### (四) ●国府は平安末期から鎌倉、室町と中世を通じて大きく変動した。

八幡宮、山王様、光善寺など主だった寺社は集団移転した？。武家政権が市原台地にクサビを入れた可能性がある。



## II部 市原市の50歳にジンジャーエール（神社から応援）で乾杯

●温故知新。市原市には220ヵ所以上の神社がある。小さな祠などを含めるとそれこそ八百神（やおよろず）。

●まつりの言われは「待つこと」。ケ（日常）ーケーハレ（まつり）ーケの循環性。ケばかりが続くとケガレ（ケ枯れる）てしまう。そのためにハレの日が必要で待つことが大事になってくる。ケは食物・御食（ミケ）に通じて、人間の生命力を表しているという。

●昔の国分寺台をふりかえる

●遠くへ行かなくても、見どころは満載。近くの神社へ出かけて見よう。

### 辰巳台地区

- ① 辰巳合神社。辰巳台周辺の神社を合詞していると思われる。
- ② 駒形神社。大厩（おおうまや）にある。馬に関係する神社で市内に唯一。祭神ウケモチノミコトほか4柱。
- ③ 白幡神社。山木地区の産土（うぶすな）神社で祭神はホムダワケノミコト。境内神社・道祖神社
- ④ 府中日吉神社。能満地区にあり通称能満神社と呼ばれている。祭神はオオヤマクイノカミノミコト。本殿は県有形文化財。こま犬に代わってサルが守護。

### 国分寺台地区

- ① 八幡神社。郡本地区にあり、祭神はホムダワケノミコト。境内社は子安神社。出羽三山神社、稲荷神社、大宮神社。元和7年8月（1621）に社殿改築。この際に領主の命によって郡本、藤井、門前、西野谷の4ヶ村の鎮守となる。土台の石が異常に大きく、市原郡衙の礎石ではと言われている。石質は国分寺僧寺の礎石と同じ。
- ② 稲荷神社。山田橋地区にある稲荷台遺跡群の名称のもととなる。境内神社は出羽三山神社、ほうそう神社、子安神社。初午祭典後にほうき草の芽を食べる慣習がある。
- ③ 前広神社。西広地区にあり祭神はオオヤマズミノミコト。鎮座年代は未詳だが、「三大実録」に清和天皇貞観10年（868）に正六位上を前広神社へ授くとある。
- ④ 諏訪神社。通称「すわさま」。村上地区の産土神。祭神はタケミナカタノミコトとヤサカトメノミカト。
- ⑤ 戸隠神社。通称「とがくしさま」。惣社地区にあり祭神はオモイカネノミコト、アメノタヂカラオノミコト、オモハルノミコト。扁額には「総社」とある。
- ⑥ 根田神社。根田地区にあり祭神はアメノコヤネノミコト、スサノオノミコト、オオヒルメムチノミコト、ツキヨミノミコト。旧社名を苗鹿神社と称し宝永2年（1705）に再建。
- ⑦ 加茂神社。加茂地区の産土神。祭神はカモワケイカズチノカミ。境内社は道祖神社、八幡神社、子安神社。
- ⑧ 岩野見神社。岩野見地区の産土神。祭神はミズハノメノミコト。神社の扁額には水神社とあり、水を司る神か。名前の通り神社は低温地にある。 【市原里づくりの会 山越国臣】

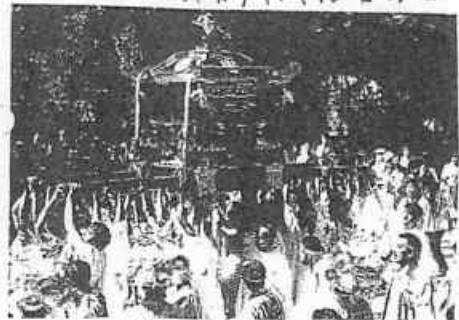


**飯香岡八幡宮本殿**

武運長久の神住まう荘厳な社



飯香岡八幡宮社



秋の大祭

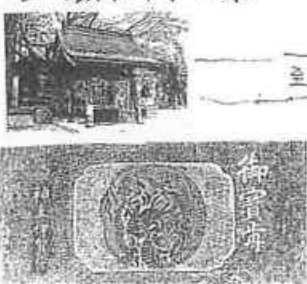


**市原の柳楯神事**

市原の台地上から二日  
がかりで運ばれる柳の楯

飯香岡八幡宮の行事大目玉は「柳楯神事」です。柳楯は神事のために用意された、八幡神に奉納する柳の楯で、楯の中心には八幡神の御神体があります。柳楯は市原町の町屋が1日交代で製作して、朝の早い時刻から夕方まで、市原の台地上から二日かけて飯香岡八幡宮へ運ばれます。本殿では柳楯を奉納して、境内を巡ります。その後は境内に安置されます。毎年正月15日の「どんど焼き」に焼かれます。

**市内最古の清水鉢**



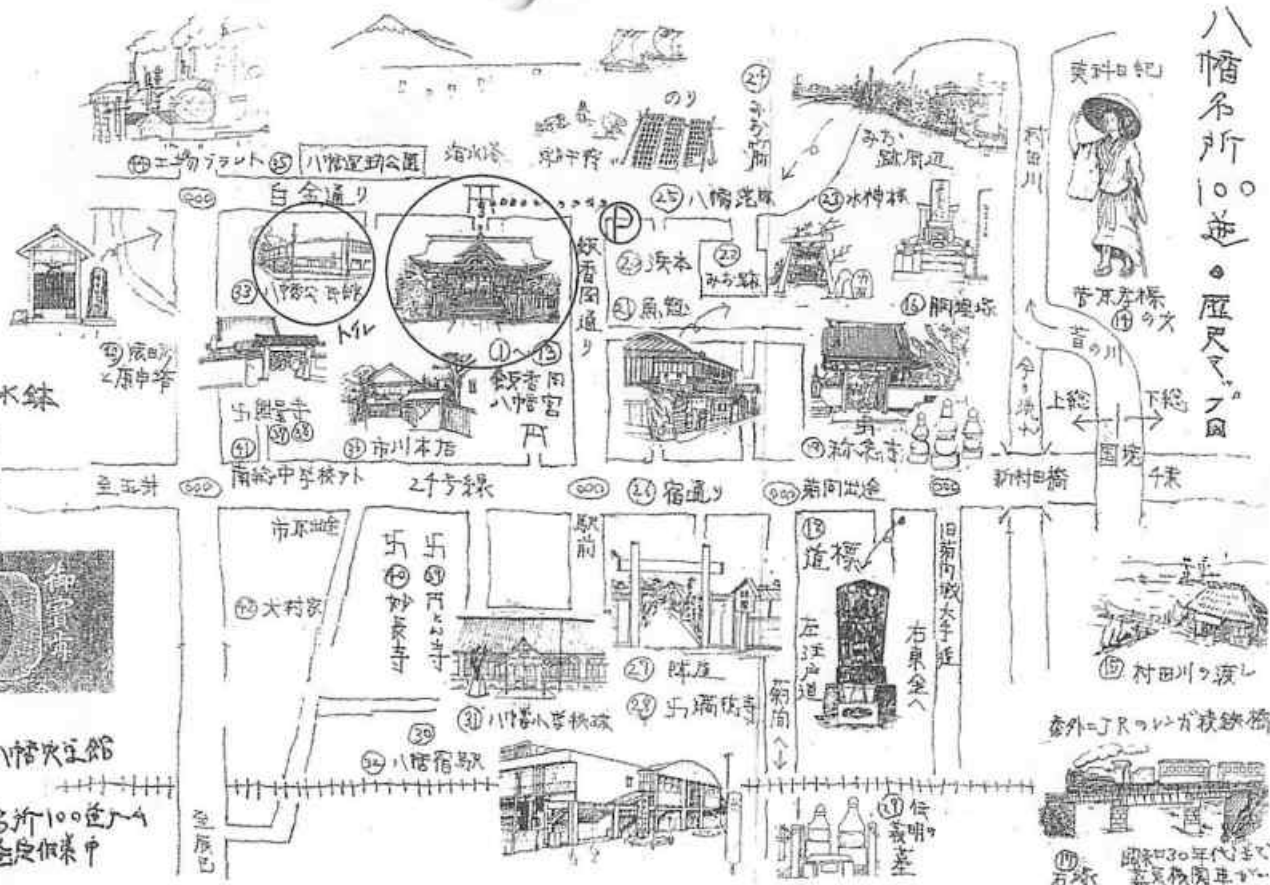
**八幡火立館  
名所100選へ  
選定中**



放生地



夫婦いさむら



八幡名所100選・歴史マップ

**辰巳公民館主催事業**

「市原の歴史」第2回バス研修資料 ②飯香岡八幡宮  
歴史ロマン「市原の里」と「柳楯神事」で結ぶ  
国府総社

平成24-10-9 担当 山岸弘明

第1番 飯香岡八幡宮社(本殿、重文、拝殿は県指定文化財)  
「八幡」の地名となった鎮守の神。自ら「国府八幡宮」として創建された。う。はじめ国府近くで誕生、現地の転時期は室町中期で鎌倉時代に逆し能性もある。  
第2番 夫木神社(県指定文化財)  
第3番 飯香岡八幡宮創建の記念神社。天香動使按察町中納言手触とてい、根平二股に分かれて相対していることか産子育てのシンボル「夫婦いさむら」して親しまれている。  
かたわらの物使記念碑は「君がためかたわらえし銀杏樹(ちちのき)に世経んとも神宿らん」、日本武尊来する飯香岡地名碑は「御影山神でいに飯香岡むかしをかけて世いけり」を刻んでい。  
第3番 逆さむら  
当社神木。伝承によれば、治承4年をめぐす頼朝が飯香岡神社に立ち寄いちようの枝を逆さに植えて「もしすることあれば源氏の勝利間違いなと戦勝を祈願した。」  
第4番 佐足利義満進みこしと奉大太刀(宝蔵庫、市指定)  
徳川幕府創設期の重臣・本多正純がの役に出陣する家康の武運長久を祈った太刀。室町中期製みこし、五太夫大太刀。当世具足などを収蔵して、毎年3月15日に一般公開される。  
第5番 放生池と清見の滝  
放生は八幡宮の創設神事で、殺生を止めるため生物を放つこと。秋の例として海に放生した神事を継承している。  
第6番 江戸中期石灯ろう2基  
八幡宮地区最古の石灯ろう。右は承平年、生国和州、杉井基七郎内膳兵衛、は元禄4年、杉井三左衛門常政を刻、江戸中期八幡の商人が寄進。  
第7番 手水鉢と水屋  
手水鉢は寛文2年建立で市内最古。やりに使った古い形式が残る。八幡住い名主や有力者が通なり、水屋天井は応2年の棟札が下がる。  
第8番 菅野権作像  
明治40年、昭和56年。戦後没途期の郷民興や海岸埋め立てによる工場誘致などに貢献した八幡地区発展の功労者。民初代町長、県議、参議院議員を勤めた第9番 川上南洞像  
文久元年、昭和9年。私財を投げうって南洞学校を創設、多くの人材を送り出した。地域教育の父。  
第10番 八幡五所漁業協同組合解散碑  
真が提唱した八幡海岸埋め立てに同意したことを記す地元漁協の記念碑。「文」伝承の漁業権を放棄、組合もまた(中)伝統と歴史を閉じ昭和34年7月31日をって解散することになった。  
第11番 直木賞作家・立野信之文学碑  
立野は五井の平田生まれで八幡の南洞学校に学んだ。散策の地八幡宮境内は「初恋の森」、碑は「ある日」初夏の「あやかな日だった」で始まる半自叙伝「初」の一節を記す。





歴 史 講 座 資 料

『戦前の八幡を老舗から探る』

講師 佐 倉 東 雄

平成24年3月24日(土)

市原市立中央図書館

千葉県八幡町梗概

省線八幡宿駅は、両国駅より二十九哩二分（一時間三十四分）千葉駅より三。目にして内湾に臨み遠浅にして水清く美に安全第一なる海水浴場也又広大なるグラウンドと男女別のプールを設け物価低廉人情敦厚にして理想の避暑遊樂地たり。又、駅前より本通りへは商賈軒を並べ頗る殷富を極む。

当町には眞社飯香岡八幡神社あり、無量寺境内には千葉康胤の墓あり、物産は乾海苔醬油を主とす。

飯香岡

御神徳略記

八幡宮

飯香岡八幡宮は、人皇四十六代孝謙天皇の御宇天平宝字三年六月勅命を以て、敵国降伏を願鎮護の爲め上総国放生の地に異くも菅田別尊の神靈を齋ひまつらせ国府八幡宮と稱へまつれり、かくもめでたくまします以上此国の惣社をも兼ね、また国内の諸神をも合せ祀りければ朝廷においても当八幡大神をも他にまさりて深く御崇教あらせられ、国守親王を以て敵かみまつりを行せられしは世にたゞいなき事にていまわくも史に徴して明かにぞありける。赫々たる御神靈は、文武三宸を守護り賜いければ、我々国民誰か恩徳を承らざるものあらん。かくもひければ我々国民誰か恩徳を蒙らざるものあらん。かくも大稜威の顯顯なるより、源頼光、源頼義、源義家、源頼朝、足利義満、足利義政、足利義昭、徳川家康の諸公におけるも信仰浅からず、思召され事ある毎に新誓をかけ御神徳を蒙りたりき（こは御冥助報賽して奉たるを宝物の多きを見れば明かなり）又、農商工に至りては、朝な夕なを御社に詣て天恵を承りて産業の日に月に繁栄に起ると共に子孫の長久のなるものもかわる事なくますます多きを加うるは信者みずからも亦よく知らる々処なり。されど世の人のいまだ大稜威のほどを知り侍らぬものもあらんかとおもわれるれば、續に畏き事にしあれど動しみて敬いて其のあらましを写し奉るになん。

○こは往古天平宝字三年六月、此国に此神社を建ててされし時、季満御勅使に渡らせ給い自ら銀杏樹を植えて詠みし給いし歌なり。

君が為けふ植へそへし銀杏樹にいくよへぬとも神やどるらむ（但し周囲、三十五尺余）

○往古より、釘付の松と稱し境内の南方にあり。周囲十五尺有余の古松にして右銀杏樹と共に世に知らる。

従一位勲一等建通公御歌に

御影山神のめでにし飯香岡むかしをかけて世ににほひけり

此外あまたの碑あれど省く。

○明治四十二年九月二十七日、陸軍省より本社へ御献納の戦利品左の如し。

二十口徑七珊加農砲 一門

魚形水雷 一箇

二十口徑七珊加農砲履歷

同火砲は、三十七八年戦役に旅順要塞背面砲台に備え付けられ、専ら松樹山、椅子山、堡壘の別防をなし、水師官方面よりする我第一団へ多大の損害を興えしものにして、明治三十八年一月二日、同要塞開城と同時に我占領軍、御齒獲する処となる。

此砲は、該要塞備砲中、同砲六門ありしもの一つなり。

新年祭

二月二十日

本宮大祭

旧八月十五日

新嘗祭

十一月二十六日

元和二丙辰年正月社月彼

安永六丁酉二年八月 再版

明治三十四年三月 三版

明治三十七年三月 四版

明治四十年三月 五版

明治四十一年十一月 六版

明治四十一年一月 七版

明治四十一年三月 八版

明治四十一年十一月 九版

大正十三年五月 十版









商標 魚目



肥米 投商 青木義次郎

小川衛

商標 魚目

青木吉兵衛

東屋

鈴木盛一



余木口製油所

余印胡麻油 余印花生油 余印桐油 余印菜種油



四松月堂菓子舗

創設明治十七年

商標 登録



長中 小中 大新

堂生上川

の上車働自  
ウコイバ哇布

長院病本倉



鮮魚 水同店

魚虎商店



丸太吉

鈴木長藏商店

石井商店



多岐 加藤三郎

第九十八銀行

八幡支店

今井呉服店

千葉合同銀行

寺島醫院

芳

杉井支店

白鳥本店

手宗 奈良屋



八幡定額

柏川上精米所

松岡田屋商店

丸山真館

米穀商 小倉 敬

丸山真館



市川本店

造釀介敬木鈴

市川本店

買仲類酒造製味油備

泉

鈴木和泉

倉山長酒店

八幡定額

市川本店



明治三十七年九月二十二日、千葉文庫発行本部及び房総通覧発行本部から「百家名鑑」が発売になる。いまでいう紳士録である。千葉県内を網羅しているが、おもしろいから八幡町の部分資料として載せることとする。医師を衛生家と目い、郵便局長を郵便家と併せている。俳句や和歌を作る人は風流家として紹介されている。ほかの町村であるが、養快家・財政家・政治家・兵事家・交際家・由緒家等もある。こうなるとなかなか分らない。商標等を見るのもなかなか楽しいものだ。

〔市原郡八幡〕

◎政治家

- 市原郡長 介川 常保(八幡町八幡)
- 八幡町長 林 不美男(全町八幡)
- 八幡町助役 野城 友蔵(全町山木九三五)
- ◎神職家
- 市川 邦道(全町一〇九七)
- ◎吉野櫻古
- 吉野山高根の花かん奉らはいに志むかしをきかましものを

◎宗教家

- 新築真言宗豊山派 無量山明照院
- 東條 昌隆(全町五所一五五〇)
- 全町八幡
- 稱念等 本橋 敏禪
- ◎衛生家
- 東條 良平(號福石・全町山木六四四)
- 東條綱院長 前衆議員々々
- 倉本豊隆 渡邊 武(醫士・全町八幡一〇四七)
- 農業者 食糧製造販賣

◎三市川 本店(全町八幡一〇三七)

- 醬油醸造業 酒類仲買商
- 陣 屋 鈴 木 卓 爾(全町一三六六)
- 醬油醸造業 糸岡仲買商
- 小川 屋 小川 倉吉(全町八幡)
- 醬油醸造業 絲岡仲買商
- 全 菊 地 嶺太郎(全町五所一五二九)
- 酒類販物一式 稻坂製造販賣
- 全 木 口 慶三郎(全町八幡一五四六)
- 八幡製油所主 米穀新販商組合 機械製油内地輸出販賣

◎會 吉 岡 勝五郎(全町八幡)

- 佃業 海苔佃業、初子キリ、梅神漬、蛤ヤハタ煮、右各種塩詰贈付梅詰
- 突 玉川佃業店 大野 延 翁(全町八幡四二)
- 第二回水産博覧會審査員
- 佃業製造卸小賣
- ◎商業家
- 洋服、本物、編織傘、唐物品、各種大販賣

◎今井屋商店 今 井 宗 平(全町八幡一三三六)

- 洋服唐物類
- 鈴木 一 監(全町八幡一三〇七)
- 度量衡器販賣修復、陶器漆器雜貨各類、八幡町會議員

◎村 田 植太郎(全町一三六五)

- 度量衡器、漆器陶器、荒物砂紙
- ◎福島商店 福 嶋 定 平(全町八幡一三七〇)
- 萬錦漆刃物銃丸ペンキ類、農機器具荒物大工道具
- 友 和泉屋本店 米 澤 喜三郎(全 八幡一三六六)

◎生々堂 川上 規矩(全町一三四九)

- 薬剤師 諸大醫處方調剤所 薬種類各種ラムネ製造
- ◎隣 通 家
- 全町八幡一一九三
- 八幡町郵便局長 川上規矩
- ◎太神丸 永野善五郎(全町八幡一一九三)
- 運送業
- 米袋、薪炭、食塩、石灰、鰹灰、布海草、角又、赤罌土、セメント、土管、竹材、木材、石灰、煉瓦石、右販賣
- 内國通運株式会社代理店・財産火災保險株式会社代理店

◎廣 瀬 徳 治(全町)

- 今井源藏(全町五所一四九四)
- 今井木次郎(全町五所一七四六)
- ◎農商業製造家
- ◎織 滑 澆野清蔵(全町八幡九六五)
- 清水 徳 次 郎(全町五所一八七〇)
- 小倉商店 小 倉 具 藏(全町八幡九七三)
- 米穀新販商

◎米 屋 今 井 伊 之 吉(全町八幡九六一)

- 米穀新販仲買商、人造過燻酸肥料商
- 列 建 具 屋 鈴 木 秋 太郎(全町一三二)
- 米穀新販肥料仲買商
- ◎家 板 屋 鈴 木 治郎吉(全町八幡一三二五)
- 米穀新販商馬騮仲買、質屋營業、石油發動機織機米
- 所
- ◎岩田商店 岩 田 長 吉(全町八幡一三三三)
- 米穀肥料新販仲買、各國煙草雜貨精米所
- ◎米 海 榮次郎(全町八幡一六一三)
- 米穀新販肥料仲買
- 石 井 徳太郎(全町一三三九)
- 米穀新販石油運草

◎川 上 房 吉(全町八幡一五四六)

- 米穀新販商、仁壽生命保險會資會社代理店
- ◎竹内商店 竹 内 辨蔵(全町八幡小學校前)
- 特許有益改良農具一式大販賣、機業用具製糸器械各類、其他 荒物類馬糞一切
- ◎織田商店 織 田 龜治郎(全町八幡一九六)
- 帽子編織傘化粧品、和洋小用物和洋織物、學校用品各種
- ◎木 村 屋 木 村 兼太郎(全町八幡一三八六)
- 紙砂糖乾物、荒物雜貨商
- ◎萬 屋 萩 原 昇 吉
- ◎休 泊 所
- 東 屋 宮 吉 長五郎(全町九八六)
- 御旅館